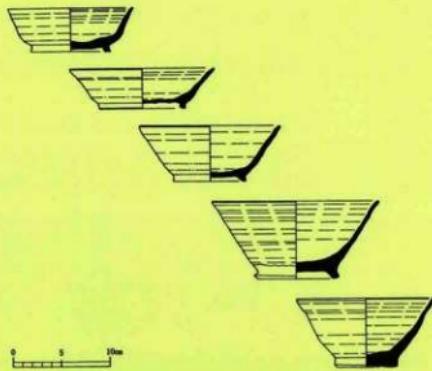


し た む ら よ う せ き ぐ ん
下 村 窯 跡 群 報 告 書 Ⅱ

〈 遺 物 編 〉



2008

宮 崎 市 教 育 委 員 会

したむらようせきぐん
下村窯跡群報告書Ⅱ

（遺物編）

2008

宮崎市教育委員会

序

本書は、宮崎市佐土原町東上那珂におけるゴルフ場建設に伴い、旧佐土原町教育委員会が平成3・4年度に発掘調査を実施した、下村窯跡群の発掘調査報告書です。

下村窯跡群は、古代須恵器、瓦の窯跡です。県下において、現在までに発見されている古代窯はわずかに4例だけであり、その中でも本遺跡は大規模調査が実施された唯一の例です。近年、調査が行われている日向国分寺では、下村窯で作られたと思われる瓦も出土しており、古代史研究や地域の歴史復元における本遺跡の重要性は、改めて言うまでもありません。

本遺跡の報告書は、旧佐土原町教育委員会より、〈概要報告書〉、〈基礎資料編〉の2冊が刊行されています。平成18年の合併により、今回、宮崎市教育委員会として〈遺物編〉の刊行を行います。

諸般の事情により、10年以上もの長きにわたり報告書を刊行することができませんでした。玉稿をたまわりました宮崎県埋蔵文化財センターの長津宗重氏をはじめ、特別調査員として調査指導にあたっていただいた諸先生方、関係諸氏には大変なご迷惑をおかけいたしました。深くお詫び申し上げます。今回の報告書において、その責の一端を果たすことができればと思います。

平成20年3月

宮崎市教育委員会
教育長 田原健二

例　　言

1. 本書は旧佐土原町教育委員会（現宮崎市教育委員会）が平成3・4年度に実施した下村窯跡群の発掘調査報告書である。
2. 本書で報告する下村窯跡群の発掘調査は、佐土原町文化財調査報告書第7集「下村窯跡概要報告書Ⅰ」（1992年発行）、佐土原町文化財調査報告書第10集「下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉」（1996年発行）として、過去2度にわたり報告を行っている。本書は「下村窯跡群報告書Ⅱ〈遺物編〉」として、上記2冊において未報告であった資料の報告を中心に行う。
3. 現地調査は、平成3年7月1日～平成4年9月18日の期間実施した。また本書を刊行するにあたり、新たに、須恵器資料の整理作業を平成19年6月1日～平成20年1月31日の期間実施した。
4. 調査組織

（現地調査）（平成3・4年度）

調査主体 佐土原町教育委員会

調査総括	社会教育課長	寺坂 正紘（平成3年度）
	"	開屋紀久男（平成4年度）
	社会教育課長補佐	斎藤 成實
調査事務	主 幹	開谷 文子
調査担当	主 事	木村 明史
調査指導	宮崎県文化課 主 査	北郷 泰道
	"	長津 宗重

（整理作業）（平成20年度）

調査主体 宮崎市教育委員会

調査総括	文化振興課長	野田 清孝
	主幹兼文化財係長	山田 典嗣
調査事務	主任 主事	吉永 大介
整理担当	主任 技師	竹中 克繁
補助員	嘱 托	安藤 五月
	"	稻元久美子
	"	徳丸 理奈
	"	永友加奈子

5. 掲載した図面・表・図版の作成は、木村、長津、竹中、安藤、稻元、徳丸、永友が行った。
6. 「第Ⅲ章 第3節(1)瓦の分類」の項は、「下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉」（1996年）所収の同文を一部改編し、再録したものである。
7. 本書の執筆・編集は竹中が行った（上記「第Ⅲ章 第3節」を除く）。
8. 出土遺物および掲載図面・写真等は宮崎市教育委員会で保管している。資料の閲覧・利用等に関しては、事前に宮崎市教育委員会までお問い合わせいただきたい。

本文目次

第Ⅰ章 遺跡の位置と環境	
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第Ⅱ章 調査経過	
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査対象範囲と調査経過	3
第Ⅲ章 調査成果	
第1節 調査成果の概略	5
第2節 須恵器	5
第3節 瓦	13
第Ⅳ章 考察 下村窯跡の須恵器編年	70
第Ⅴ章 まとめ	75

挿図目次

第1図 下村窯跡群および周辺主要遺跡位置図	2
第2図 下村窯跡群地形図	4
第3図 調査区配置図	4
第4~10図 出土須恵器①~⑦	6~12
第11~44図 出土瓦①~	18~51
第45図 下村窯跡出土須恵器編年図	73

表目次

表1~11 遺物観察表（須恵器）①~⑪	52~62
表12~18 遺物観察表（瓦）①~⑦	63~69
表19 楕の属性と分類	71
表20 坏の属性と分類	71

表21 蓋の属性と分類	71
表22 壺の属性と分類	71
表23 長胴壺の属性と分類	71
表24 短頸壺の属性と分類	71
表25 各型式の出土地区	71
図 版	79

第Ⅰ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

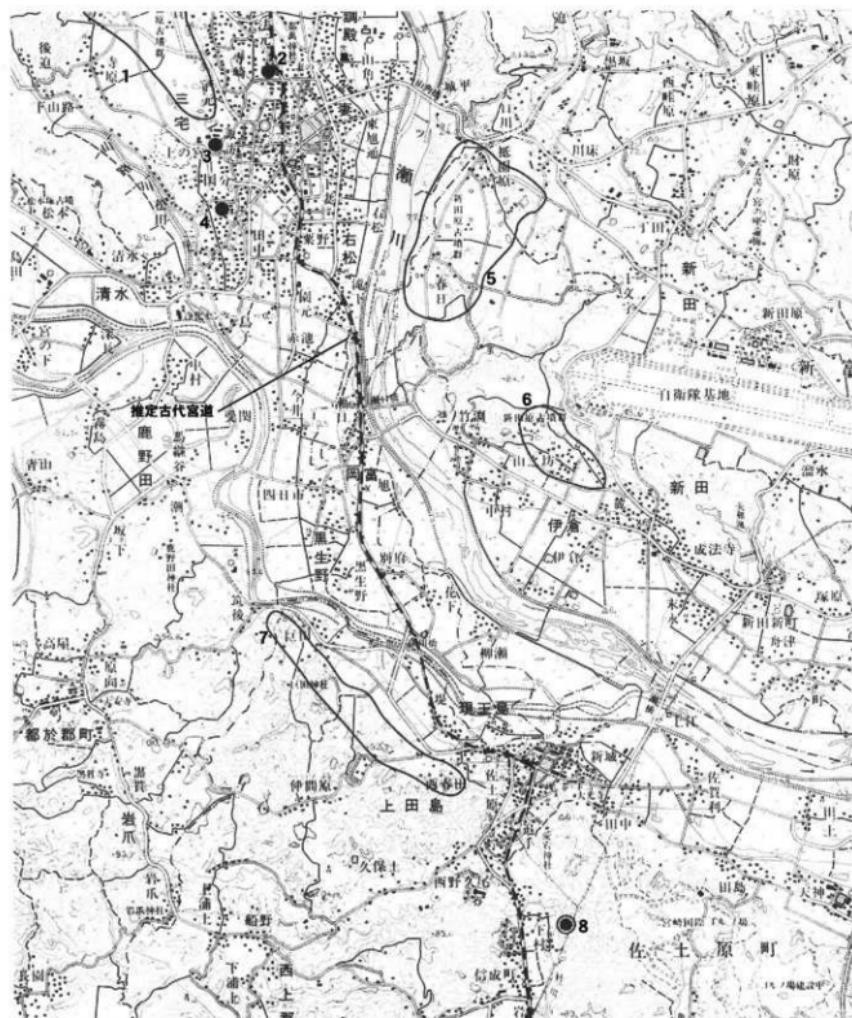
佐土原地域（口佐土原町域）は、太平洋に面した宮崎平野の海岸部、ほぼ中央に位置し、海岸部から内陸に向かって、低地、丘陵、台地の、大きく3つの地形から成る。海岸部の低地は、南の大淀川左岸まで続く砂堤列と、砂堤と砂堤の間、砂堤と丘陵との間の堤間低地、佐土原地域の北辺を形成する一つ瀬川沿いの沖積平野から成り、砂堤上には弥生時代以降の遺跡が多数所在している。下村窯跡は一つ瀬川右岸、佐土原地域の中央を占める佐土原丘陵に所在する。佐土原丘陵は、内陸丘陵地帯から海岸部に向かって、一つ瀬川河畔の沖積平野に沿うように東西に伸びる、宮崎層群によって形成された標高70m程の丘陵で、丘陵の南側には、海岸部から内陸に大きく入り込んだ、那珂低地が伸び、丘陵の縁に沿って、石崎川の支流、下村川が流れる。下村窯跡は、この下村川を眼下に見下ろす、丘陵南西面の狭小な2つの尾根斜面を中心に形成される。

第2節 歴史的環境

下村窯跡は古代国都制下の那珂郡に位置する。周辺における同時代の遺跡は現在までのところ多くはないが、北に隣接する西都市に所在する日向国衙、国分寺、国分尼寺とは、直線距離で9km前後の距離になる。下村窯跡付近から西都市の国府城に至る道として、現在、国道219号線が走っているが、このルート上、下村窯跡の南方6kmには、円面鏡が出土し、那珂郡衙の比定候補地に挙げられる北ヶ迫遺跡があり、古代官道の有力候補と言える。

下村窯跡以前を見ると、窯跡の所在する佐土原丘陵とは尾根続きで西方に位置する船野台地上には、昭和40年代に別府大学による調査が行われ、主に東九州に分布する船野型細石核の標式遺跡となっている船野遺跡（南学原第1・2遺跡等）をはじめ、旧石器、縄文時代の遺跡が多数所在する。弥生時代においては、佐土原丘陵の南西端に、「飛鳥」線刻上器を出土した弥生時代集落の下那珂遺跡が所在し、下那珂遺跡南方の砂堤上には、県下では珍しい袋状口縁壺形土器を出土した西片瀬原遺跡や、特徴的な口縁部と突唇を有する壺に代表される「中溝式」の標識遺跡となっている中溝遺跡がある。古墳時代においては、下村窯跡の位置する一つ瀬川下流域には、九州最大の前方後円墳である女狹穂塚古墳、男狹穂塚古墳をはじめとする西都原古墳群（西都市）や、多彩な埴輪祭式で著名な百足塚古墳をはじめとする祇園原古墳群（新田原古墳群：新富町）など、県下でも有数の大型古墳群の集中地帯となっている。下村窯跡以降の時代には、丘陵の鞍部を隔てた北側に位置する佐土原城が、中世山城として築かれた後、近世には佐土原藩の主城となり、一帯は城下町として栄えることとなる。

以上、下村窯跡周辺は、その前代から後の時代に至るまで、権力に近接した地域としてあり続けており、このことはこの地が平野に面した交通の要衝であったことを示すものであろう。



番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	西都原古墳群	4	日向国分寺	7	上田島横穴墓群（佐土原村古墳）
2	日向国守（寺崎遺跡）	5	紙園原古墳群（新田原古墳群）	8	下村窯跡群
3	日向国分尼寺推定地	6	山之坊古墳群（新田原古墳群）		

第1図 下村窯跡群および周辺主要遺跡位置図 (scale : 1/50,000 ※天が北)

第Ⅱ章 調査経過

第1節 調査に至る経緯

平成元年4月3日、ゴルフ場建設計画に伴い、ハザマ地所株式会社より、佐土原町（現宮崎市）大字東上那珂・上田島一帯における文化財所在の有無について、佐土原町教育委員会教育長あてに照会がなされた。計画地内には周知の埋蔵文化財包蔵地「隱山遺跡」をはじめ、複数の遺跡が所在していたため、同年6月と9月に、ハザマ地所株式会社と佐土原町教育委員会教育長との間で協定書と覚書が取り交わされ、同所における埋蔵文化財の取り扱いについての確認が行われた。翌、平成2年度に実施された町内遺跡分布調査によって、計画地に含まれる周知の埋蔵文化財包蔵地「山田第1遺跡」の域内において、古代の須恵器窯跡「下村窯跡群」が発見された。事業予定地内であることから、平成2年10月、町教育委員会が確認調査を実施し、須恵器、瓦、焼上等が検出され、窯跡であることが確認された。この結果をもとに、平成3年2月、宮崎県文化課（現文化財課）、佐土原町教育委員会、ハザマ地所株式会社の三者で協議が行われ、工事によって消失する約19,900m²を対象に、本発掘調査が実施されることとなった。

第2節 調査対象範囲と調査経過

下村窯跡群は2つの狭小な尾根斜面の標高20～50mの位置に構築されている。事前の表面調査、および調査掘削に先立って実施された磁気探査からは、3つの尾根斜面において窯の分布が想定された。うち、北西に位置する尾根と南西の尾根の西側斜面は工事掘削範囲外として現状保存の措置となった。南西尾根の東半と南東尾根、及び両尾根に挟まれた迫部分は工事掘削を免れせず、記録保存のための発掘調査が実施された。

調査対象範囲においては、西からA、B、C、Dの4つの調査区が設けられ、また調査着手後に、南東尾根の北側に位置する尾根でも窯が確認されたため、E地区として調査を行った（第3図）。先述のとおり、調査掘削に先立ち、当時、活用が始められていたプロトン全磁力計による磁気探査が実施された。調査対象範囲内において36ヶ所の磁気反応地点が見られ、この結果をひとつの指標として、平成3年7月から発掘調査が開始された。年度が変わると、同事業地内の隱山遺跡の発掘調査と同時並行で調査が続けられ、平成4年9月に現地調査は終了した。結果として、A地区で1基、B地区で1基、C地区で3基、D地区で4基、E地区で1基、計10基の窯が確認された。

調査終了後、佐土原町教育委員会より、平成4年に『下村窯跡概要報告書I』が、平成8年に『下村窯跡群報告書（基礎資料編）』が刊行されている。本書は（遺物編）として、上記報文に未報告であった遺物資料の報告を行う。



第2図 下村窯跡群地形図（△須恵器・瓦等採集地点、●1～10号窯跡及び灰原出土地点、○磁気探査反応地点）
※<基礎資料編>（1996年）より転載



第3図 調査区配置図 ※<基礎資料編>（1996年）より転載

第Ⅲ章 調査成果

第1節 調査成果の概略

A～E区、5つの調査区を設定して調査を実施し、8世紀中葉～9世紀後半の須恵器、瓦が出土している。

△区は南西尾根の前面南側斜面で、磁気探査時A地区に相当し、遺構としては1号窯が検出されている。8世紀中葉から9世紀前半の須恵器と瓦が出土している。

△区は南西尾根の前面南側の現況迫の部分で、遺構としては2号窯が該当する（磁気探査時B地区とは異なる）。須恵器、瓦が出土しており、須恵器の殆どは8世紀中葉～後葉のものである。

C区は南西尾根の南東面と南東尾根の西半、及び両尾根の間の迫とを包括し、磁気探査時のB地区とC地区を包括する。遺構として3号窯、4号窯、5号窯が該当するが、遺物出土の殆どは、3号窯（磁気探査時仮12号）西側の迫部分からの出土である。9世紀中葉～後葉の須恵器、瓦を大量に含有する層10層分を確認している（〈基礎資料編〉：C地区3号窯灰原出土遺物、本書：C区出土遺物）。

D区は南東尾根の基部、南東斜面に位置し、磁気探査時のD地区の一部に相当する。遺構として6号窯、7号窯、8号窯、9号窯が該当し、9世紀前葉～中葉の須恵器が出土している。

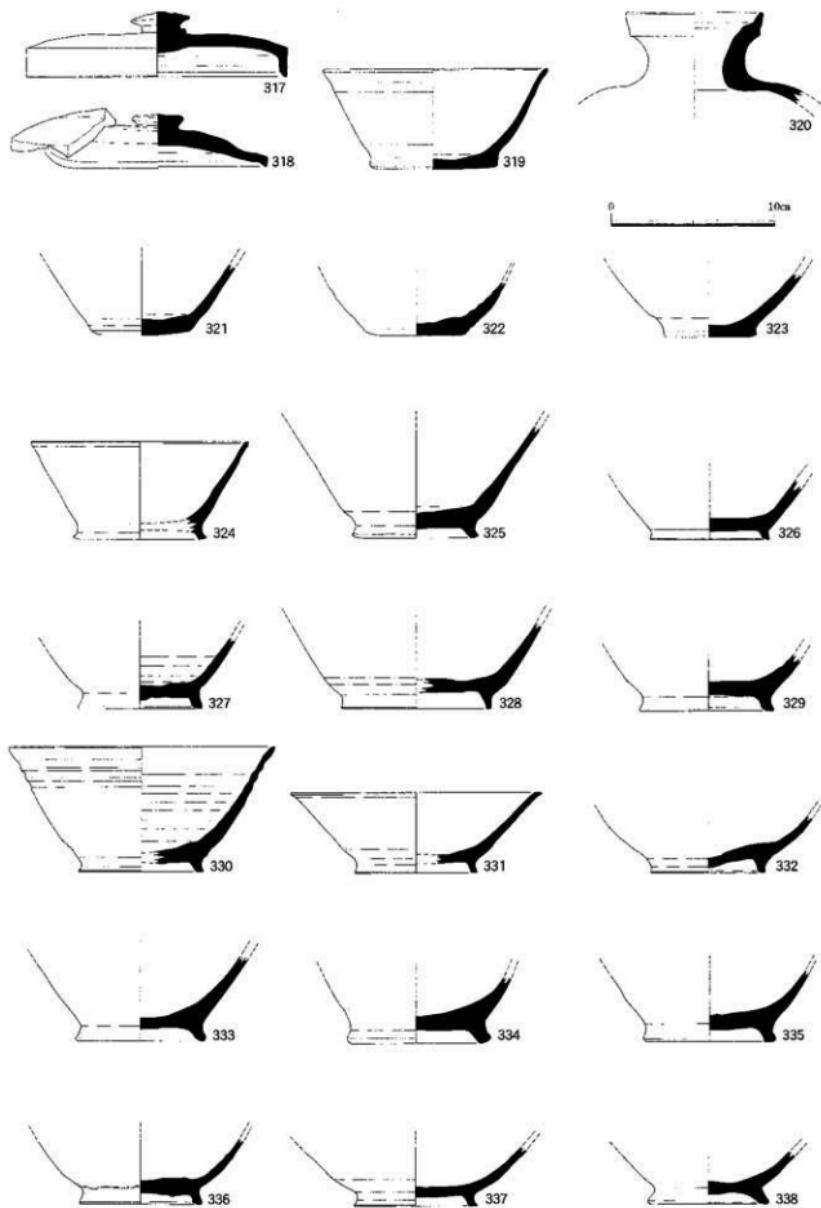
E区は上記D区から北に150mの地点に位置する10号窯で、1基だけ他の窯と大きく離れて存在する。9世紀中葉～後葉の坏が少量出土している。

第2節 須恵器

椀、坏、蓋、壺、長胴壺、短頸壺、高坏、鉢、皿、水滴が出土している。うち、主要なもののは前報文〈基礎資料編〉において報告しているが、本書では、未報告であった資料のうち、完形ないし完形に近く復原できるものを中心に選別して図示した。遺物番号は、〈基礎資料編〉からの通し番号である。

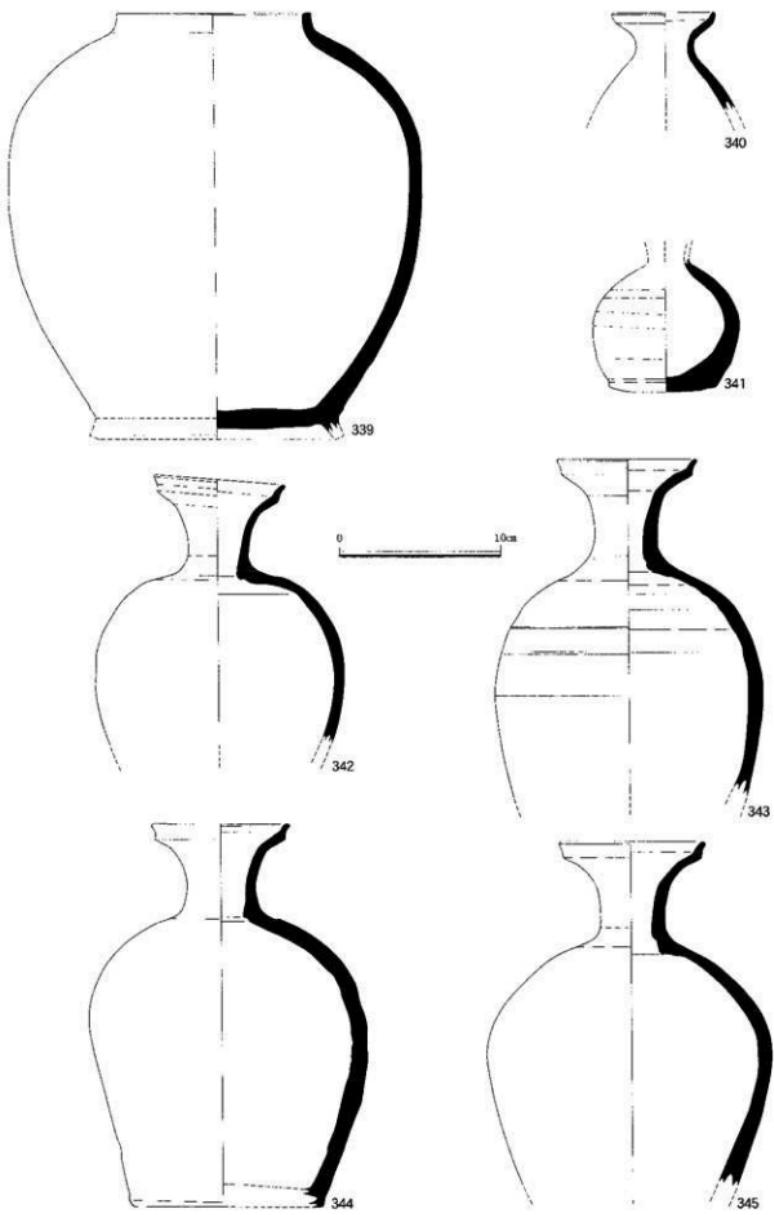
編年、実年代については、「第IV章 考察」に詳述しているので参照していただきたいが、下村窯出土の須恵器は、8世紀の中葉から9世紀の後半までの概ね150年程度の期間内に収まる。

地区別では、A区では椀、坏、蓋、壺、短頸壺が出土しており、長胴壺はない。時期は8世紀中葉から9世紀の前半までであるが、8世紀中葉～後葉は椀、坏、蓋の小型品がほとんどである。9世紀前半には換わって壺が多く、椀、坏、蓋はわずかとなる。B区では、A区と同じく椀、坏、蓋、壺、短頸壺が出土し、長胴壺はない。坏に9世紀台の円盤底、円柱状底部のものが散見されるが、殆どは8世紀中葉～後葉である。C区では椀、坏、蓋、壺、長胴壺、短頸壺が出土し、長胴壺、壺の大型品が顕著である。全て9世紀前半～後半のものであり、8世紀台のものはない。D区では壺、長胴壺の大形品のみが出土し、C区と同じく9世紀前半～後半である。E区では9世紀中葉～後葉の坏のみが出土している。



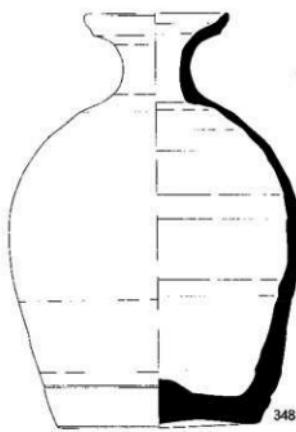
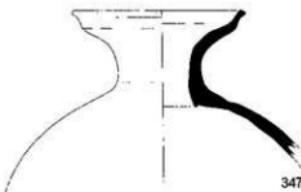
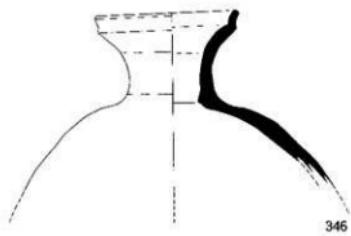
第4図 出土須恵器① (scale : 1/3)

*317・318：A区 319・320：B区 321～338：C区

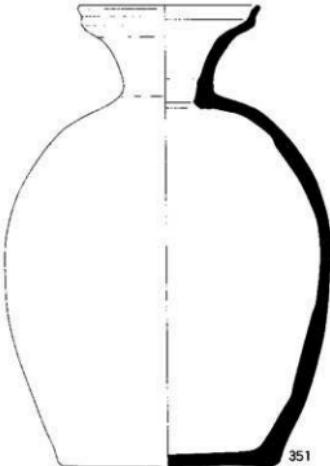
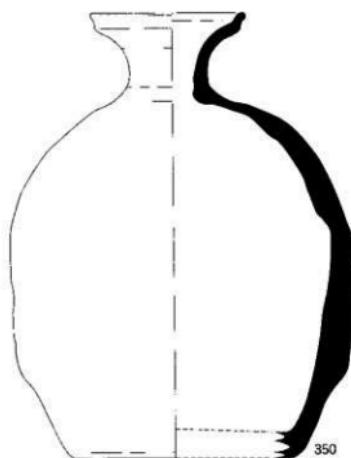
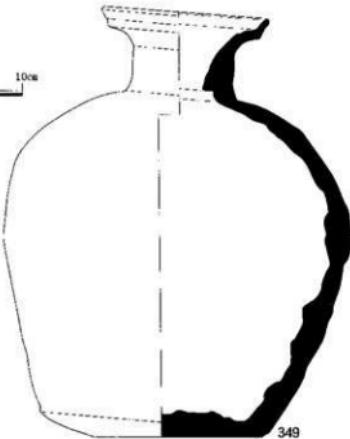


第5図 出土須恵器② (scale : 1/3)

※339～345 : C区

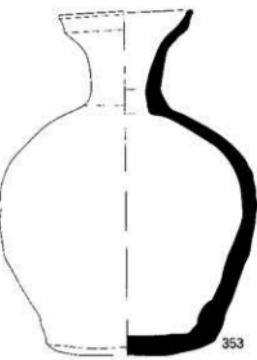
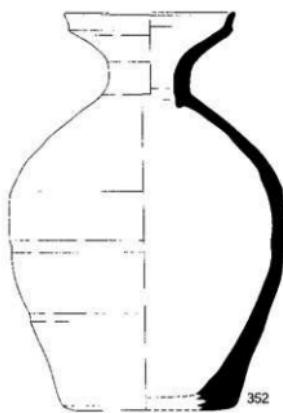


0 10cm

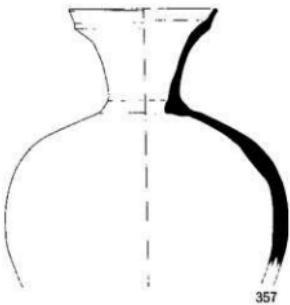
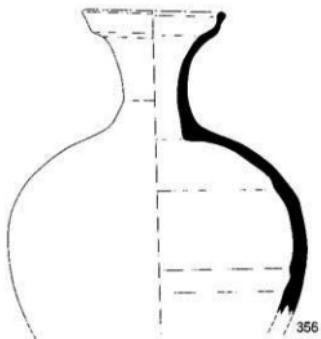
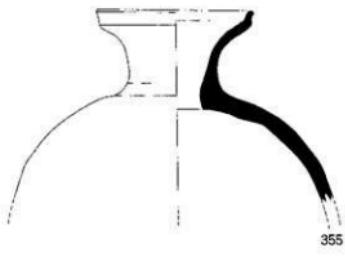
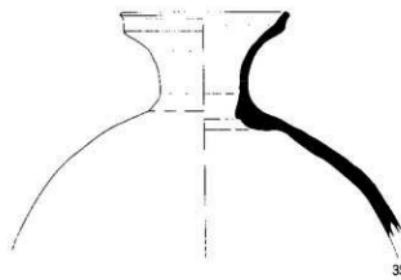


第6図 出土須恵器③ (scale : 1/3)

※346～351：C区

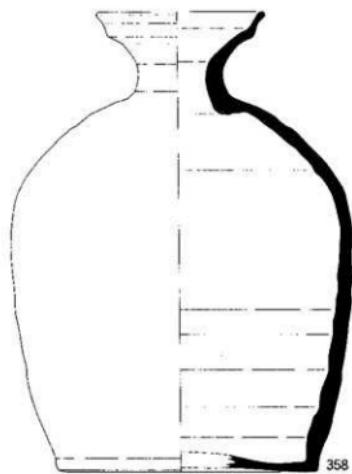


0 10cm

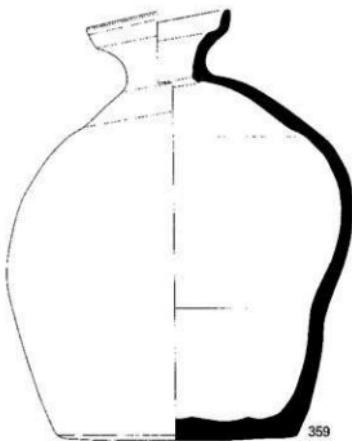


第7図 出土須恵器④ (scale : 1/3)

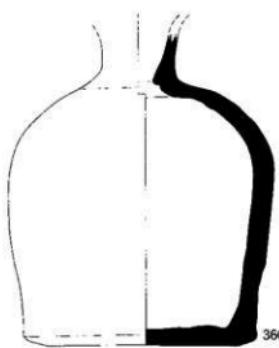
*352~357 : C区



358



359

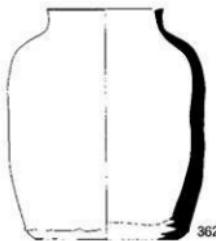


360

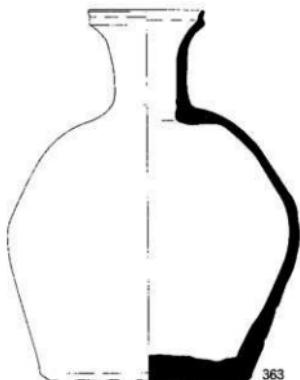
0 10cm



361



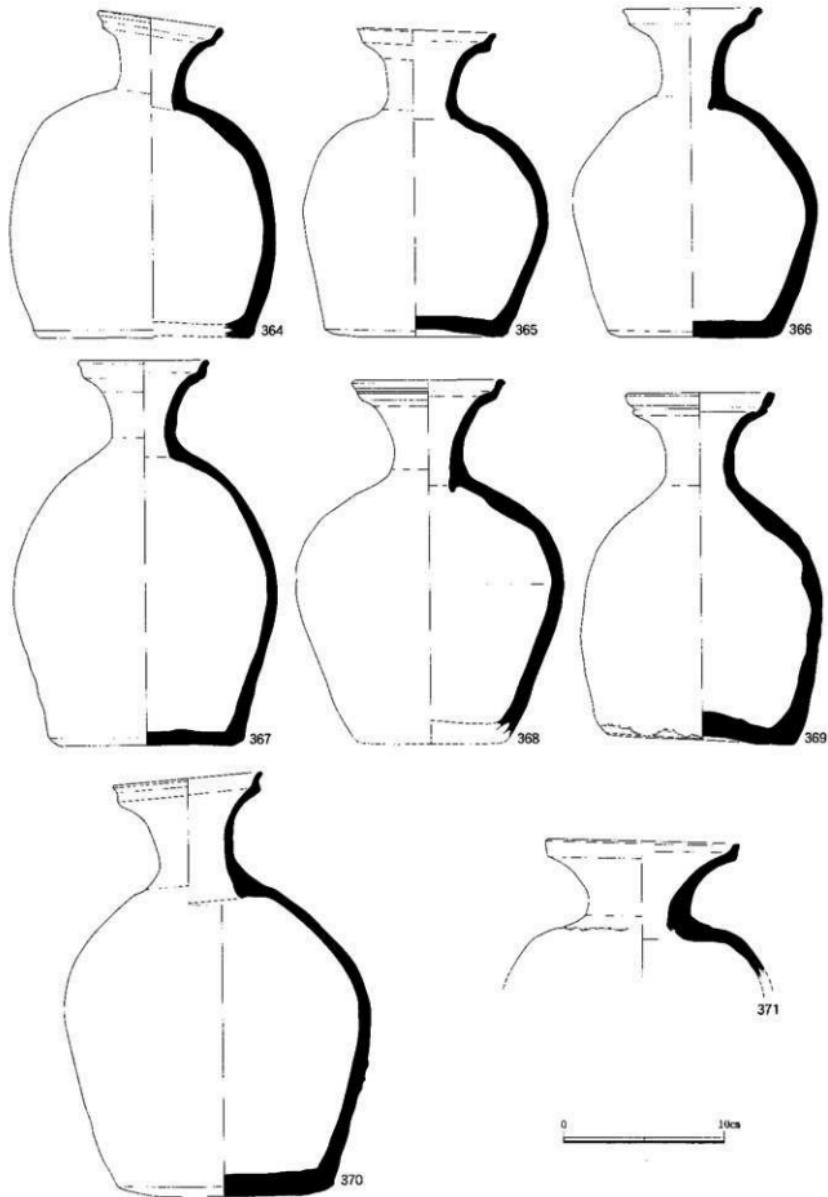
362



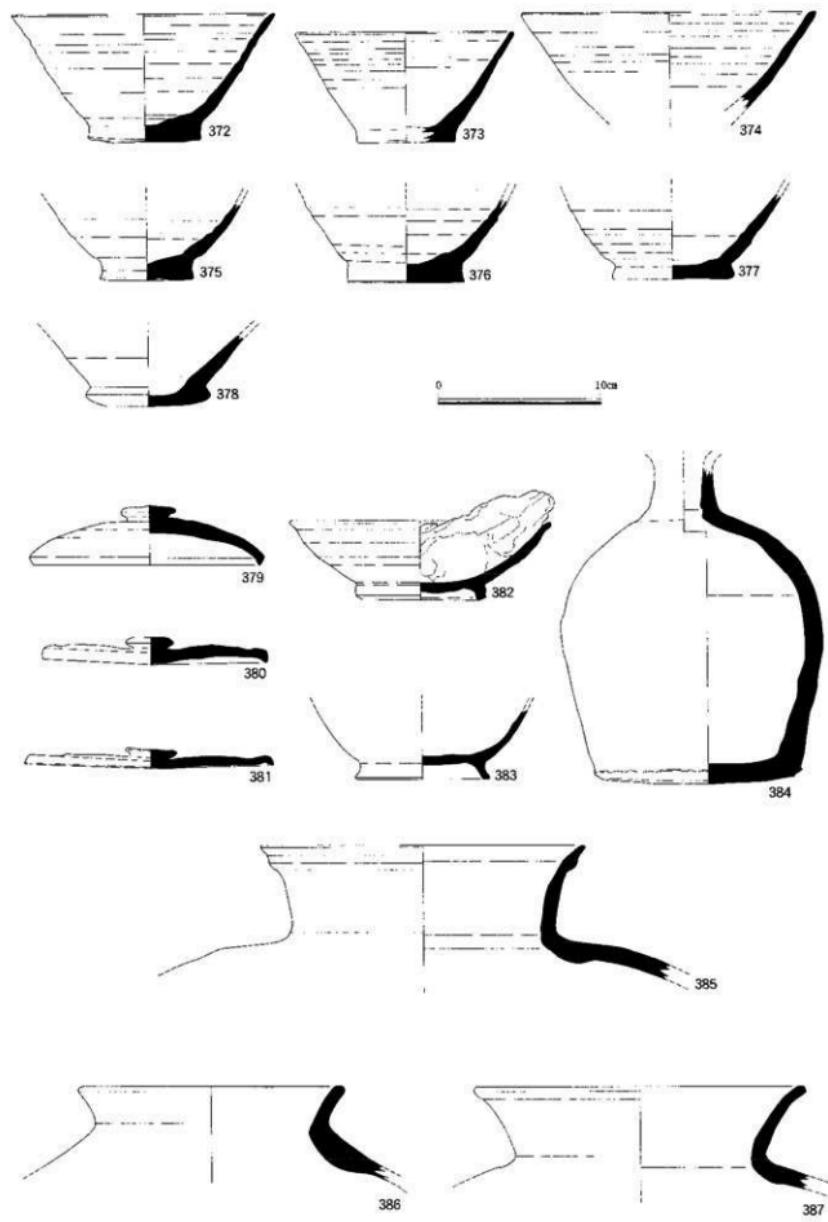
363

第8図 出土須恵器⑤ (scale : 1/3)

※358～361：C区 362・363：D区



第9図 出土須恵器⑥ (scale : 1/3)
※364~372 : D区



第10図 出土須恵器⑦ (scale : 1/3)

※372～378：E区 379～387：一括

第3節 瓦

※ 佐土原町文化財調査報告書第10集『下村窯跡群報告書』(基礎資料編) (1996年) より再録

※ 遺物番号は新規振り直し

(1) 瓦の分類

当遺跡では平瓦・丸瓦・熨斗瓦は出土しているが、軒丸瓦・軒平瓦は全然出土していない。瓦はABC地区の順で、出土した順に図示した。

1 平瓦

当遺跡出土の平瓦は凸面の叩きと凹面の調整によって次のようにわけることができる。

第I類の格子目叩きは全然出土していない。

第II類 繩目叩き

繩目叩きは5cmあたりの繩目の条数を計測し、13条以下を粗繩目、14条以上を精繩目とする。繩目の叩きの方向は横方向が主体であるが、斜方向・縦方向も一部見られる。

a 横精繩目叩き(427・440・455・468・481・500)

凹面の調整はすべて布目の1類である。500が16条、440が15条に対して残りはすべて14条である。500の凸面の叩きは16条と8条であり、側面の凸面がわずかに段状になる。468・481も側面の凸面がわずかに段状になる。3点とも布目痕の上を一部ナデている。427・440は段状にならない。455は端面の凸面側を面取りを施している。

b 横粗繩目

凹面の繩目叩きは8条と11条のものが多く、次いで10条と12条である。

凹面は布目の1類(394・396・398・408・410・412・414・416・427・432・434・438・439~443・445・447・451・453・454・457・458・460・465・466・467・469~471・473~479・481・483・486・493~495・498~500・504・506・507・509~512・519)、粗繩目叩きとナデの2類(419・478・484)、ナデの3類(395・444・459・464・491・492・505・508・514)、粗繩目叩きと布目の4類(409)に分かれる。

1類には側面の断面によって414・416のように凹面側を面取りするものと、427・453のようにしないものがある。398・439・442のように側面の凸面がわずかに段状になる。2類の419の凹面は縦方向の繩目叩きで、側面は面取りをしない。478の凹面は横方向の11条の繩目叩きで、側面の凸面が一部段状になる。484の凹面は横方向の8条の繩目叩きで、端面はナデしている。3類は459・464・491・505・508のように側面の凸面が段状になると、444・492・514のようにならないものがある。4類の409の凹面は横方向の12条の繩目叩きを、端面にはナデを施し、側面の凸面が段状になる。

c 縦粗繩目

凹面は布目の1類(407・435・450・452・497)、粗繩目叩きとナデの2類(515)、ナデの3類(413)、粗繩目叩きと布日の4類に分かれるが、1類は出土していない。

1類の繩目の条数は396~400で、布日は6×6が多い。側面の断面によって435のように凹面側を

面取りするものと、407・450・497 のようにしないものがある。407 は側面の凸面が段状になるが、435・450・497 はならない。435 の端面はナデを施しているが、一部に布目痕を残しており、一枚作りの可能性がある。2 類の 515 は凸面を縦方向の 10 条の縄目叩き、凹面は横方向の 10 条の縄目叩きを施した後、かなりナデ消している。

3 類の 413 は凸面を縦方向の 9 条の縄目叩き、凹面は不定方向のナデを施している。

d 斜粗縄目

凹面は布目の 1 類 (389・417・422・440・448・463・472・513)、粗縄目叩きとナデの 2 類、ナデの 3 類 (397・425)、粗縄目叩きと布目の 4 類 (393) に分かれるが、2 類は出土していない。

1 類の縄目の条数は 6~12 で、布目は 6×6 が多い。側面の断面によって 422・472 のように凹面側を面取りするものと、389・448・463・513 のようにしないものがある。422・448・463 は側面の凸面が段状になるが、389・472・513 はならない。513 は凹面に離れ砂が残っている。3 類の 397 は側面の凹凸面とも段状になるが、425 はならない。425 は凹面側を面取りしている。397 は凸面が 6 条縄目叩きであるのに対して 425 は 8 条縄目叩きである。4 類の 393 は凸面が 6 条縄目叩きであるのに対して凹面は横方向の 8 条縄目叩きであり、側面の凹面は段状にならない。

e 複数粗縄目

凹面は布目の 1 類 (428・430・436・437・449・462・467・480・482・489・490・502・517)、粗縄目叩きとナデの 2 類、ナデの 3 類 (496)、粗縄目叩きと布目の 4 類 (516) に分かれるが、2 類は出土していない。

1 類の縄目叩きの組合せは横・斜方向が 430・436 で、それ以外は横・縦方向の組み合わせである。縄目の条数は 7~11 で、布目は 6×6 が多い。側面の断面によって 449・462・467・490 のように凹面側を面取りするものと、それ以外のしないものがある。480・490・517 は側面の凸面が段状になるが、それ以外はならない。513 は凹面に離れ砂が残っている。3 類の 496 の凸面は横方向の 8 条の縄目叩きの上から縦方向の縄目叩きを、凹面には縦方向のナデを施している。側面の凸面は段上にならないし、端面の凹面側の面取りもない。凹面に離れ砂が残っている。4 類の 516 は凸面を横方向の 12 条の縄目叩きの上から縦方向の縄目叩きを、凹面は布面痕の上から縦・横方向の 12 条縄目叩きを施し、側面の凸面は段状にならない。

III類 叩きの痕をきれいにナデ消す

a 叩き板によるナデ (399・429)

11 は凸面には叩き板による縦方向のナデを、凹面には 6×6 の布目痕の上から叩き板によるナデを斜方向に施している。側面の凹面に面取りを施している。429 は両面とも風化している。

b ナデ

凸面は叩きの上からきれいにナデ消し、凹面の調整によって布目の上から部分的にナデを施す 1 類、叩き板によるナデを施す 2 類、きれいにナデ消す 3 類、縄目叩きの 4 類 (521) に分かれるが、1~3 類は出土していない。

4 類の 521 の凹面は縦方向の 10 条の縄目叩きを施し、側面の両面の面取りを施していない。

IV類 平行叩き (446・503)

凹面は布目の1類(503)、ナデの2類(446)がある。503の側面には途中までヘラ切りして、手で割った痕跡を残している。446は側面が少し段状を呈し、端面の凹面側に面取りを施している。

2 丸瓦

丸瓦はすべて行基式のもので、凸面の叩きによって格子目・縄目・平行叩きを残すものに分かれるが、出土しているのは縄目叩きとナデのみである。

II類 縄目叩き

a 横粗縄目

凹面の縄目叩きはすべて横方向であり、凹面の調整によって布目の1類(524・527～529・531・533・535・536・539～541)、横方向の縄目叩きの上の布目の2類、横方向の縄目叩きの3類(525)に分かれるが、2類は出土していない。

1類の縄目の条数は8～13で、布目は5×6が多い。側面の断面によって524・528のように凹面側を面取りするものと、527・531・539のようにしないものがある。524・528・533・541は側面の凸面が段状になるが、その他はならない。536は凹面の布目は14×15で非常に細かい。539は両面に自然軸が付着しており置き台として使用された可能性がある。3類の525は凹凸面とも横方向の縄目叩きの上から縦方向のナデを施している。

e 複数粗縄目

凹面は布目の1類(537・542)、粗縄目叩きとナデの2類、ナデの3類(532)、粗縄目叩きと布目の4類に分かれるが、2類と4類は出土していない。

1類の537は横方向と斜方向の8条の縄目叩きを施し、側面の凹面は段状になり、凹面側に面取りを施している。542は横方向と縦方向の10条の縄目叩きを施している。3類の532は横方向と斜方向の10条の縄目叩きを施し、側面の凸面は段状になり、凹面側に面取りを施している。

III類 叩きの跡をきれいにナデ消す

a 叩き板によるナデ(526)

526は凹面には叩き板による縦方向のナデを、凹面には5×5の布目痕がわずかに残る。側面の凹凸面に面取りを施している。

b ナデ

凹面は叩きの上からきれいにナデ消し、凹面の調整によって布目の上から部分的にナデを施す1類(534・538・543)、叩き板によるナデを施す2類、きれいにナデ消す3類、縄目叩きの4類(544)に分かれるが、2類・3類は出土していない。

1類の534は側面の凹凸面とも面取りを施している。543は側面の凹面の面取りを施している。4類の544の凸面は縦方向のナデを、凹面には布目痕の上に縦方向の縄目叩きを施す。

3 突斗瓦

当遺跡出土の突斗瓦は凸面の叩きと凹面の調整によって次のように分けることができる。

第I類 格子目叩き

格子目叩きには斜格子・長方形格子ではなく正斜格子のみである。

a 正格子目叩き (570)

570 は正格子の一辺長が 3 mm × 3 mm の規格であり、横方向の 10 条の繩目叩きも施している。格子目叩きはこれ 1 点のみで注目されるが、須恵器の叩き板によるものである。

第II類 繩目叩き

繩目叩きには 5 cmあたりの繩目の条数を計測し、13 条以下を粗繩目、14 条以上を精繩目とする。繩目の叩きの方向は横方向のみである。

b 横粗繩目

凸面の繩目叩きは 8 条と 11 条のものが多く、次いで 10 条と 12 条である。

凹面は布目の 1 類 (400・403・405・406・545・548・552・556・557・561・565・571・581・590・592・593・596・598・601・603)、粗繩目叩きとナデの 2 類 (572・605)、ナデの 3 類 (404)、粗繩目叩きと布目の 4 類 (558・563・567・574・607)、平行叩きと布目の 5 類 (547) に分かれる。

1 類には側面の断面によって、4 のように凸面側を面取りするものと、6 のようにしないものがある。423 は側面の凸面がわずかに段状になる。2 類の 572 の凹面は横方向の 9 条繩目叩きで、側面の凸面が段状になり、凹面は面取りをしている。605 は凹面は横方向の 8 条の繩目叩きで、側面は面取りしていない。3 類の 404 は凹面を縦方向にナデしている。4 類の 563 は側面の凹面が段状になるが、その他はならない。凹面は 574 が布目の上に繩目叩きに対して、563・567・607 は逆である。558・567・574 は片側の側面内側からヘラ切りされ、途中からは手で破断されていることから、1 枚の平瓦を 2 つに切断して突斗瓦を 2 枚作っている。567 は側面の凹面側に繩目叩きを残している。5 類の 547 は平行叩きの上に布目を残しており、4 類と同様に内側から破断されている。

c 縦粗繩目

凹面は布目の 1 類 (564)、粗繩目叩きとナデの 2 類、ナデの 3 類、粗繩目叩きと布目の 4 類に分かれると、2~4 類は出土していない。

d 斜粗繩目

凹面は布目の 1 類 (402・546・554・560・568・578・588・591・595・608)、粗繩目叩きとナデの 2 類 (580)、ナデの 3 類 (577)、粗繩目叩きと布目の 4 類 (582・594) に分かれる。

1 類の繩目の条数は 4~10 である。側面の断面によって 591 のように凹面側を面取りするものと、それ以外のしないものがある。554・568・588・591 は側面の凸面が段状になるが、それ以外はならない。546 はヘラによる破断が外側からである。2 類の 580 は側面の凸面が段状になり、凹面を面取りしている。3 類の 577 は凹面が 8 条の繩目叩きである。4 類の 591 の凹面は布目痕の上に横方向の 7 条繩目叩きを施している。582 には離れ砂が付着している。577・594 とも側面の凹面は段状にならない。

e 複数粗縄目

凹面は布目の1類(555・573)、粗縄目叩きとナデの2類(587)、ナデの3類、粗縄目叩きと布目の4類(566・575・583)に分かれるが、3類は出土していない。

1類の555は側面の凸面が段状になり、内側から破断している。2類の587も555と同様である。4類の566・575・583の凹面は横方向縄目叩きの上から布目痕である。

Ⅲ類 叩きの跡をきれいにナデ消す

a 叩き板によるナデ(586)

586は凸面には叩き板による縦方向のナデを、凹面には布目痕の上から叩き板によるナデを縦方向に施している。

b ナデ

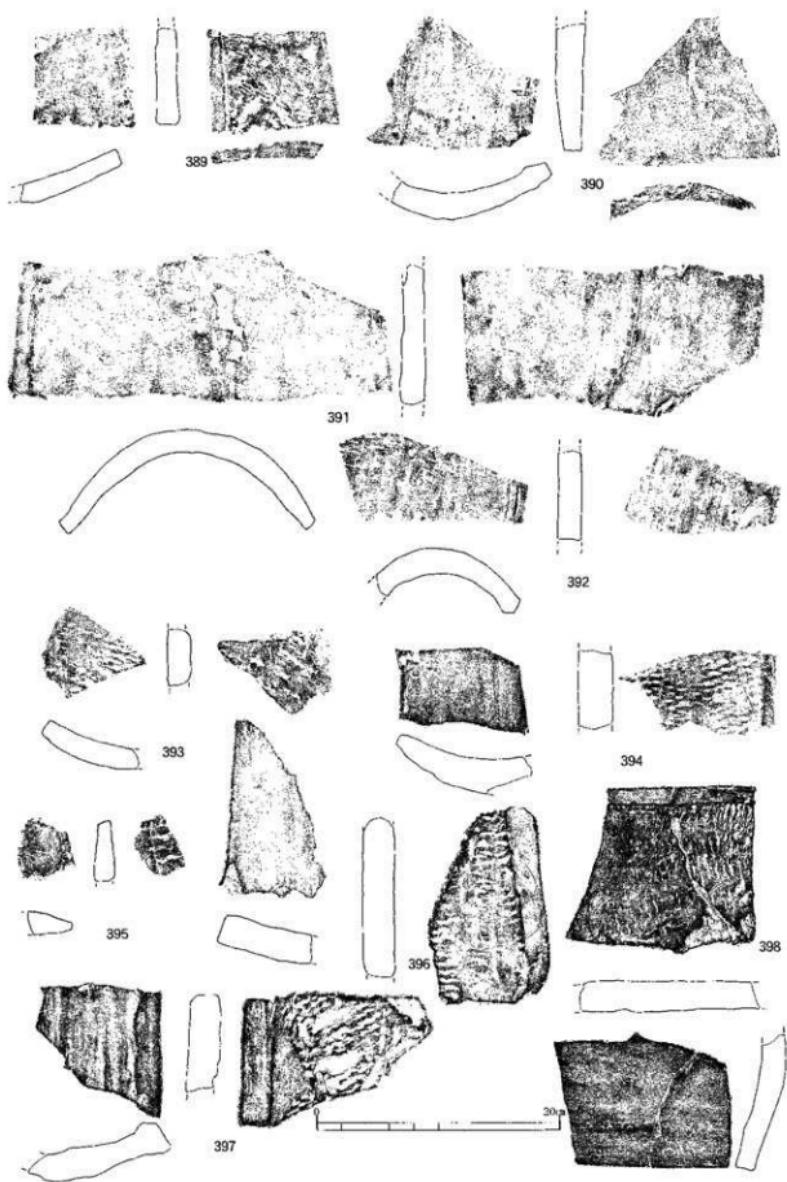
凸面は叩きの上からきれいにナデ消し、凹面の調整によって布目の上から部分的にナデを施す1類、叩き板によるナデを施す2類、きれいにナデ消す3類、縄目叩きの4類(549)に分かれるが、1~3類は出土していない。

4類の549の凹面は横方向の9条の縄目叩きを施し、側面の凸面側が段状になる。

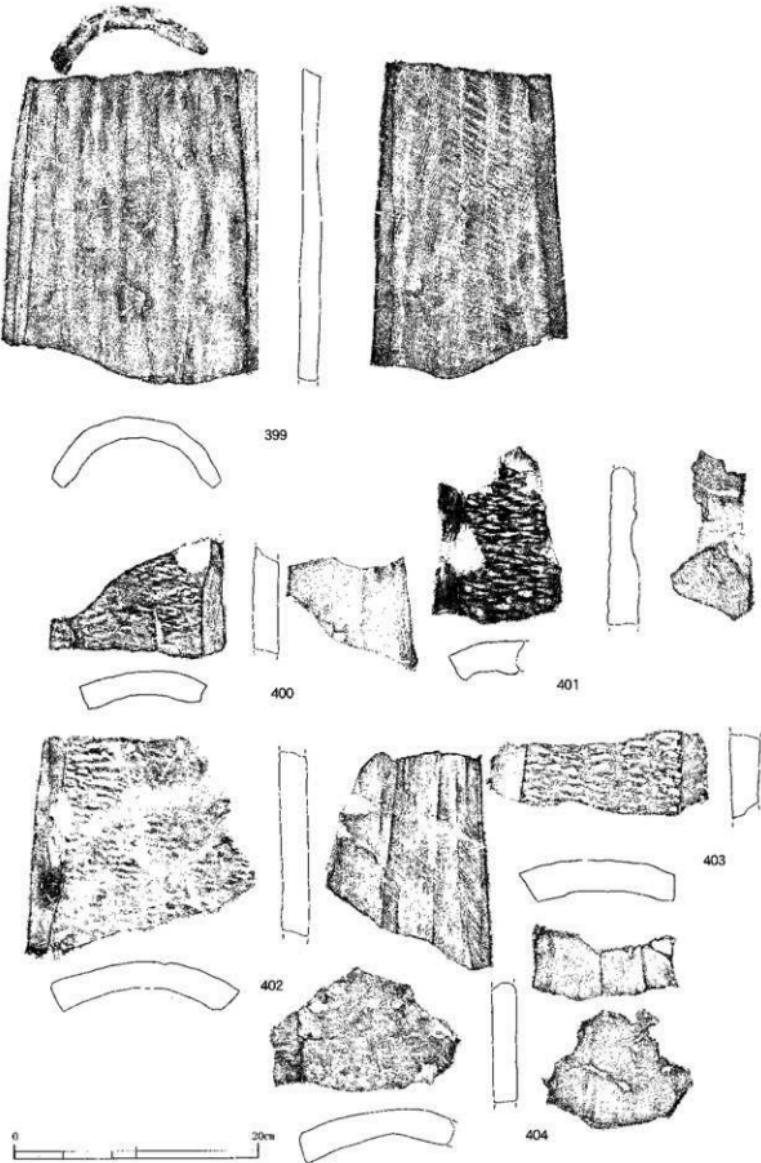
IV類 平行叩き

凹面は布目の1類(550・551・563・576)、ナデの2類(584)、縄目叩きと布目の3類(589)がある。平行叩きの方向はすべて横方向である。

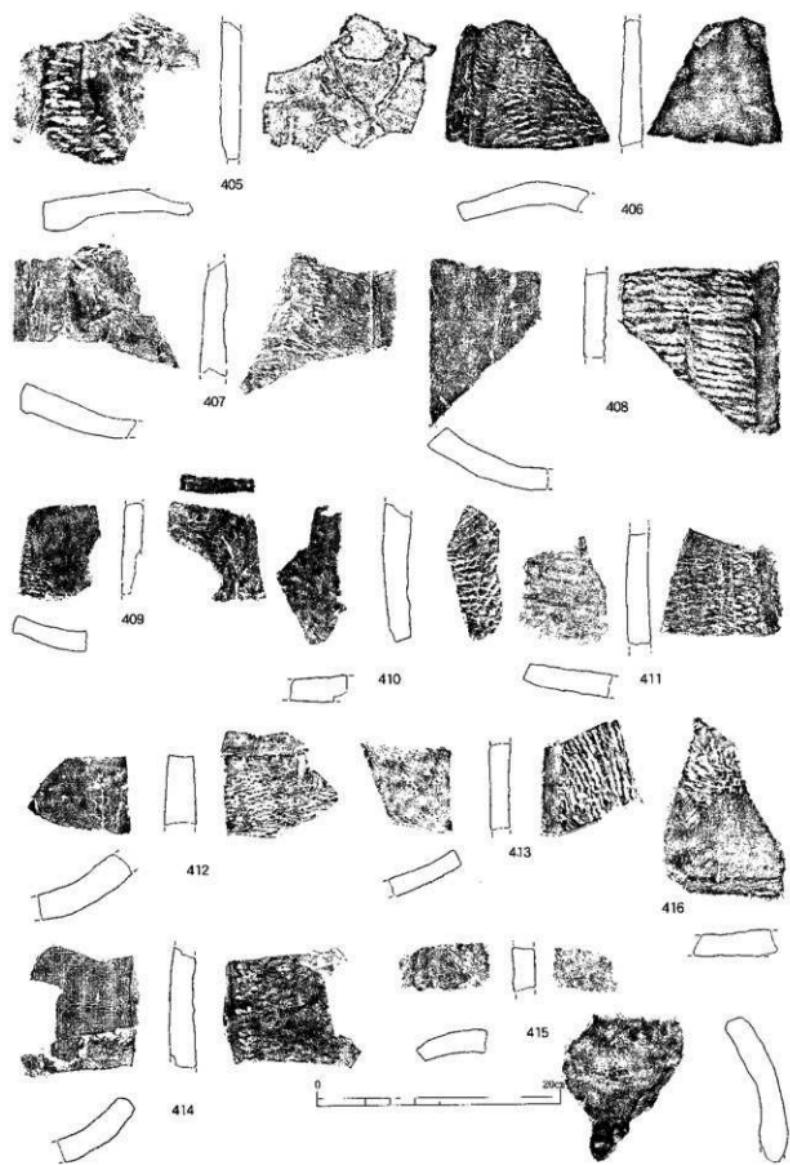
1類のうち576のみが側面は段状になる。2類の584の凹面は布目の上から斜方向に叩き板でナデしている。3類の589の凹面は布目痕の上から横方向の11条縄目叩きを施している。



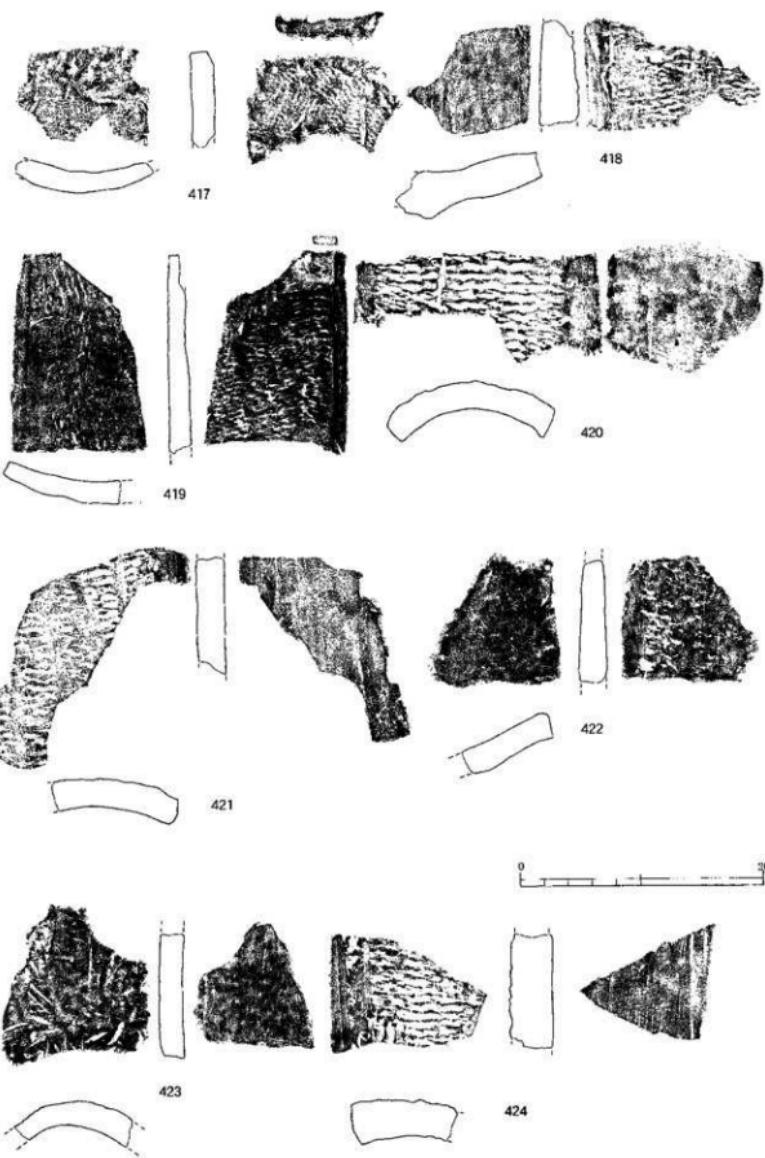
第11図 出土瓦① (scale : 1/4)



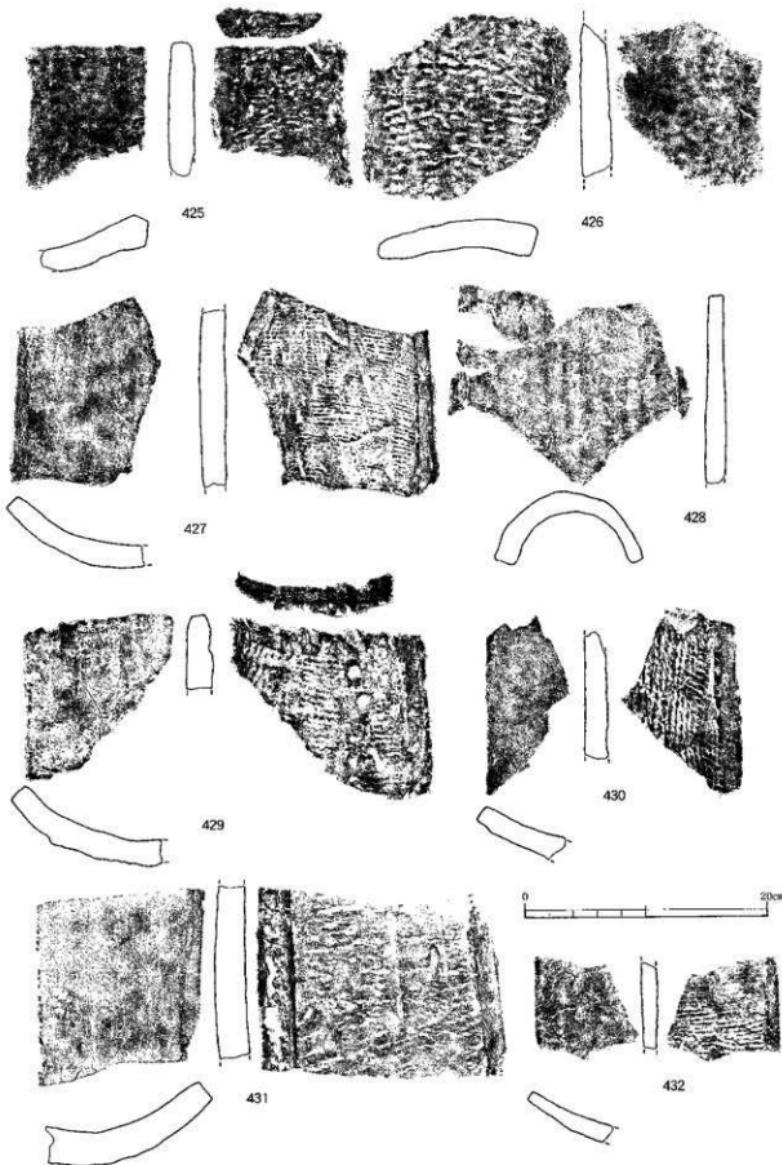
第12図 出土瓦② (scale : 1/4)



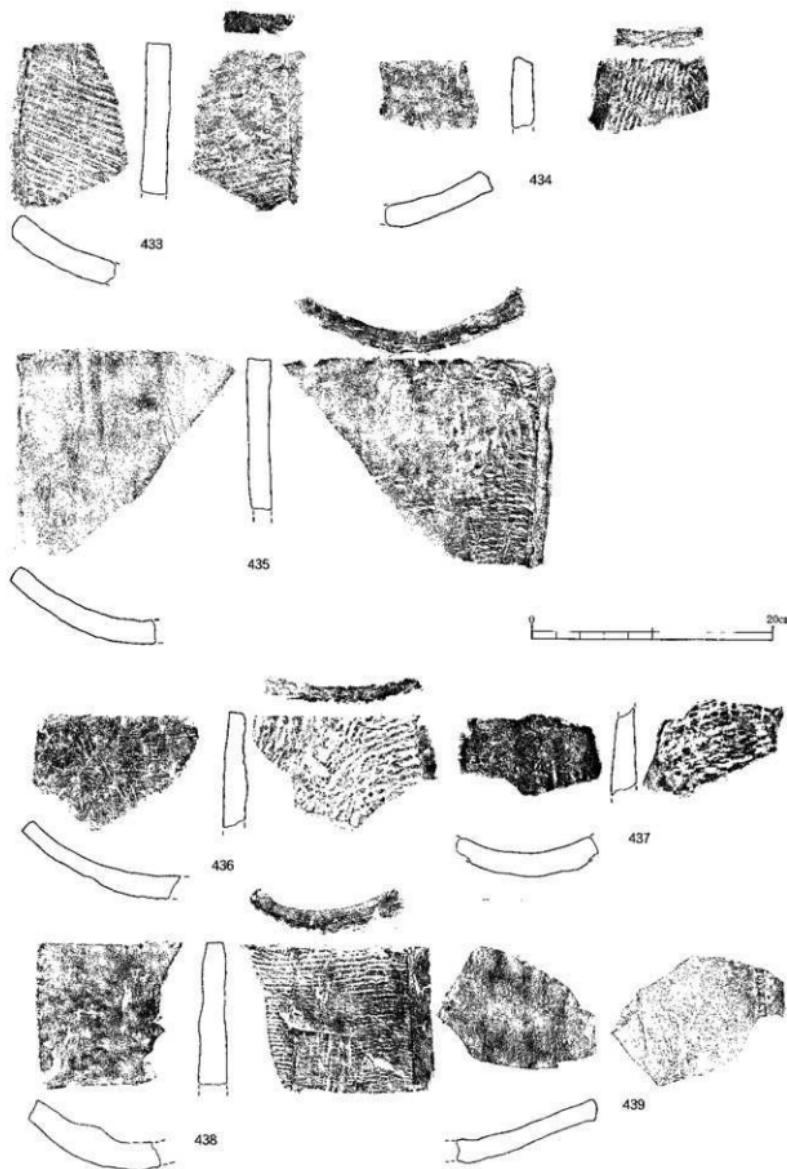
第13図 出土瓦③ (scale : 1/4)



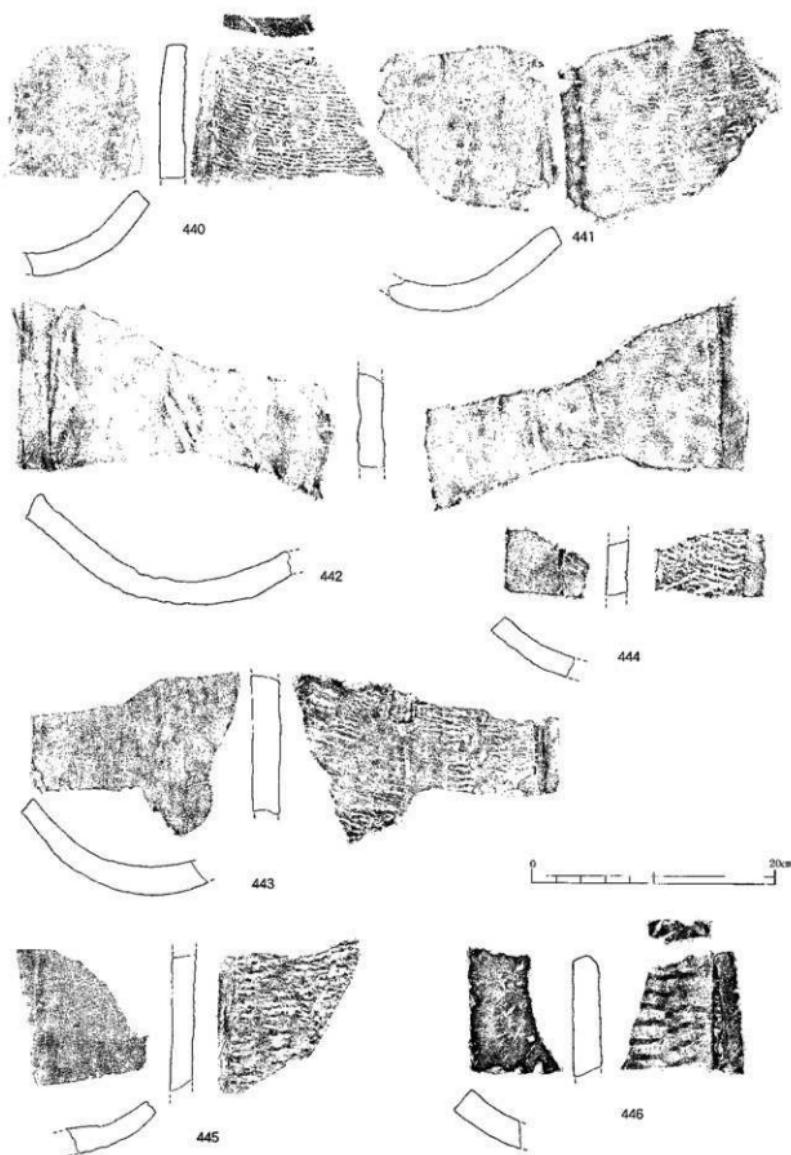
第14図 出土瓦④ (scale : 1/4)



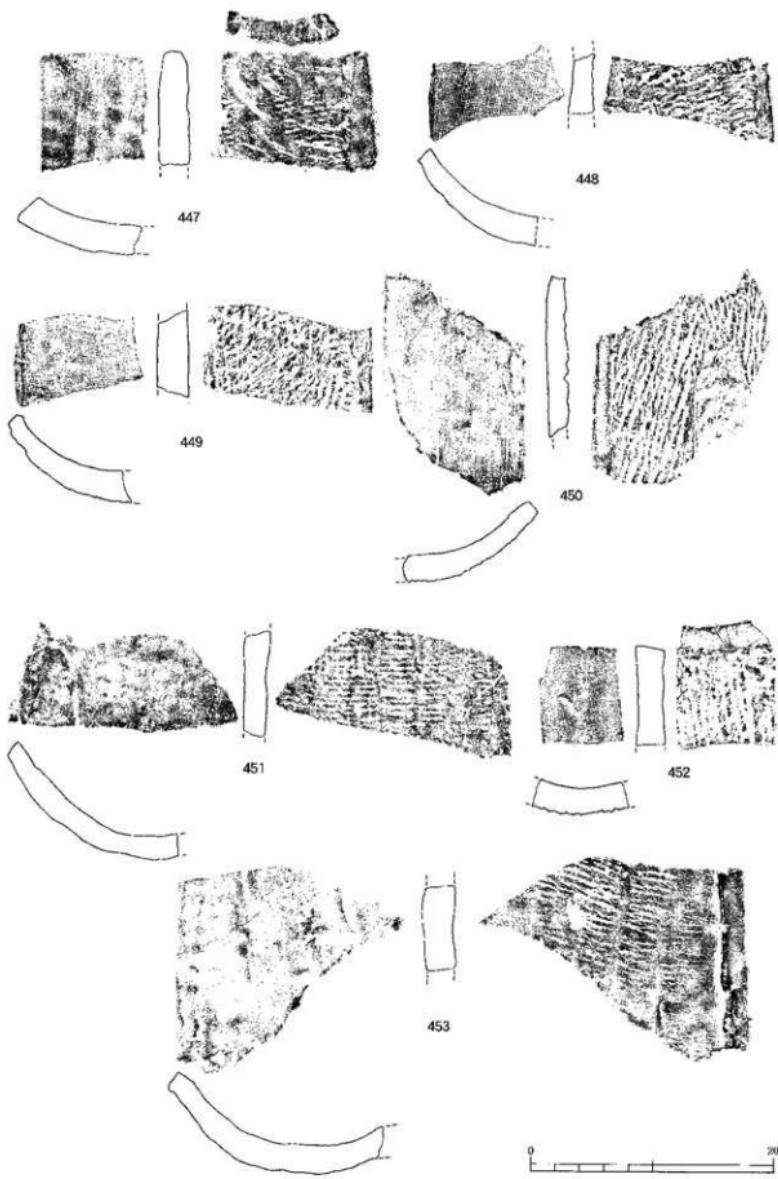
第15図 出土瓦⑤ (scale : 1/4)



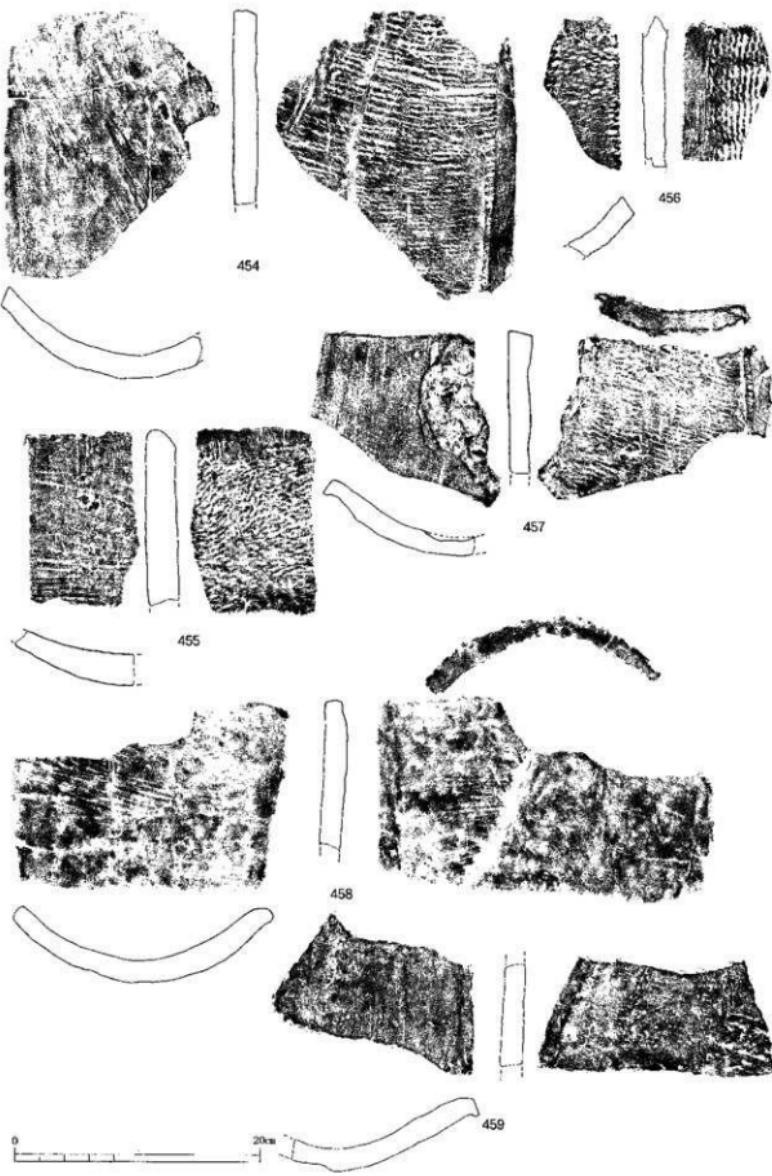
第16図 出土瓦⑥ (scale : 1/4)



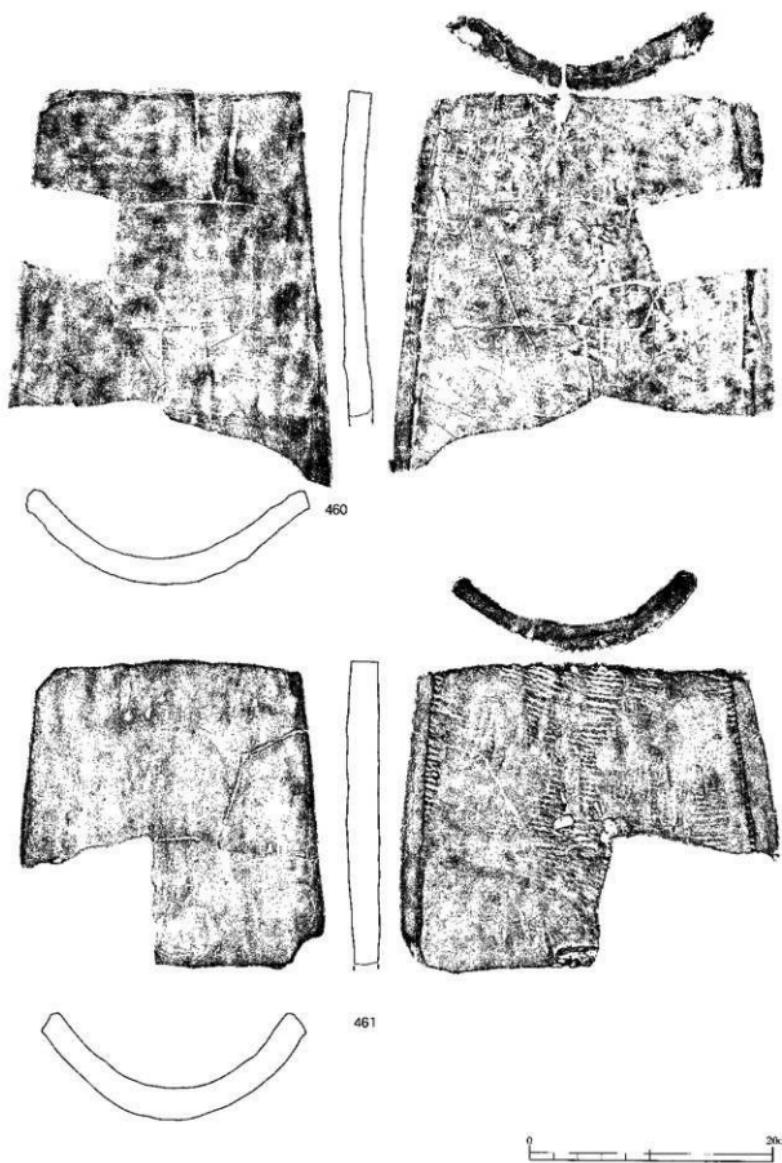
第17図 出土瓦(7) (scale : 1/4)



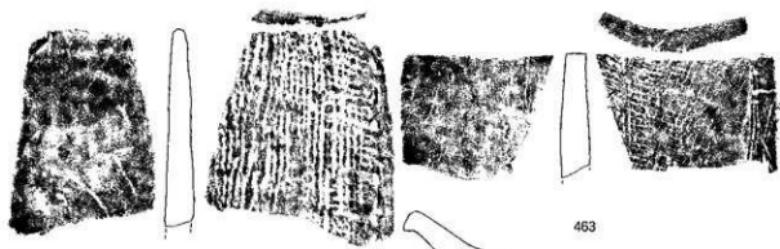
第18図 出土瓦⑧ (scale : 1/4)



第19図 出土瓦⑨ (scale : 1/4)



第20図 出土瓦⑩ (scale : 1/4)



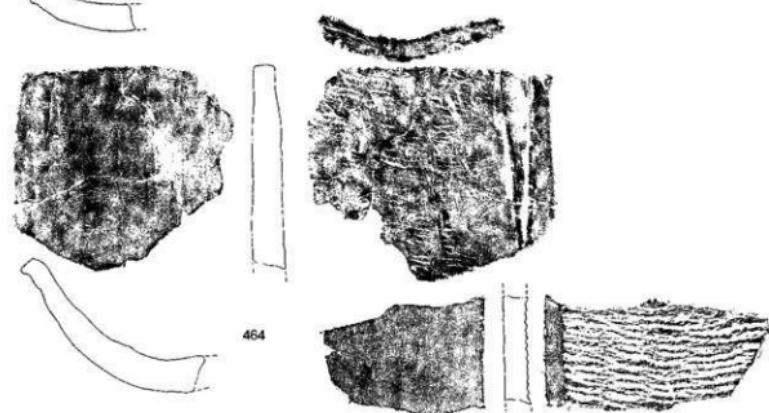
462

463

464

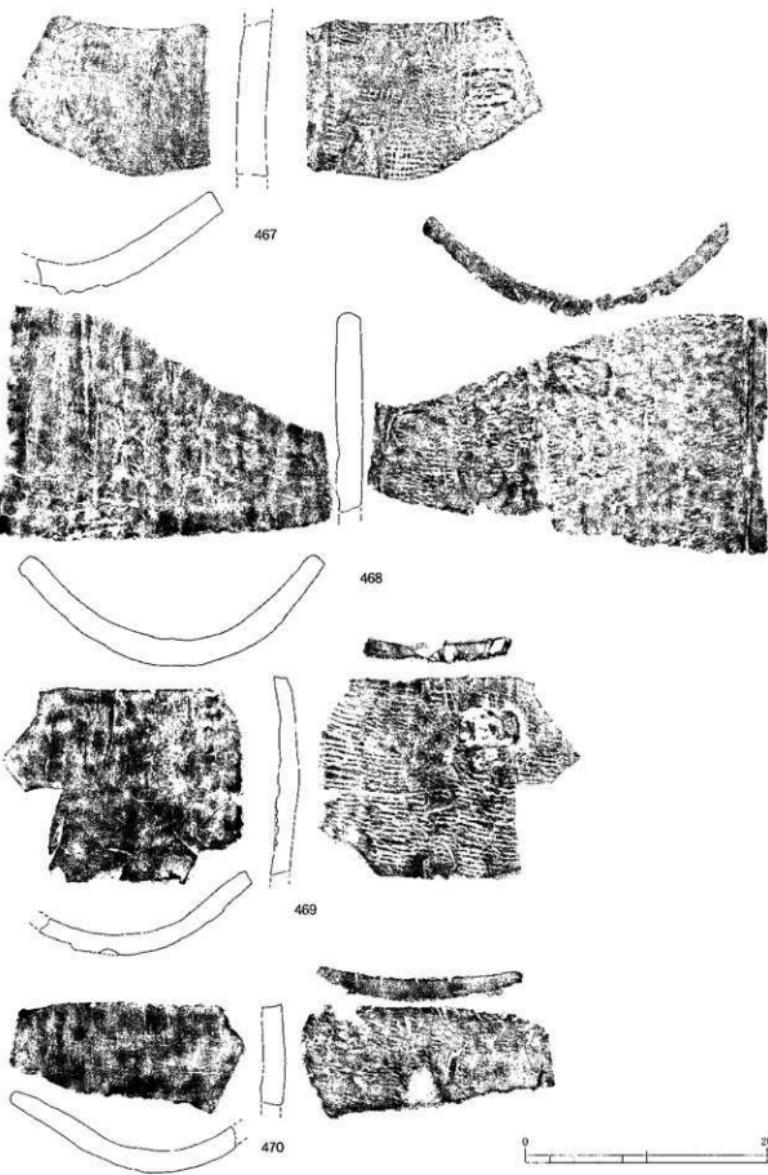
465

466

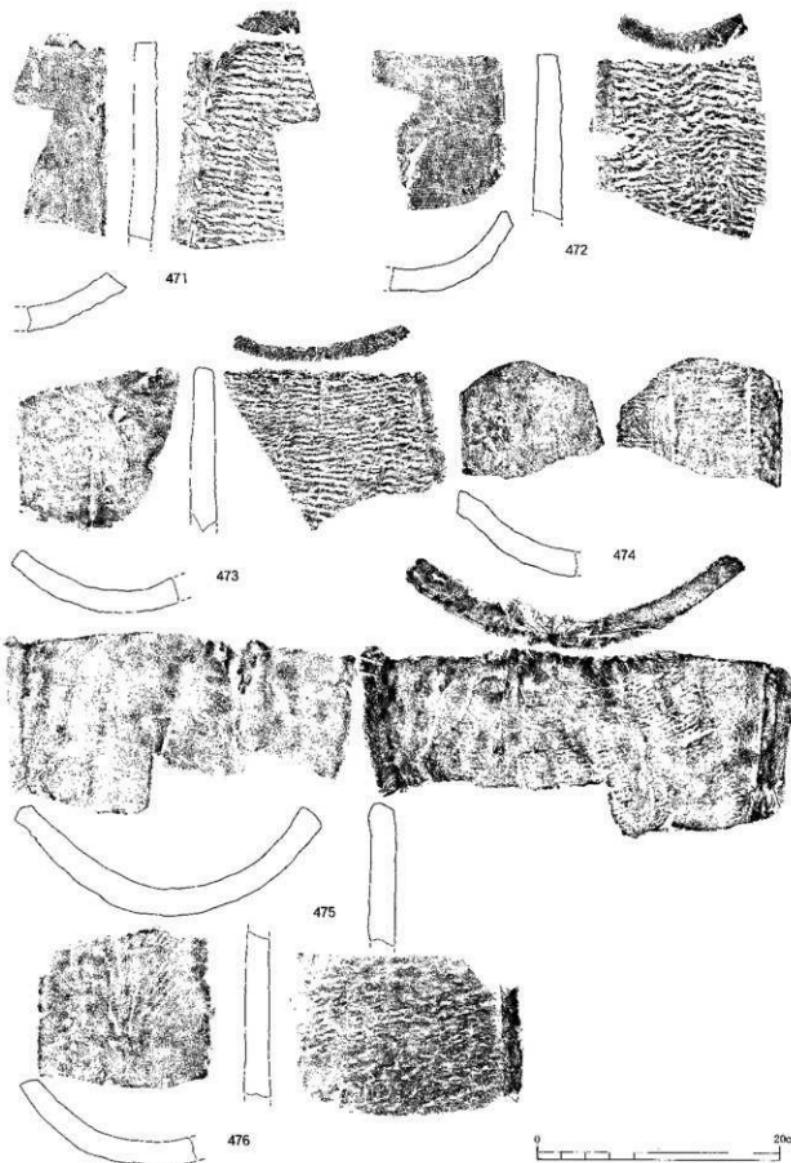


0 20mm

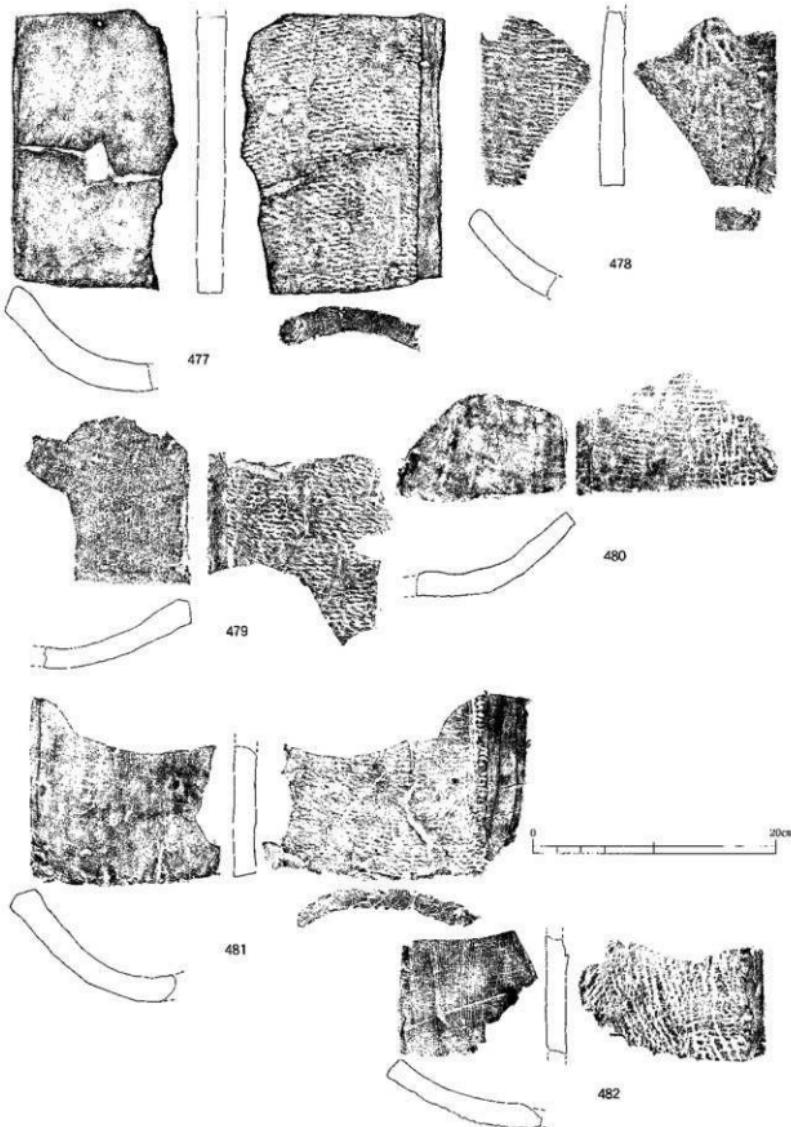
第21図 出土瓦⑪ (scale : 1/4)



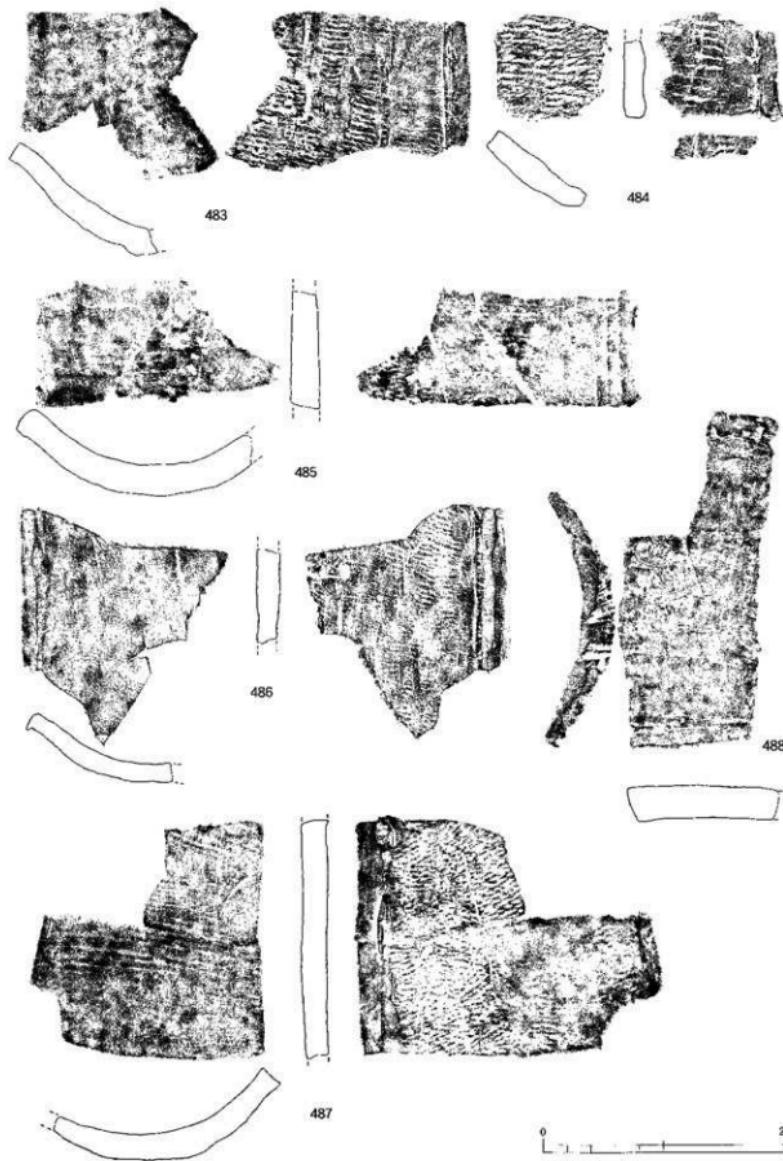
第22図 出土瓦⑫ (scale : 1/4)



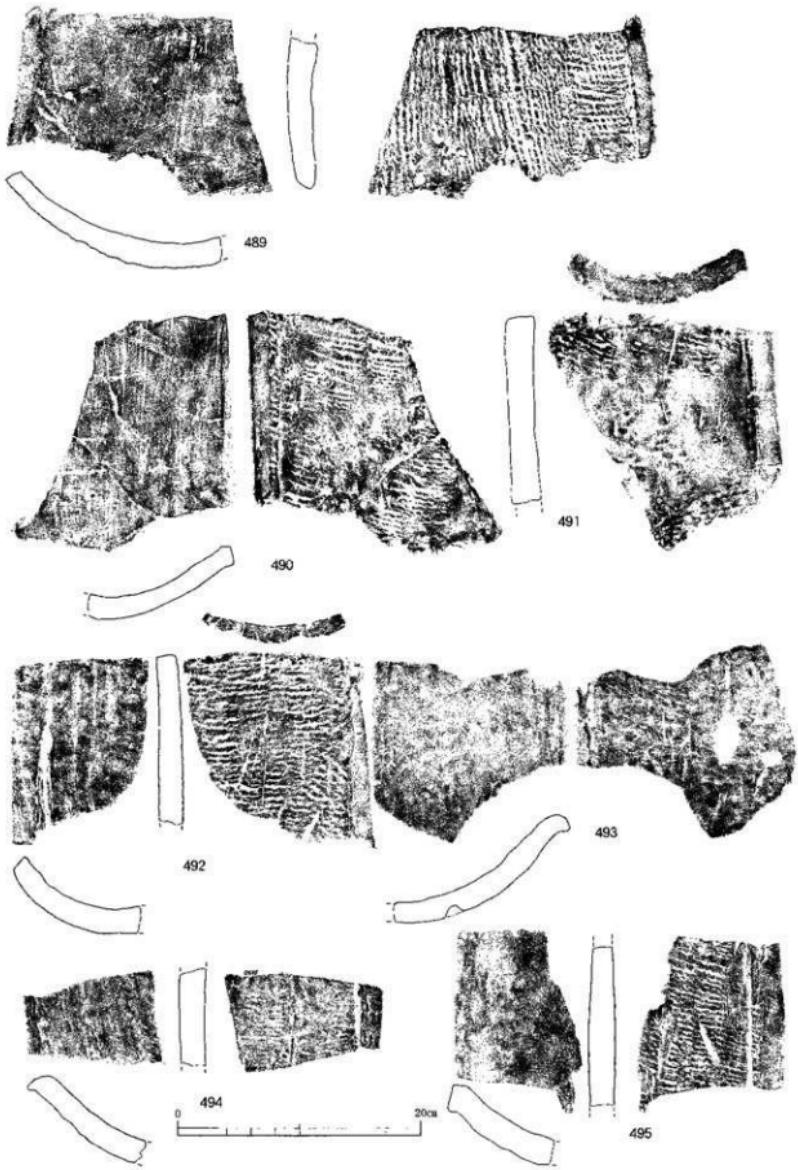
第23図 出土瓦⑬ (scale : 1/4)



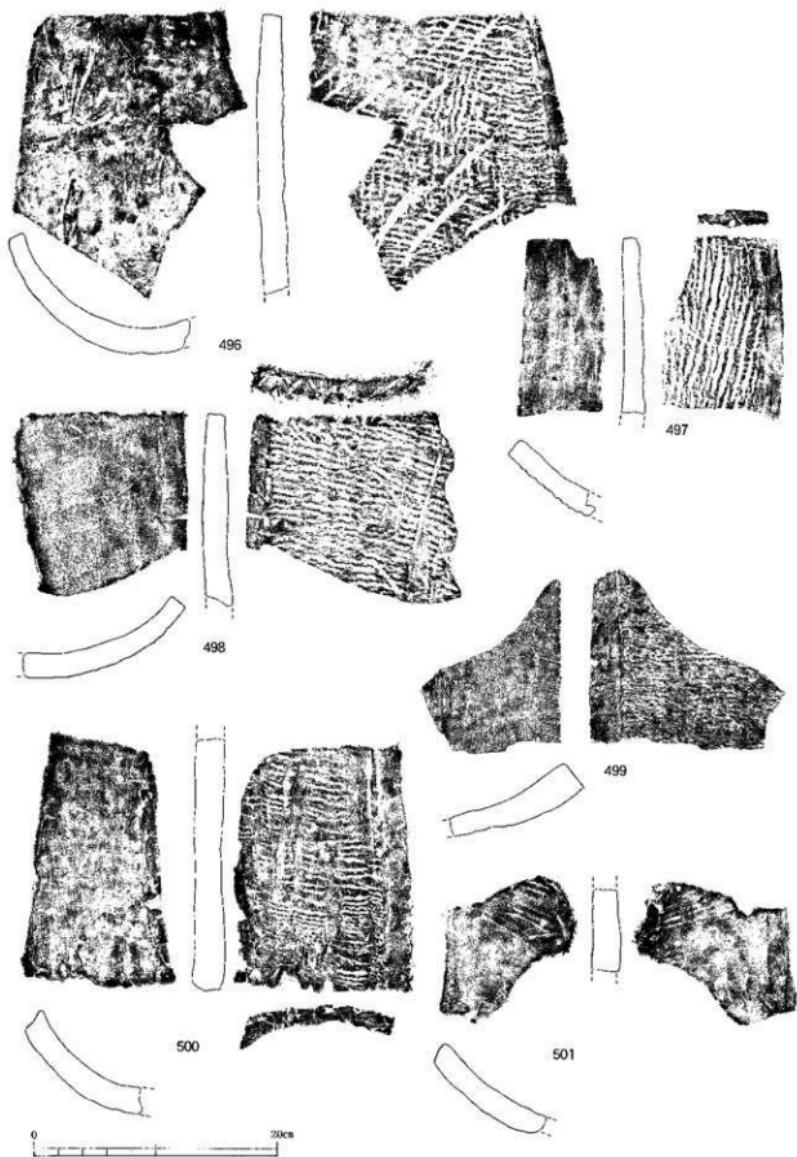
第24図 出土瓦④ (scale : 1/4)



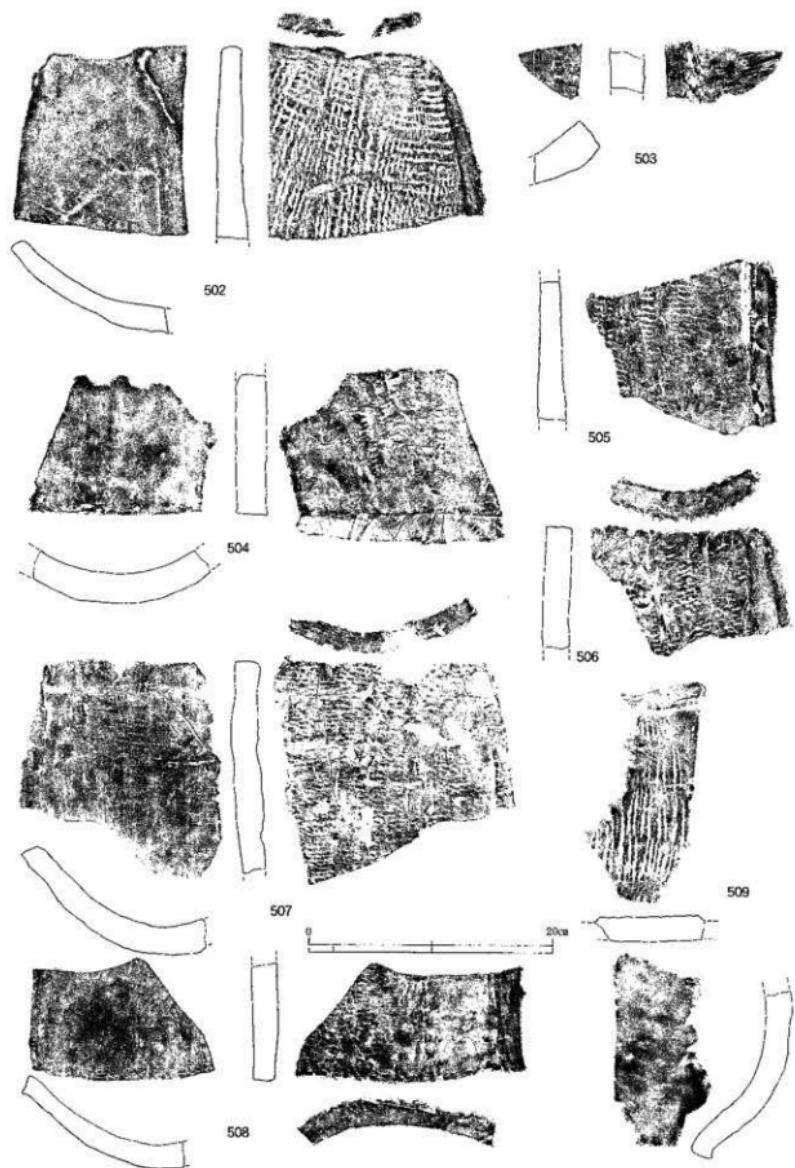
第25図 出土瓦⑤ (scale : 1/4)



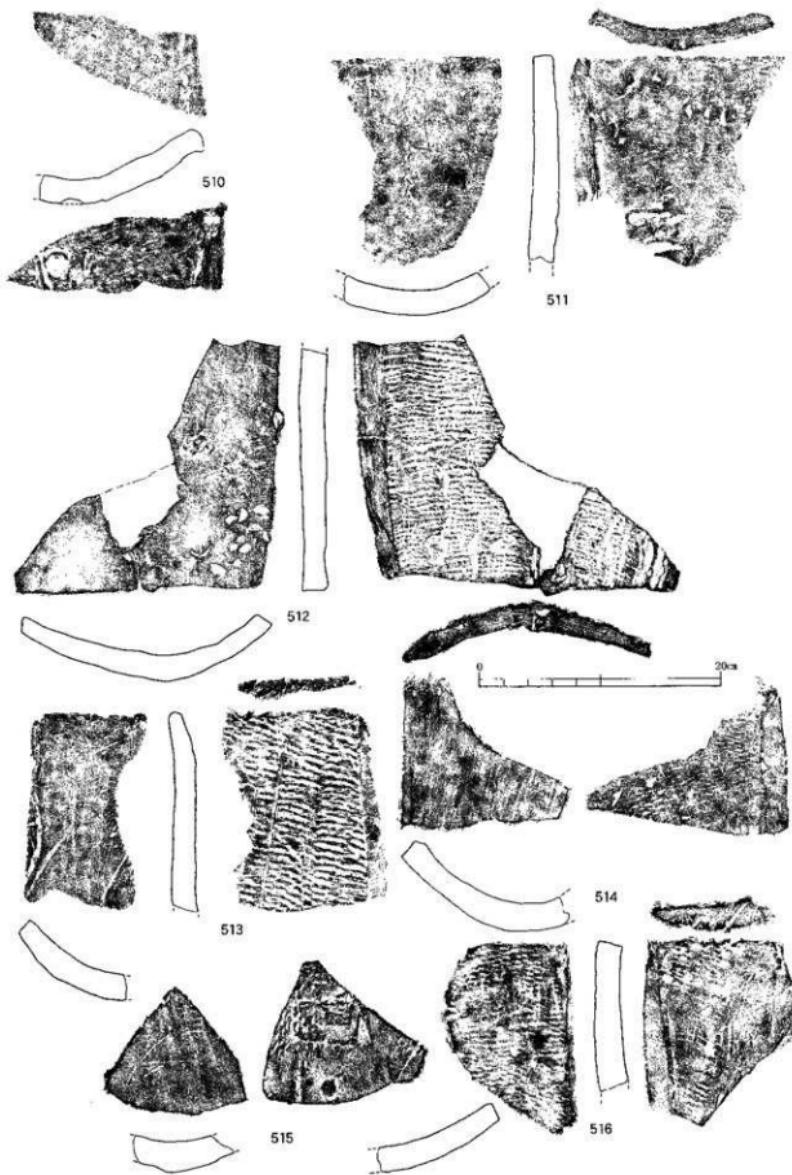
第26図 出土瓦⑯ (scale : 1/4)



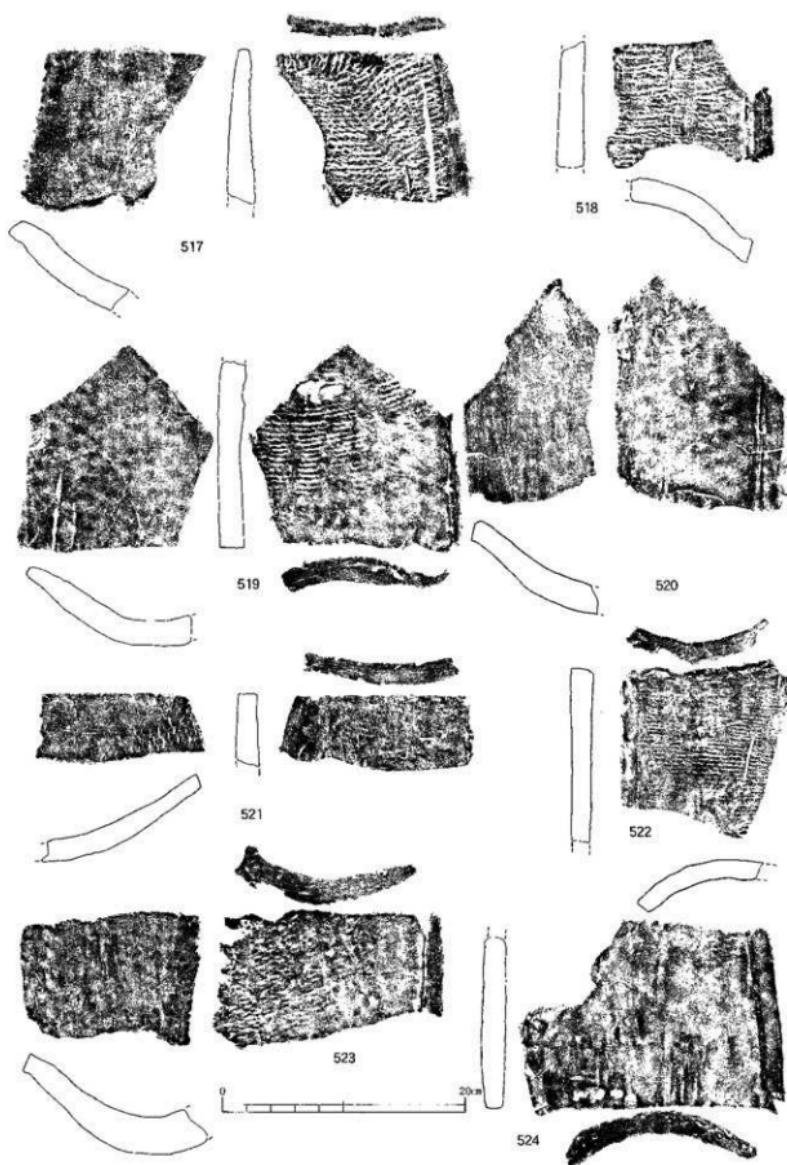
第27図 出土瓦⑰ (scale : 1/4)



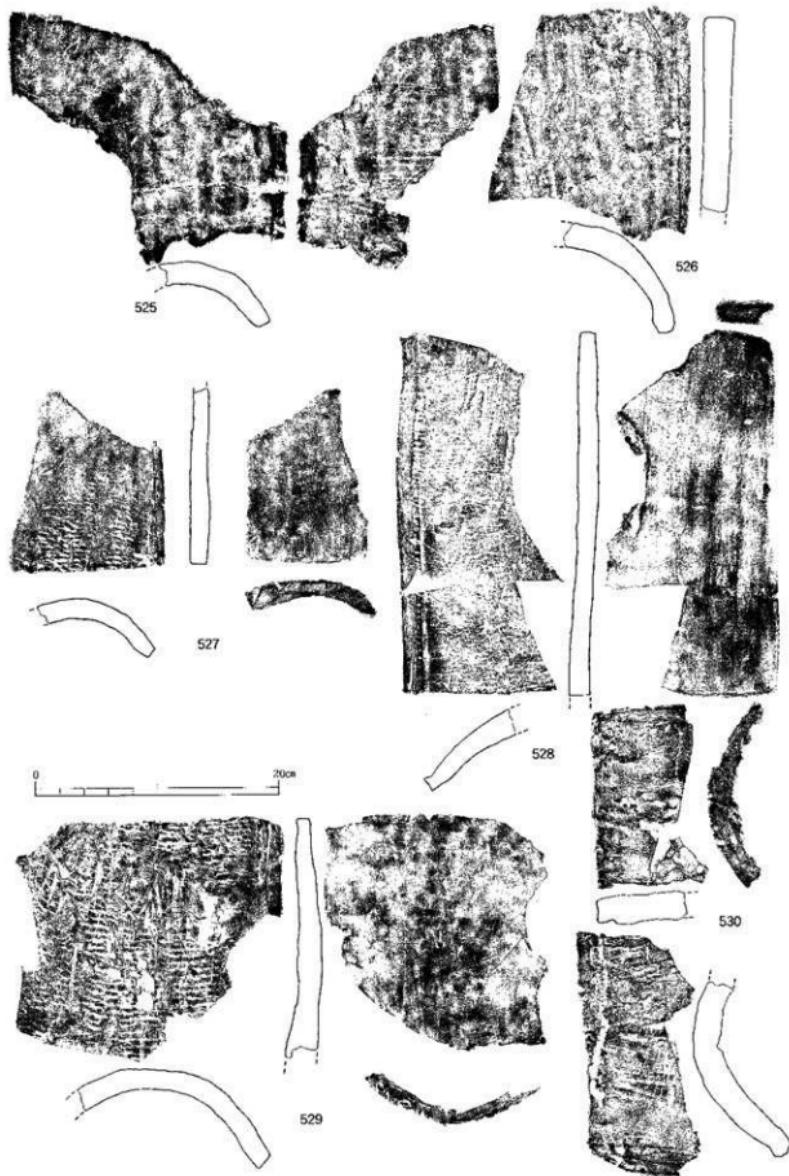
第28図 出土瓦⑩ (scale : 1/4)



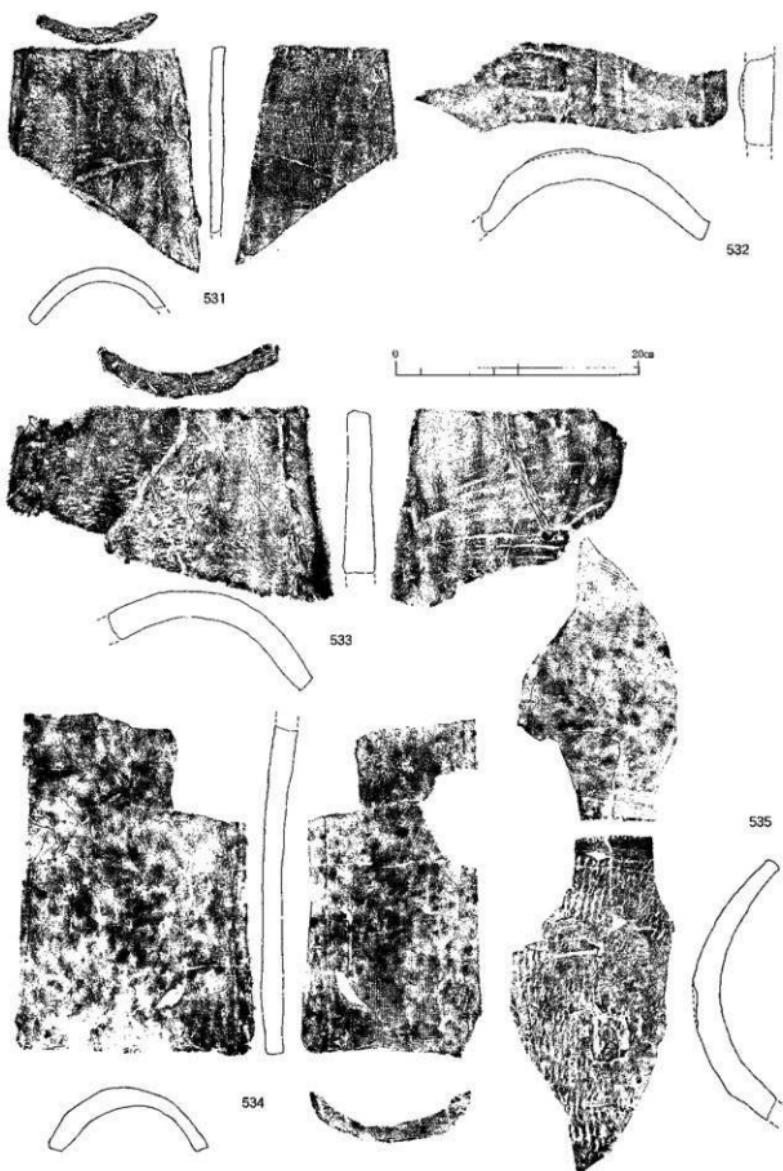
第29図 出土瓦⑩ (scale : 1/4)



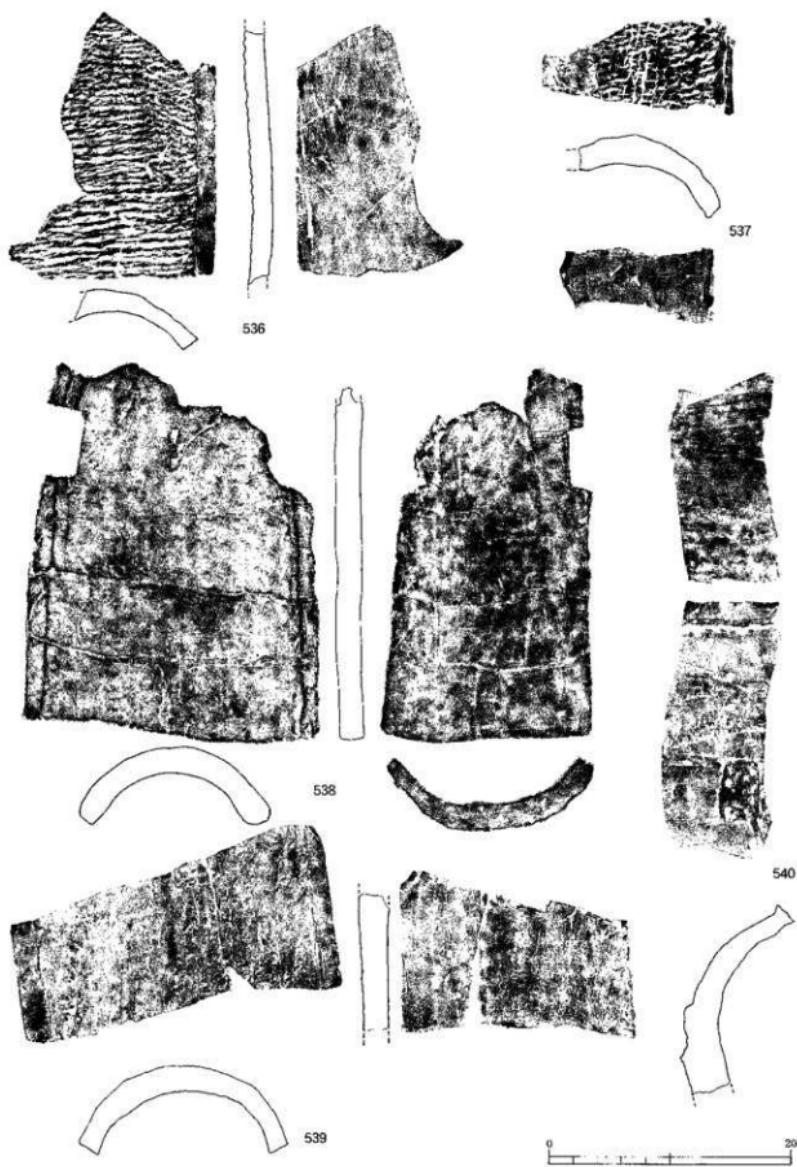
第30図 出土瓦⑩ (scale : 1/4)



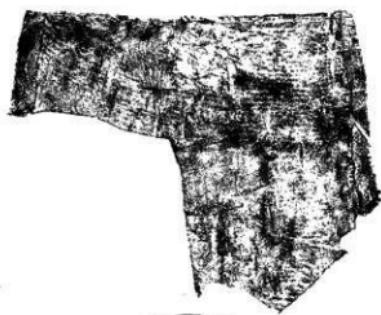
第31図 出土瓦② (scale : 1/4)



第32図 出土瓦② (scale : 1/4)



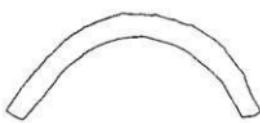
第33図 出土瓦② (scale : 1/4)



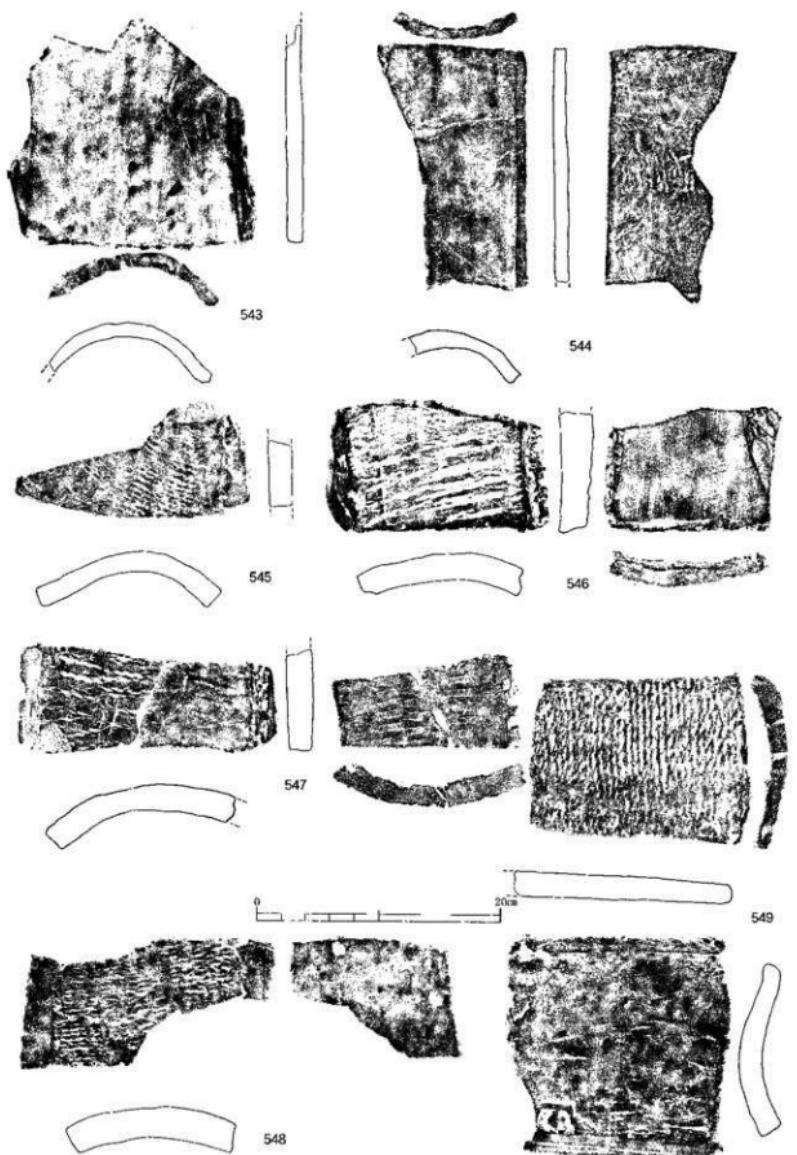
541



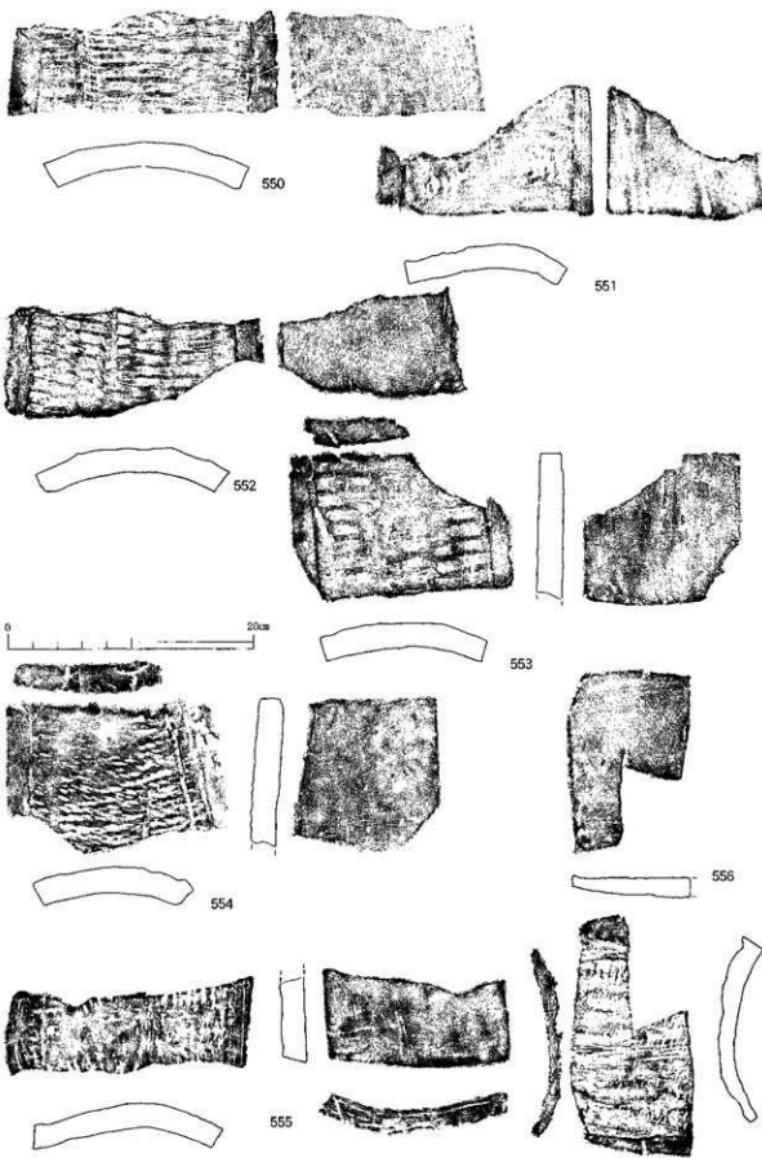
542



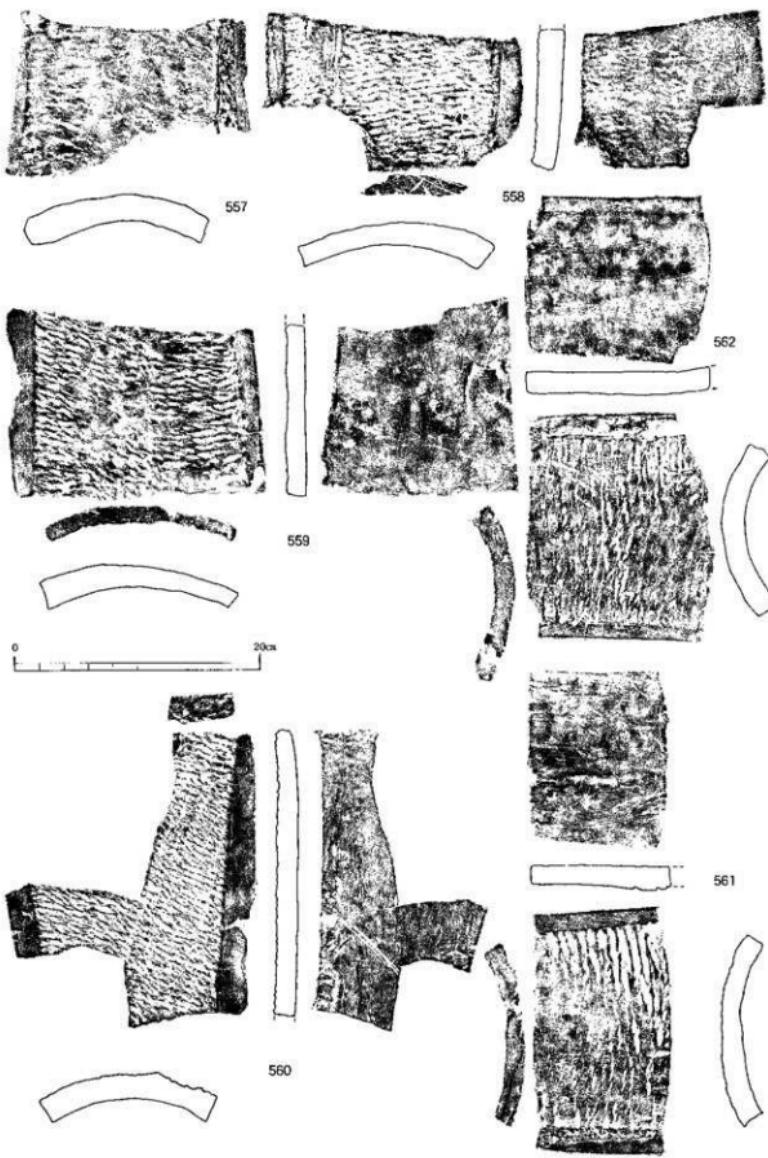
第34図 出土瓦② (scale : 1/4)



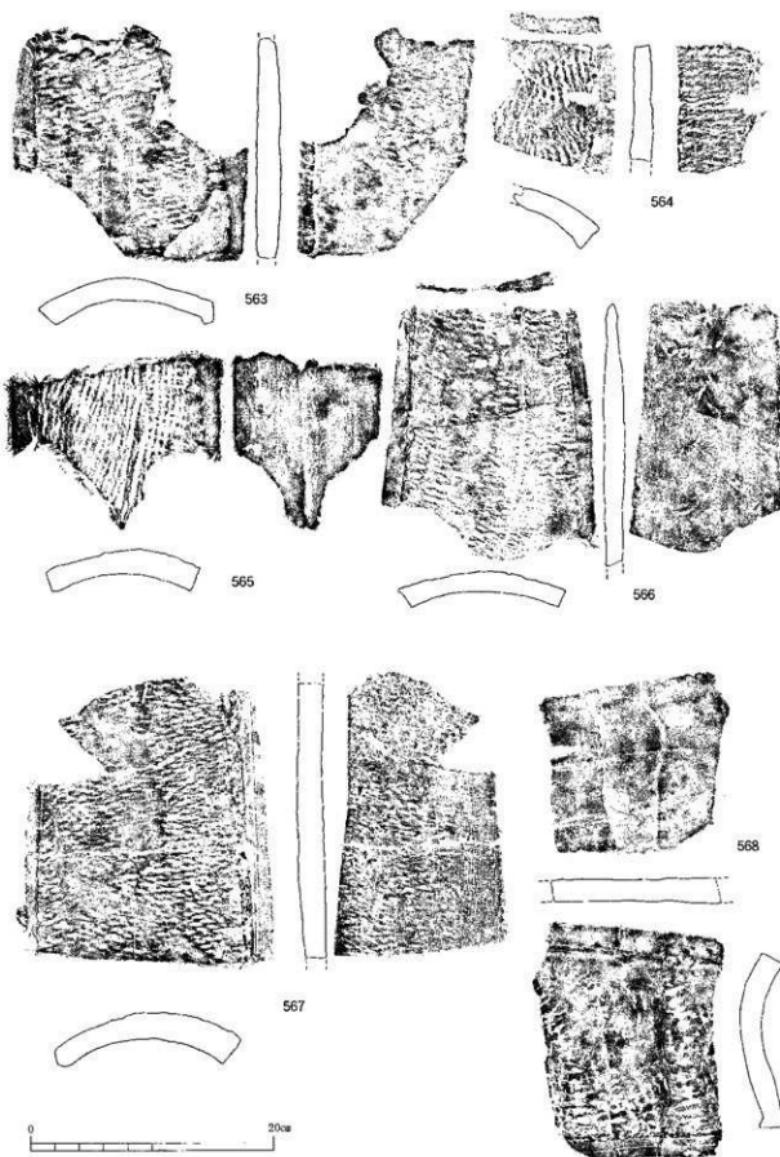
第35図 出土瓦② (scale : 1/4)



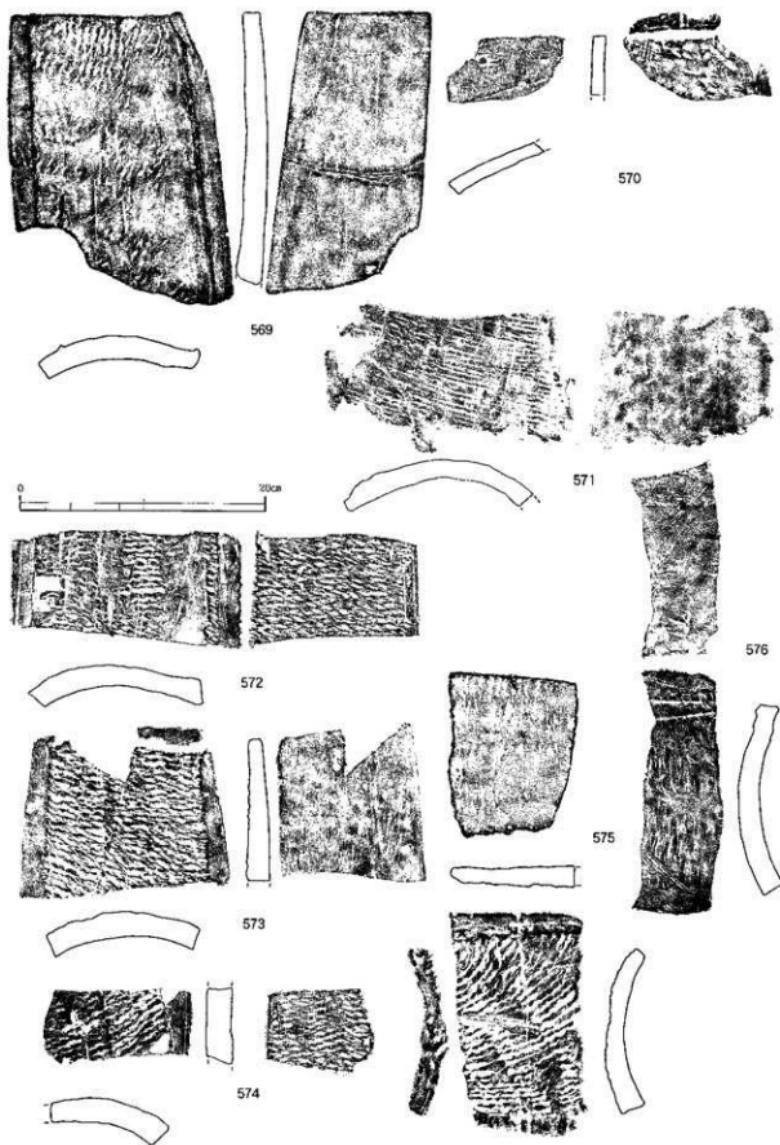
第36図 出土瓦器 (scale : 1/4)



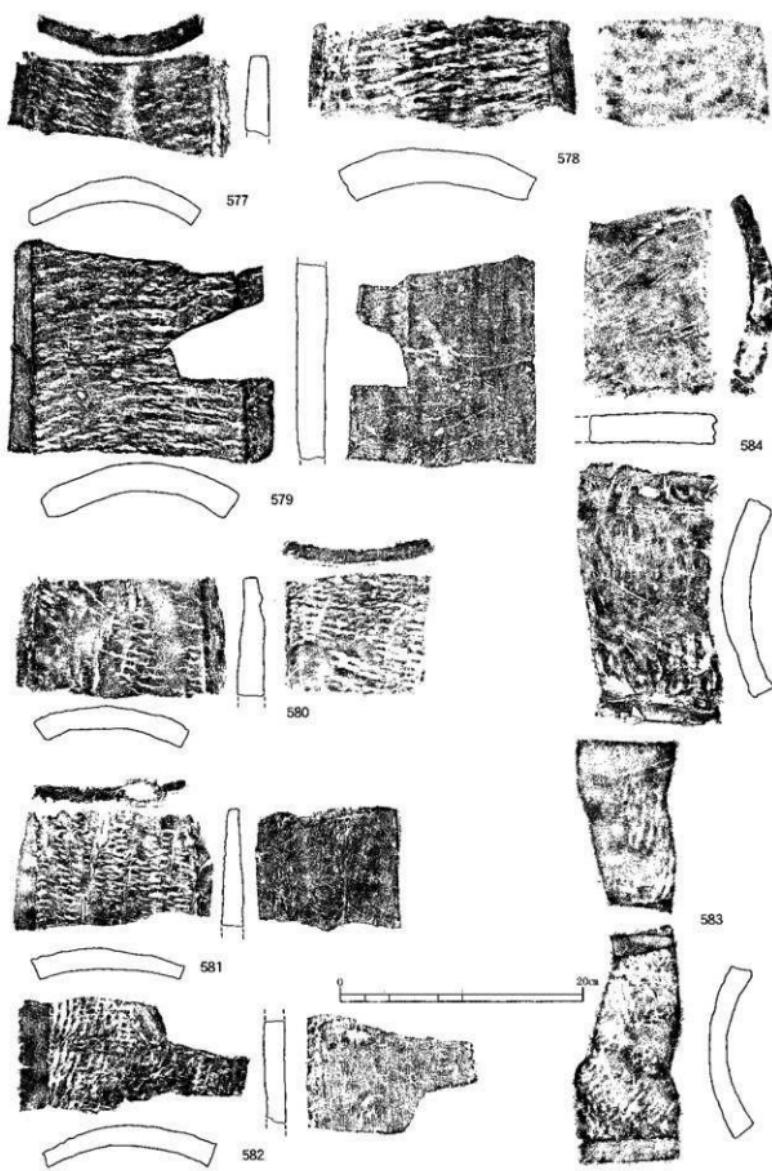
第37図 出土瓦⑦ (scale : 1/4)



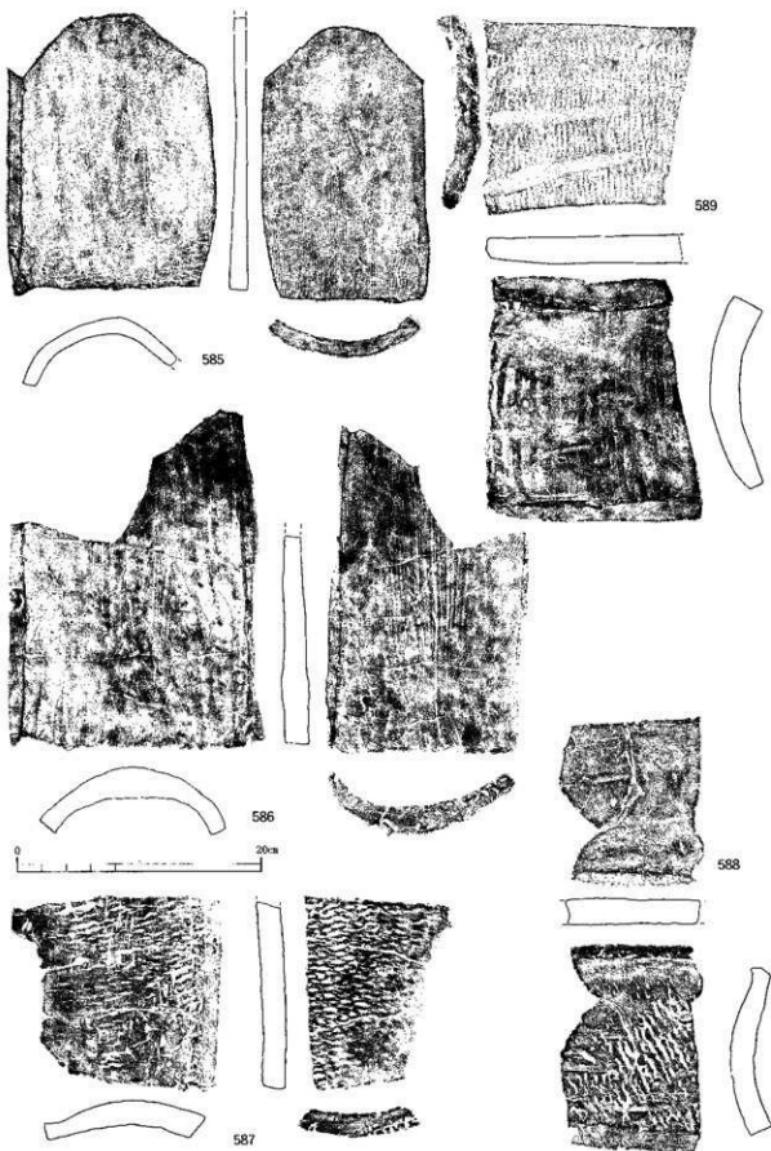
第38図 出土瓦② (scale : 1/4)



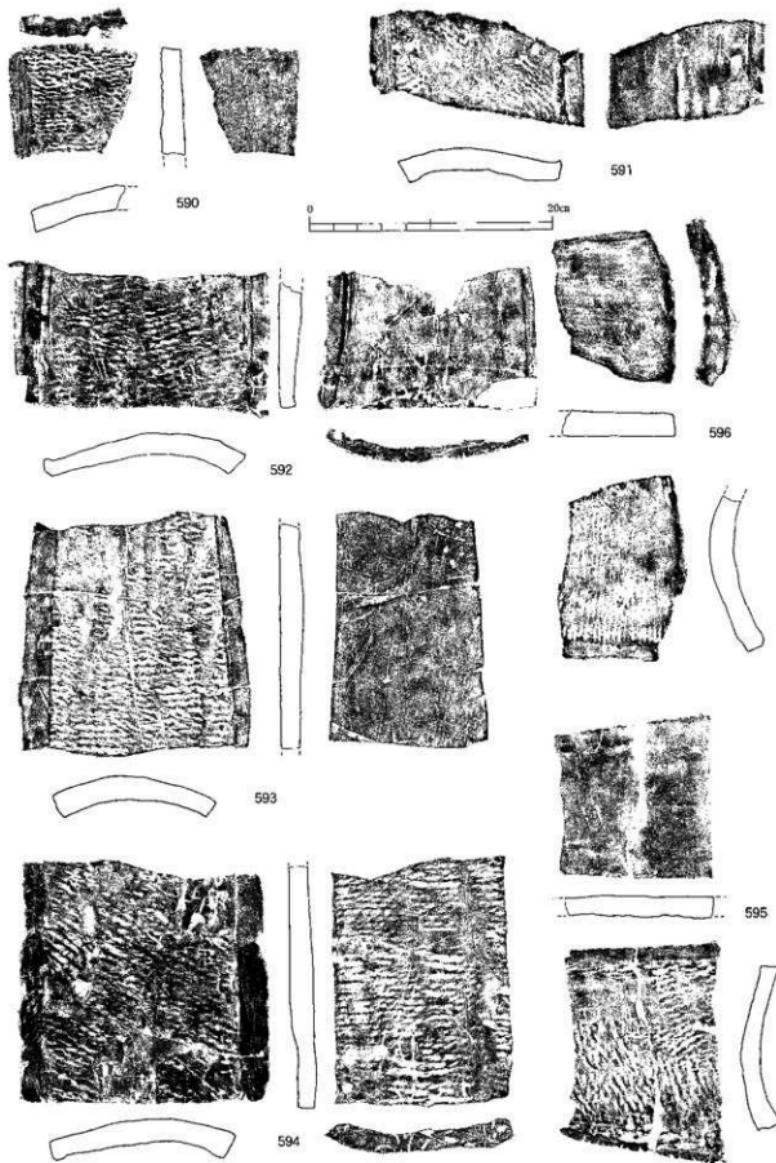
第39図 出土瓦⑨ (scale : 1/4)



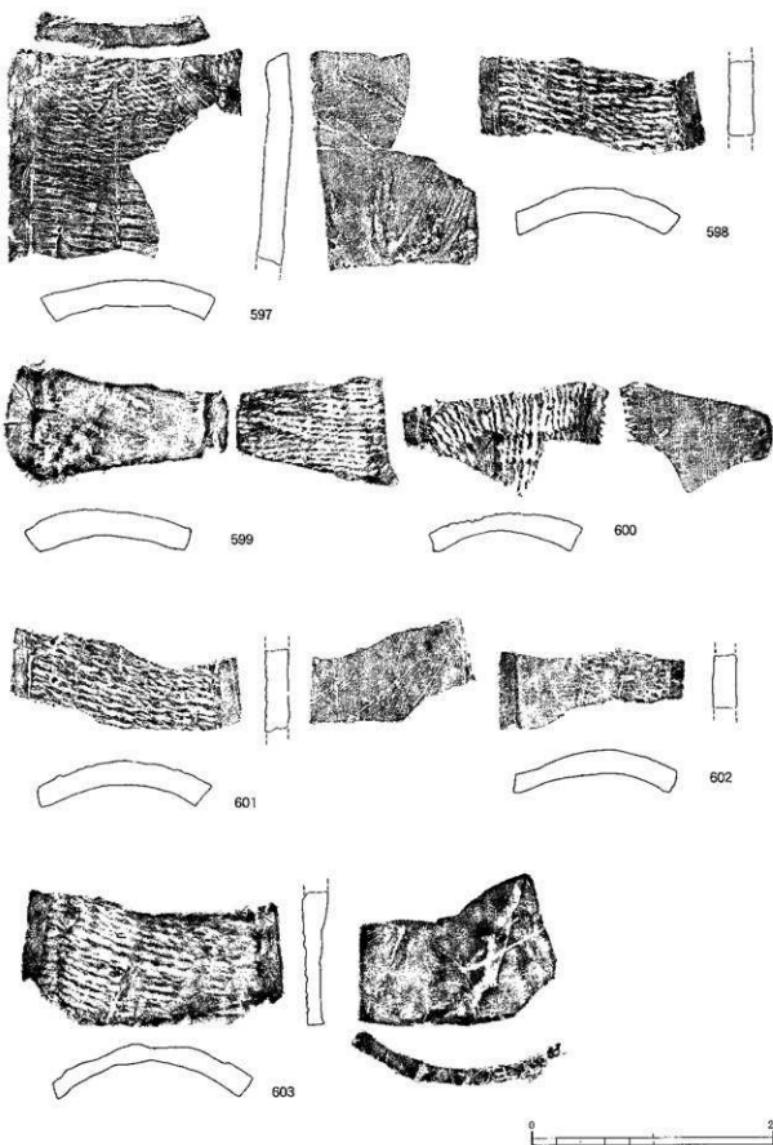
第40図 出土瓦③ (scale : 1/4)



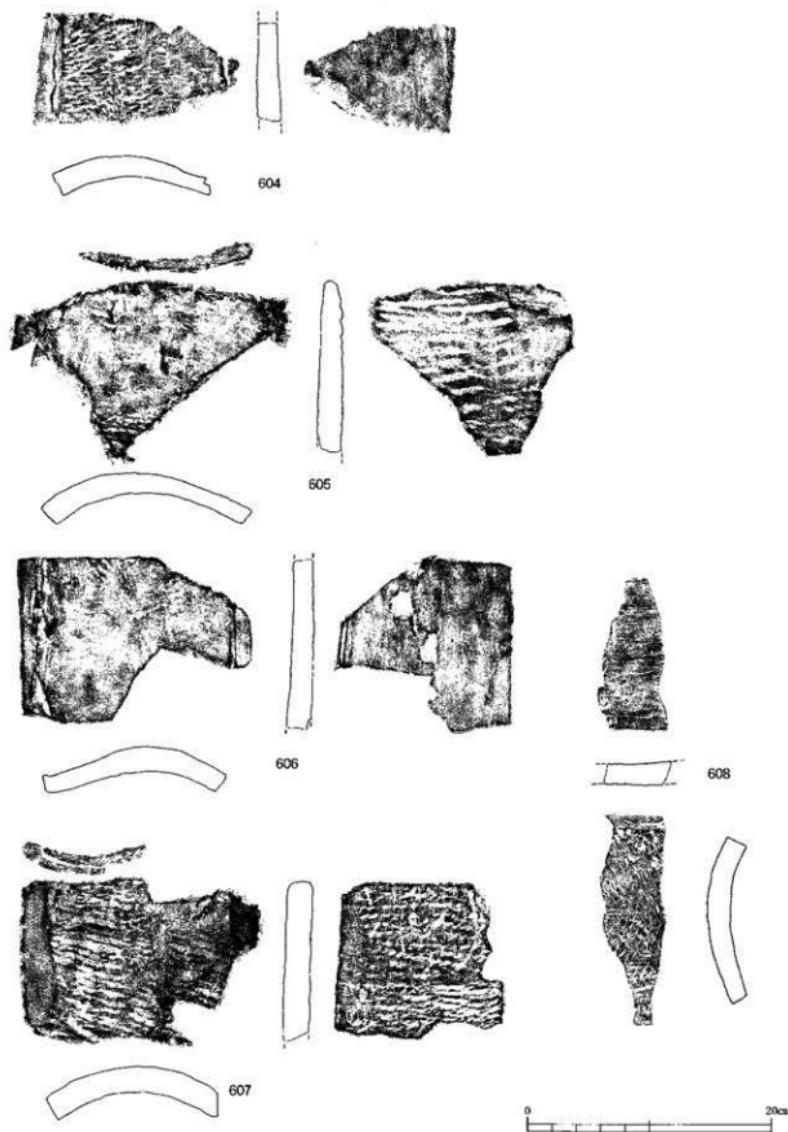
第41図 出土瓦③ (scale : 1/4)



第42図 出土瓦② (scale : 1/4)



第43図 出土瓦③ (scale : 1/4)



第44図 出土瓦② (scale : 1/4)

表1 遺物観察表（須恵器）① ※ 佐土原町文化財調査報告書第10集「下村墓跡群報告書（基礎資料編）」（1996年）掲載資料

番号	器種	出土地名	法 术		測定		色 質		繪上	備考	辯記記号	
			口径	縦径	底径	最高	内面	底面	外面	内面		
1	壺	A	12.6		9.6	3.9	円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ	灰	灰	表面自然釉	STA-1-B
2	壺	A	12.2		8.3	4.2	円軸ナゲ	円軸ナゲ	黄灰	黄灰	内面に黒斑有	STA-2-1-K灰 斑
3	壺	A	12.9		8.3	4.5	円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ・横削痕 (底)	褐灰	灰		STA-2-1-K灰 斑
4	壺	A	12.6		7.6	4.5	円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ・不定ナ ゲ	浅黄	灰白	自然釉	STA-2-1-K灰 斑
5	壺	A	13.7		8.8	4.9	円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ・不定ナ ゲ	オリーブ灰	灰	自然釉・深變付 合	STA-1a-2
6	壺	A	13.2		6.5	5.0	円軸ナゲ	円軸ナゲ・ヘラ削 リ	灰	灰		STA-2-2-a
7	壺	A	13.5		9.2	4.1	円軸ナゲ	円軸ナゲ	黑	黑	自然釉	STA-1a-3
8	壺	A	14.9		8.8	4.2	円軸ナゲ	円軸ナゲ・不定ナ ゲ	オリーブ灰	灰灰白	深變付合	STA-1a-3
9	甕	A	17.2		10.3	4.7	円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ・不定ナ ゲ	青灰	灰		STA-1a-3
10	甕	A	12.2		8.1	4.0	円軸ナゲ	円軸ナゲ・不定ナ ゲ	灰	明オリーブ灰		STA-1a-3
11	壺	A					円軸ナゲ	不定ナゲ	灰	黄灰		STA
12	壺	A	12.9		9.2	4.3	円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ・ハケ リ	灰	灰	自然釉・深變付 合	STA
13	壺	A	13.7		9.2	4.8	円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ・ハケ リ	黄灰	黄灰		STA-C-1-K 灰
14	甕	A	18.0		12.7	3.3	円軸ナゲ	円軸ナゲ	灰	灰白	自然釉	STA-7-K灰斑
15	甕	A	14.1		7.5	5.9	円軸ナゲ	円軸ナゲ	灰白	灰白		STA-1a-2
16	甕	A	13.6		6.5	6.0	円軸ナゲ	円軸ナゲ	暗灰青	暗灰青		STA-1a-2
17	甕	A			9.1		円軸ナゲ	円軸ナゲ	灰白	灰白		STA-1d-2
18	甕	A	15.8		8.8	6.2	円軸ナゲ	円軸ナゲ	灰	灰	自然釉・深變付 合	STA-1d-2
19	壺	A	13.4		6.1	6.5	円軸ナゲ	円軸ナゲ	雄	浅黄		STA-2-2号口一 所
20	壺	A	12.6		7.1	4.0	円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ	灰	灰白		STA-2-2-a
21	壺	A	10.9		6.3	4.3	円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ	灰	灰		STA-7-1K灰 斑
22	壺	A	12.4		6.2	4.5	円軸ナゲ	円軸ナゲ・ヘラ削 リ	灰	灰		STA-1号C-消
23	壺	A			7.3		円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ	浅黄	浅黄		STA-1a-2
24	甕	A	13.8		3.7		円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ・不定ナ ゲ	黄褐	黄灰		STA-1d-1b
25	甕	A	14.5		5.0		円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ	灰白	灰白		STA-7-1K灰斑
26	甕	A	18.6		4.6		円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ	灰	黄灰		STA-7-1K灰 斑
27	甕	A	14.1		4.0		円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ	灰	灰白		STA-7-1K灰 斑
28	甕	A	13.2		5.4	3.7	円軸ナゲ	円軸ナゲ	黄灰	黄灰	内面に妙か な溝有	STA-1号D-1消
29	甕	A	12.1				円軸ナゲ・輪子目 タスキ	円軸ナゲ・車輪狀 タスキ	灰白	灰白		STA-1(2-3)
30	甕	A	13.4				円軸ナゲ・輪子目 タスキ	円軸ナゲ・車輪狀 タスキ	褐灰	灰白		STA-8-2-a
31	甕	A	14.4				円軸ナゲ・輪子目 タスキ	円軸ナゲ・車輪狀 タスキ	灰	灰		STA-8-2-a
32	甕	A	15.3				円軸ナゲ・輪子目 タスキ	円軸ナゲ・車輪狀 タスキ	に点黄	灰		STA-8-2-a
33	甕	A	15.3				円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ	灰	灰白	自然釉・水滴形 の底付合	STA-1-a
34	甕	A	18.9				円軸ナゲ・輪子目 タスキ	円軸ナゲ・車輪狀 タスキ	皮白	灰白		STA-1-b-3
35	甕	A	19.1				円軸ナゲ・輪子目 タスキ	車輪狀タスキヘラ 削リ	灰	灰		STA-8-2-a
36	甕	A	22.7				円軸ナゲ・輪子目 タスキ	円軸ナゲ・同心円 タスキ	浅黄	灰	内外ともに行熱 鉄	STA-B-1
37	甕	A	22.0				円軸ナゲ・平行タ スキ	円軸ナゲ・同心圓 タスキ	オリーブ灰	暗オリーブ 灰		STA-1-d-4
38	甕	A	12.7				円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ・小足ナ ゲ	灰	灰		STA-A-1-2下1a
39	壺	B	9.6		6.2	4.5	円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ	灰	灰	表面自然釉	STA-B-A-3
40	壺	B	12.6		8.3	4.3	円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ	に点灰	灰灰白		STA-B-A-2
41	壺	B	12.9		8.0	3.8	円軸ナゲ	円軸ナゲ・不定ナ ゲ	灰	灰		STA-B-1
42	壺	B	13.1		8.7	4.2	円軸ナゲ・ヘラ削 リ	円軸ナゲ・不定ナ ゲ	灰	灰白		STA-B-1-2-2a
43	壺	B	13.1		6.2	4.4	円軸ナゲ	円軸ナゲ	灰	灰	外表面自然釉・内 面黒變付合	STA-C-E

表2 遺物観察表（須患者）② 佐土原町文化財調査報告書第10集『下村窯跡群報告書（基礎資料編）』（1996年）掲載資料

番号	器種	出土地区	法量			調整		色調		鉢土	備考	計測記号	
			口径	脚径	底径	高さ	外面	内面	外面	内面			
44	灰	B	13.7		9.0	4.2	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不対称ナデ	灰	灰	黒	外側自然釉	STB-
45	灰	B	14.0		9.9	4.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不対称ナデ	灰	灰	黒	STB-	
46	灰	B	14.8		8.9	4.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り	灰	灰	黒	外側自然釉	STB-C-1
47	灰	B	13.3		9.7	5.0	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り	灰白	灰	黒	外側自然釉	STB-C-3
48	灰	B	11.7		7.4	5.3	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不対称ナデ	灰	灰白	黒	自然釉・窯盤付着	STB-B-2a-c
49	輪	B	15.8		7.3	5.1	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り	灰	灰	黒		STB--
50	輪	B			6.5		回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	黒		STB--
51	灰	B			7.1		回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰白	黒		STB-C-3
52	灰	B			7.2		回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰白	黒	内外ともに鉄分付着	STB-C-1
53	灰	B			7.7		回転ナデ・小丸子ナデ	回転ナデ	灰	灰	黒	底面近くに削痕	STB-B-2
54	灰	B			8.5		回転ナデ	回転ナデ	暗灰	灰白	黒		STB-A-3
55	灰	B	12.8		6.2	6.0	回転ナデ	回転ナデ	浅黄緑	浅黄緑	黒		STB-A-2
56	灰	B	14.8		7.9	5.3	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不対称ナデ	灰	灰白	黒	外側自然釉	STB-E-2
57	灰	B	13.2		7.1	4.3	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ	灰	灰白	黒		STB-C-2-a
58	灰	B	13.2		6.1	4.8	回転ナデ	回転ナデ	浅黄緑	浅黄緑	黒		STB-C-2
59	灰	B	18.4		11.9	5.9	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不対称ナデ	灰白	灰白	黒		STU-A-2
60	灰	B			11.1		回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不対称ナデ	褐灰	灰白	黒		STD-B-2
61	灰	B	18.4		11.9	5.9	回転ナデ	回転ナデ・ハケ	灰オリーブ	灰白	黒		STB-C-1
62	甕	B	17.3				回転ナデ	回転ナデ	灰	灰白	黒	表面性的鉄分付着	STB-A-2
63	甕	B	18.6				回転ナデ	回転ナデ・同心円タキナ	青い黄緑	黒	黒	内外ともに鉄分付着	STB-B-1-d
64	甕	B	20.1				回転ナデ・平行タタキナ	回転ナデ・同心円タキナ	灰	灰	黒	外側自然釉・水溶性鉄分付着	STB-E-C-1
65	甕	B	20.2				回転ナデ	回転ナデ	灰黄	灰白	黒		STB-E-B-2
66	甕	B	21.3				回転ナデ・平行タタキナ	回転ナデ・同心円タキナ	灰	灰	黒		STB-E-2
67	甕	B					回転ナデ	回転ナデ	灰オリーブ	灰	黒		STB-E-1
68	返坏	B					回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り	灰	灰	黒		STB-A-2
69	甕	B	20.6				回転ナデ・平行タタキナ	回転ナデ・同心円タキナ	灰白	灰	黒	自然釉・水溶性鉄分付着	STB-C-1
70	甕	B	21.8				回転ナデ・平行タタキナ	回転ナデ・同心円タキナ	黄灰	灰	黒	自然釉	STB-C-2-a
71	甕	B	23.3				回転ナデ・平行タタキナ	回転ナデ・同心円タキナ	灰	灰	黒		STB-E-2
72	壺	B	11.1		6.7	16.8	回転ナデ	回転ナデ・不対称ナデ	灰	灰	黒	自然釉・水溶性鉄分・内面・底面・一部削痕	STB-A-2
73	壺	B	8.4				回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り	灰	灰白	黒		STB-E-2
74	鏡板	B	9.7				回転ナデ・椅子背タタキナ	回転ナデ	浅黄	黄灰	黒		STB-E-1-d
75	壺	B	15.5		2.2		回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り	灰	灰	黒		STB-E-2
76	壺	B	14.3		3.2		回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削り	灰	灰	黒	自然釉	STB-E-2
77	壺	B	13.7		2.7		回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不対称ナデ	灰	灰	黒		STB-E-C-2b
78	壺	B	14.1		3.1		回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不対称ナデ	灰	灰	黒		STB-C-2-a
79	壺	B	14.7		3.1		回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不対称ナデ	灰オリーブ	灰	黒		STB-E-2
80	壺	B	13.9		3.2		回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	黒		STB-A-3
81	壺	B	13.9		3.5		回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ	黄灰	灰オリーブ	黒		STB-E-1
82	壺	B	13.5		3.8		回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不対称ナデ	灰	灰	黒		STB-E-2
83	蓋	B	13.8			3.4	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不対称ナデ	灰	灰	黒	天井部へテ刺見	STB-A-2
84	蓋	B	18.5			4.3	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不対称ナデ	褐灰	灰	黒		STB-A-2
85	蓋	B	15.3			3.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不対称ナデ	赤	褐灰	黒	自然釉付着	
86	灰	C	11.7		6.1	3.4	回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰白	黒		STC-3

表3 造物観察表(須恵器)③ ※佐土原町文化財調査報告書第10集『下村窯跡群報告書(基礎資料編)』(1996年)掲載資料

番号	器種	出土地	法 級			調査		色調		胎土	備考	注記号
			口径	腹径	器高	外面	内面	外面	内面			
87	环	C	16.4	4.9	3.9	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰	灰	密	底に成ね焼き跡	STC-3
88	环	C	16.1	5.0	3.3	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰	灰	密		STC-3
89	环	C	16.1	4.9	3.7	内輪ナゲ	内輪ナゲ	灰	灰	密		STC-3
90	环	C	11.8	5.5	4.9	内輪ナゲ・小走ナゲ	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰	灰	密	外面底面頂部に焼け跡	STC-3
91	环	C	11.5	5.3	4.1	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰	灰	密		STC-3
92	环	C	11.9	5.6	4.9	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰	灰	密		STC-3
93	环	C	12.1	5.9	4.7	内輪ナゲ	内輪ナゲ	灰	灰	密		STC-3
94	环	C	12.2	5.3	5.5	内輪ナゲ	内輪ナゲ	灰白	灰白	密		STC-3
95	环	C	13.4	6.0	5.0	内輪ナゲ	内輪ナゲ	灰白	灰白	密		STC-3
96	椭	C	11.6	7.1	6.6	内輪ナゲ	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰	灰	密		STC-3
97	椭	C	12.5	6.2	6.0	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰	灰	密		STC-3
98	椭	C	13.1	7.1	5.1	内輪ナゲ	内輪ナゲ	灰白	灰	密	一部亜鉛	STC-3
99	椭	C	13.9	6.5	5.8	内輪ナゲ・ヘラ削り・小走ナゲ	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰	灰	密		STC-3
100	椭	C	13.4	7.4	5.9	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰	灰	密		STC-3
101	椭	C	14.0	7.3	5.5	内輪ナゲ	内輪ナゲ	灰	灰白	密		STC-3
102	椭	C	16.1	7.6	7.9	内輪ナゲ	内輪ナゲ	灰	灰	密	底ね焼き痕	STC-3
103	椭	C	16.4	7.2	8.2	内輪ナゲ	内輪ナゲ	灰	灰	密	内面底面焼き痕	STC-3
104	椭	C	17.3	7.5	7.3	ヘラ削り	内輪ナゲ	褐灰	褐灰	密		STC-3
105	椭	C	13.4	7.3	6.0	内輪ナゲ	内輪ナゲ	灰白	浅黄	密		STC-3
106	椭	C	14.1	6.5	6.0	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰	灰	密	底外側にヘラ記号	STC-3
107	椭	C	15.4	5.2	6.6	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰	灰	密		STC-3
108	碗	C		3.9	2.2	不対ナゲ	不対ナゲ	灰	黄灰	密		STC-3
109	碗	C	16.8	7.3	7.7	内輪ナゲ	内輪ナゲ	灰白	灰白	密		STC-3
110	椭	C	16.5	7.9	7.6	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り	暗灰黄	灰オリーブ	密		STC-3
111	椭	C				内輪ナゲ	内輪ナゲ	灰	灰	密		STC-3
112	椭	C	13.4	6.5	5.9	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰白	灰白	密		STC-3
113	椭	C	14.2	7.6	6.2	内輪ナゲ・ハケ	内輪ナゲ・ハケ	灰	灰	密		STC-3
114	椭	C	16.0	7.8	7.5	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ	灰	灰	密		STC-3
115	椭	C	16.0	7.3	7.4	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り・小走ナゲ	灰	灰	密		STC-3
116	椭	C	16.7	8.2	7.6	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ	灰	灰	密	斜分付着	STC-3
117	椭	C	16.7	8.2	7.8	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰	灰	密	高台貼り付け 施地取付の剥離目	STC-3
118	椭	C	13.4	6.5	5.9	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・推ナゲ	灰白	灰白	密		STC-3
119	椭	C	17.5	9.6	7.7	ヘラ削り・ハケ	内輪ナゲ・ハケ	灰	灰白	密	自然釉	STC-3
120	椭	C	17.9	7.4	7.5	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り・小走ナゲ	灰	灰	密	内面底面焼き痕	STC-3
121	椭	C	18.3	8.6	6.9	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ	灰	灰	密		STC-3
122	环	C	11.7	5.8	5.6	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰	灰	密		STC-3
123	环	C	12.4	5.4	4.6	ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰白	灰白	密		STC-3
124	环	C	12.8	6.5	4.7	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ	灰オリーブ	灰オリーブ	密		STC-3
125	环	C	12.6	6.2	4.5	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ	灰オリーブ	灰オリーブ	密		STC-3
126	环	C	13.0	5.8	4.5	内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰	灰	密	内面底面焼き痕	STC-3
127	环	C	14.0			内輪ナゲ・ヘラ削り	内輪ナゲ・ヘラ削り	灰	灰	密		STC-3

表4 遺物観察表〈須恵器〉④ ※佐土原町文化財調査報告書第10集『下村塙跡群報告書(基礎資料編)』(1996年)掲載資料

番号	器種	出土 地区	法 盆			調 働		色 調		輪上	備考	片記記号	
			口径	脚径	底径	脚高	外面	内面	外面	内面			
128	坪	C	11.7		5.1	4.6	へク削り	回転ナデ	灰白	灰	衝		STC-3
129	坪	C	13.6		6.2	4.8	回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰白	衝		STC-3
130	壺	C	15.9		5.9	4.7	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削 り	灰白	灰白	衝	空体付着	STC-3
131	壺	C	14.0		5.1	2.6	回転ナデ・小走ナ デ	回転ナデ・ヘラ削 り	灰白	灰白	衝		STC-3
132	壺	C	17.3		8.6	7.8	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削 り・走ナデ	灰	灰	衝	自然縫、無分 付着	STC-3
133	壺	C	16.1		7.6	7.5	回転ナデ・ラ削 り	回転ナデ・ヘラ削 り	オリーブ灰	オリーブ灰	衝		STC-3
134	壺	C			6.6	6.6	回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	衝	深ねじき痕	STC-3
135	壺	C	15.8		8.2	8.2	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ・ヘラ削 り	灰	灰	衝		STC-3
136	壺	C	17.9		7.6	7.6	回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	衝		STC-3
137	壺	C	17.4		8.3	8.3	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削 り	灰黒	灰黒	衝		STC-3
138	坪	C	13.1		6.5	4.6	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄褐	淡黄褐	衝	「鉛質」	STC-3
139	坪	C	13.2		6.8	4.4	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削 り	灰白	灰白	衝		STC-3
140	坪	C	13.5		6.1	4.9	回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	衝		STC-3
141	壺	C	13.7		6.5	5.8	回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰白	衝		STC-3
142	壺	C	14.1		7.5	6.0	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ・ヘラ削 り・ハネ	灰白	灰白	衝		STC-3
143	壺	C	15.3		7.5	5.1	回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰白	衝		STC-3
144	坪	C	12.4		7.2	4.2	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ・ヘラ削 り	灰	灰	衝		STC-3
145	坪	C	12.6		7.5	3.8	回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰白	衝		STC-3
146	坪	C	13.0		6.4	4.2	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削 り	灰	灰	衝		STC-3
147	坪	C	13.3		7.1	3.5	回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰白	衝		STC-3
148	坪	C	13.3		7.1	6.2	回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	衝		STC-3
149	坪	C	13.6		8.1	4.6	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ	灰	灰	衝		STC-3
150	坪	C	12.0		6.2	4.3	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ・ヘラ削 り	灰	灰	衝		STC-3
151	坪	C	12.4		7.4	4.4	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ・小走ナ デ	灰	灰	衝	自然縫	STC-3
152	坪	C	13.7		8.9	4.3	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ・ヘラ削 り	灰白	淡黄褐	衝		STC-3
153	壺	C	13.2		4.5	2.5	回転ナデ	回転ナデ・小走ナ デ	灰	灰	衝		STC-3
154	皿	C	13.8		9.3	3.5	へラ削り	回転ナデ・ハネ	灰	灰オリ・ブ	衝		STC-3
155	壺	C	14.7		7.3	6.3	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ	灰	灰少・ブ	衝		STC-3
156	壺	C	14.4		7.1	5.8	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ	灰	灰	衝		STC-3
157	壺	C	15.5		7.8	6.0	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ	灰	灰	衝	自然縫、空体付 着	STC-3
158	壺	C	12.2		6.5	4.5	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ	灰白	灰白	衝		STC-3
159	壺	C	11.9		6.2	4.8	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削 り	灰白	灰	衝		STC-3
160	皿	C	14.8		6.8	4.0	回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰	衝		STC-3
161	皿	C	12.8		6.5	4.4	回転ナデ	回転ナデ・小走ナ デ	灰	灰	衝		STC-3
162	坪	C	12.4		6.5	3.5	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削 り	灰	灰	衝		STC-3
163	坪	C	12.6		6.1	3.9	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ	灰	灰白	衝		STC-3
164	坪	C	12.7		6.3	4.3	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ	淡黄褐	淡黄褐	衝		STC-3
165	坪	C	12.9		5.4	4.7	回転ナデ・ヘラ削 り・走ナデ	回転ナデ・ヘラ削 り・走ナデ	灰	灰	衝		STC-3
166	坪	C	14.5		6.3	6.3	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ	淡黄褐	淡黄褐	衝		STC-3
167	坪	C	14.6		6.2	6.2	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ	にぶい黄褐	淡黄褐	衝		STC-3
168	坪	C	14.8		5.3	5.3	回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰白	衝		STC-3
169	坪	C	14.9		7.6	7.6	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ	暗灰	灰白	衝		STC-3

表5 遺物観察表(須恵器)⑤ ※佐土原町文化財調査報告書第10集『下村墓跡群報告書(基礎資料編)』(1996年)掲載資料

番号	器種	出土地点	法 盘			調整		色調		粘土	備考	注記号	
			口径	側径	底径	外面	内面	底面	外面				
170	壺	C	14.5		6.0	6.0	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り	褐色	褐色	砂		STC-3
171	壺	C	13.4		7.7	7.7	回転ナデ・ヘラ削り・小窓ナデ	回転ナデ・ヘラ削り	灰	灰	砂	重ね焼き底	STC-3
172	壺	C	14.8		7.4	7.4	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ	灰白	灰	砂		STC-3
173	壺	C	15.3		6.2	6.2	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ	浅黄緑	浅黄緑	砂		STC-3
174	壺	C	12.2		6.6	2.4	ヘラ削り	回転ナデ	灰白	灰白	砂		STC-3
175	壺	C	14.2		6.9	3.0	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ	灰	灰	砂		STC-3
176	壺	C	13.9		7.9	5.6	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り	灰白	灰	砂		STC-3
177	壺	C	18.7		7.5	6.7	回転ナデ	ヘラ削り・回転ナデ	砂	にぶい灰	砂		STC-3
178	壺	C	14.8		7.4	2.0	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ	回転ナデ・不定ナデ	灰	灰	砂		STC-3
179	壺	C					回転ナデ	回転ナデ	褐色	灰黄	砂		STC-3
180	壺	C	15.9		9.4	2.2	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り	褐色	灰黒	砂		STC-3
181	壺	C	18.6		9.9	2.4	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り	灰オリーブ	灰オリーブ	砂		STC-3
182	壺	C	13.8		6.7	1.9	回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	砂		STC-3
183	壺	C	11.5		4.2		ヘラ削り	回転ナデ	灰黄	灰黄	砂		STC-3
184	壺	C	14.6		3.9		回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不定ナデ	灰	灰	砂		STC-3
185	壺	C	12.8		13.2	28.8	回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	砂	N部列点火	STC-3
186	壺	C	7.1		16.6	20.8	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ	灰	灰	砂		STC-3
187	壺	C	10.5		15.2	27.9	回転ナデ・路丁タキ	回転ナデ	灰白	褐色	砂		STC-3
188	壺	C	9.4		14.5	28.4	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ	灰オリーブ	灰オリーブ	砂	外腹鉄分付	STC-3
189	壺	C	9.5		13.7	25.8	回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	砂		STC-3
190	壺	C	9.3		9.5	23.8	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り	灰	灰	砂		STC-3
191	壺	C	8.4		12.1	24.5	回転ナデ・ヘラ削り・格子目タキ	回転ナデ	灰白	灰	砂		STC-3
192	壺	C	10.5		11.9	24.7	ヘラ削り	回転ナデ	灰黒	灰白	砂		STC-3
193	壺	C	8.9		14.7	27.4	回転ナデ・格子目タキ	回転ナデ	灰	灰白	砂	内面自然釉	STC-3
194	壺	C	9.5		11.2	24.9	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ	灰	灰	砂	自然釉	STC-3
195	壺	C					回転ナデ・格子目タキ	回転ナデ	灰	灰白	砂		STC-3
196	壺	C					回転ナデ・格子目タキ	回転ナデ	灰	灰白	砂		STC-3
197	壺	C					回転ナデ・格子目タキ	回転ナデ	灰オリーブ	灰	砂	鉄分付	STC-3
198	壺	C	8.6		11.1	24.0	回転ナデ・ヘラ削り・格子目タキ	回転ナデ	灰白	灰白	砂		STC-3
199	壺	C	3.1		6.0	7.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ	灰白	灰白	砂		STC-3
200	壺	C	10.2		12.6	23.9	回転ナデ	回転ナデ	灰オリーブ	灰	砂		STC-3
201	壺	C	4.3		6.5	9.4	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ	灰	灰	砂		STC-3
202	壺	C	8.7				格子目タキ	回転ナデ	明褐色	灰白	砂	自然釉	STC-3
203	壺	C	8.6				回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ	灰白	灰白	砂	自然釉	STC-3
204	壺	C	8.6				回転ナデ・格子目タキ	回転ナデ	灰白	灰	砂		STC-3
205	壺	C	10.5		11.5	15.5	格子目タキ・ハケ		灰白	灰	砂		STC-3
206	壺	C	8.8		10.5	22.5	ヘラ削り	回転ナデ	褐色	灰白	砂		STC-3
207	壺	C	9.1		14.2	25.2	回転ナデ	不定ナデ		灰	砂	自然釉	STC-3

表6 遺物觀察表(須恵器)⑥ 佐土原町文化財調査報告書第10集『下村遺跡群報告書(基礎資料編)』(1996年)掲載資料

番号	番種	出土 地区	法量				測定		色調 外側 内面	胎上	塘与	注記記号	
			口径	胴径	底径	高さ	外側	内面					
208	壺	C	19.1		13.1	29.5	回転ナデ・縫子目 タタキ	回転ナデ	灰	灰白	面	自然釉	STC-3
209	壺	C	8.9		12.0	21.9	回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	面		STC-3
210	壺	C	18.0		19.2	23.9	回転ナデ・縫子目 タタキ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削 り	灰白	灰	面	自然釉・窓体付 有	STC-3
211	壺	C	5.1		13.0	13.1	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ	暗灰	灰	面		STC-3
212	壺	C	9.5		12.4	15.5	ヘラ削り	回転ナデ	灰	灰オーブ	面		STC-3
213	壺	C	10.9		12.1	23.7	回転ナデ・縫子目 タタキ	回転ナデ・車輪状 タタキ	灰白	灰	面	自然釉・鉄分付 有	STC-3
214	壺	C	12.7		15.2	27.2	格子目タタキ・ヘラ 削り	回転ナデ・不透ナ デ	灰	灰白	面		STC-3
215	壺	C	10.0		14.0	25.3	ヘラ削り	回転ナデ	暗灰	灰	面		STC-3
216	壺	C	6.9		15.5	28.2	回転ナデ・縫子目 タタキ	回転ナデ・不透ナ デ	灰白	灰	面		STC-3
217	壺	C	10.5		14.1	29.0	回転ナデ・縫子目 タタキ・ヘラ削り	回転ナデ	灰オーブ	灰	面	自然釉	STC-3
218	壺	C	10.3		11.7	23.1	回転ナデ	回転ナデ	灰白	糊灰	面	自然釉	STC-3
219	壺	C	9.4		11.6	26.0	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ	明青灰	灰	面		STC-3
220	壺	C	7.0		10.0	25.6	ヘラ削り・格子目タ タキ	回転ナデ	灰	灰白	密		STC-3
221	壺	C	10.2		13.8	26.6	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ	灰オーブ	灰	密	自然釉	STC-3
222	壺	C	9.3		13.4	25.9	ヘラ削り	回転ナデ	灰	灰白	面		STC-3
223	壺	C	8.4		11.0	22.8	回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰白	面		STC-3
224	壺	C	10.7		11.2	23.9	回転ナデ・縫子目 タタキ・ヘラ削り	回転ナデ	灰	灰	密	自然釉	STC-3
225	壺	C	6.2		10.7	13.4	回転ナデ・ヘラ削 り・不透ナデ	回転ナデ	灰	にぶい灰白	密		STC-3
226	壺	C	8.5		10.0	22.9	回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰白	密		STC-3
227	壺	C	9.5		13.9	25.5	回転ナデ・縫子目 タタキ	回転ナデ	灰	灰	密		STC-3
228	壺	C	6.3		16.0	19.9	回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	密		STC-3
229	壺	C	5.5				回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ	灰白	灰白	面		STC-3
230	壺	C	5.1		12.9	13.8	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ	灰	灰白	面		STC-3
231	壺	C	4.8		12.5	14.3	回転ナデ・ヘラ削 り	回転ナデ	灰	灰白	面	窓体付有	STC-3
232	壺	C					回転ナデ・縫子目 タタキ	回転ナデ	灰白	灰	面	自然釉	STC-3
233	壺	C	5.7		16.5	17.4	回転ナデ・ヘラ	回転ナデ	灰	灰	密		STC-3
234	壺	C					回転ナデ・ヘラ削 り・不透ナデ	回転ナデ・ヘラ削 り	灰	灰	密	自然釉	STC-3
235	壺	C	14.9				回転ナデ・縫子目 タタキ	回転ナデ・車輪状 タタキ	灰白	灰白	面		STC-3
236	壺	C	14.7				回転ナデ・縫子目 タタキ	回転ナデ・車輪状 タタキ	灰白	灰白	面	窓体付有	STC-3
237	壺	C	15.1				回転ナデ・縫子目 タタキ	回転ナデ	灰	灰白	面	自然釉	STC-3
238	壺	C	15.3				回転ナデ	同心円タタキ	糊灰	暗灰	面		STC-3
239	壺	C	15.3				回転ナデ・縫子目 タタキ	同心円タタキ	灰	灰	密		STC-3
240	壺	C	16.7				回転ナデ・縫子目 タタキ	回転ナデ・車輪状 タタキ	灰白	灰白	密		STC-3
241	壺	C	16.9				回転ナデ・縫子目 タタキ	車輪状タタキ	灰白	灰白	密		STC-3

表7 遺物観察表(須恵器)⑦ ※佐上原町文化財調査報告書第10集『下村墓跡群報告書(基礎資料編)』(1996年)掲載資料

番号	基盤	出土 地区	法 蓋			調整			色調		胎土	備考	存配記号
			口径	胴径	底径	高さ	外側	内面	直面	外側			
242	塊	C	17.0			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰白	灰白	青		STC-3
243	塊	C	19.1			タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	青	鉄分付青	STC-3
244	塊	C	26.1			66.0	回転ナゲ・格子目 タタキ--ヘラ削り	回転ナゲ・平行タ タキ--ヘラ削り	褐灰	褐灰	青		STC-3
245	塊	C	27.7			40.9	回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ--平行タタキ	灰	灰	青		STC-3
246	塊	C	15.8			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ--平行タタキ		灰白	灰白	青	自然釉	STC-3
247	塊	C	13.8			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰白	灰	青		STC-3
248	塊	C	10.7			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		淡黄	灰白	青		STC-3
249	塊	C	13.6			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		黄灰	黄灰	青		STC-3
250	塊	C	14.0			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		黄灰	黄灰	青		STC-3
251	塊	C	14.7			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ		灰白	灰白	青		STC-3
252	塊	C	15.7			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	青		STC-3
253	塊	C	16.4			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ		黑褐	灰白	青		STC-3
254	塊	C	16.7			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰白	灰白	青		STC-3
255	塊	C	17.0			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	青		STC-3
256	塊	C	18.1			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		褐灰	褐灰	青		STC-3
257	塊	C	18.2			回転ナゲ	回転ナゲ		灰オリーブ	灰白	青	自然釉・鉄分付 青	STC-3
258	塊	C	17.2			回転ナゲ--ヘラ削 り	回転ナゲ		灰	灰	青		STC-3
259	塊	C	15.5			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		オリーブ墨	灰	青		STC-3
260	塊	C	16.3			回転ナゲ・格子目 タタキ--ヘラ削 り--不定ナゲ	回転ナゲ--ヘラ削 り--不定ナゲ		灰	灰	青	自然釉	STC-3
261	塊	C	16.9			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	青	自然釉・鉄分付 青	STC-3
262	塊	C	16.9			回転ナゲ・格子目 タタキ--ヘラ削 り	回転ナゲ--ヘラ削 り--車輪状タタキ		灰白	灰白	青		STC-3
263	塊	C	12.4			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ		灰白	灰	青		STC-3
264	塊	C	13.7			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰白	青	自然釉	STC-3
265	塊	C	15.7			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ--平行タ タキ		灰	灰	青		STC-3
266	塊	C	16.1			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	青		STC-3
267	塊	C	16.3			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ		灰白	灰白	青		STC-3
268	塊	C	19.9			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	青		STC-3
269	塊	C	21.3			回転ナゲ・格子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	青		STC-3

表8 遺物觀察表〔須恵器〕⑥ ※佐土原町文化財調査報告書第10集『下村窯跡群報告書〔基礎資料編〕』(1996年)掲載資料

番号	器種	出土 地区	法 量			測定			色調		胎上	備考	注記記号	
			口径	側径	底径	高さ	内面	底面	外側	内面				
270	甕	C	20.3			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		暗オリーブ 灰	暗灰	青		STC-3	
271	甕	C	17.0			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		灰青	灰白	青		STC-3	
272	甕	C	18.1			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		灰白	灰	青		STC-3	
273	甕	C	18.0			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		灰白	灰	青		STC-3	
274	甕	C	18.6			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	青		STC-3	
275	甕	C	18.7			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	青	自然釉・鉢分付 墨	STC-3	
276	甕	C	18.5			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		灰白	灰白	青		STC-3	
277	甕	C	18.0			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		オリーブ灰	灰	青		STC-3	
278	甕	C	18.9			格子目タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	青		STC-3	
279	甕	C	19.4			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰白	青	自然釉	STC-3	
280	甕	C	20.0			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		暗灰	灰	青		STC-3	
281	甕	C	14.8			内転ナゲ	内転ナゲ		灰	灰オリーブ	青		STC-3	
282	甕	C	15.6			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	暗灰	青		STC-3	
283	甕	C	16.6			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	青		STC-3	
284	甕	C	17.3			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ・平行タタキ		灰白	灰	青		STC-3	
285	甕	C	20.0			内転ナゲ・格子目 タタキ・ヘラ削り	内転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰白	青		STC-3	
286	甕	C	18.1			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰白	青	自然釉	STC-3	
287	甕	C	18.5			内転ナゲ・車輪状 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		灰白	灰白	青		STC-3	
288	甕	C	18.8			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰白	青		STC-3	
289	甕	C				内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ・平行タタキ		灰	暗灰	青		STC-3	
290	甕	C	10.9			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	青		STC-3	
291	甕	C	16.2			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・内円 タタキ		灰白	灰白	青		STC-3	
292	甕	C	18.3			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・内円 タタキ		灰	暗灰	青	割体付着	STC-3	
293	甕	C	9.2			内転ナゲ・格子目 タタキ・ヘラ削り	内転ナゲ・車輪状 タタキ・平行タタキ		灰	灰	青		STC-3	
294	甕	C	20.2	10.9	10.4	内転ナゲ・格子目 タタキ・ヘラ削り	内転ナゲ		灰白	灰白	青		STC-3	
295	甕	C	25.4		14.3	12.5	内転ナゲ・ヘラ削 り	内転ナゲ		暗灰	暗灰	粗		STC-3
296	甕	C				内転ナゲ・ヘラ削 り	内転ナゲ・ヘラ削 り		灰	浅黄緑	青		STD-2	
297	甕	D	11.8			内転ナゲ・格子目 タタキ	内転ナゲ・車輪状 タタキ・平行タタキ		赤灰	赤灰	粗		STD-8	

表9 遺物観察表(須恵器)⑨ ※ 佐原町文化財調査報告書第10集『下村窯跡群報告書(基礎資料編)』(1996年)掲載資料

番号	器種	出土 地区	法 量		類型		色調		施上	備考	注記記号	
			山長	胸幅	底径	脚高	外面	内面				
298	甕	D	14.7				回転ナゲ・施子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	高
299	甕	D	17.6				回転ナゲ・施子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	高
300	甕	D	17.7				回転ナゲ・施子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		淡黄	淡黄	粗
301	甕	D	18.1		42.6		回転ナゲ・施子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		にぶい黄褐	褐灰	高
302	甕	D	21.3				回転ナゲ・施子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	高
303	甕	D	13.8				回転ナゲ・施子目 タタキ	回転ナゲ		灰褐	灰褐	高
304	甕	D	15.4				回転ナゲ・施子目 タタキ	回転ナゲ		灰	灰	高
305	甕	D	15.8				回転ナゲ・施子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	高
306	甕	D	16.4				回転ナゲ・施子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	粗
307	甕	D	17.8				回転ナゲ・施子目 タタキ	回転ナゲ・車輪状 タタキ		灰	灰	高付青
308	壺	D	7.8	12.0	22.1		回転ナゲ	回転ナゲ		灰白	黄灰	高
309	壺	D	8.2	11.0	21.2		回転ナゲ・ヘラ削 り・不定方向ナゲ	回転ナゲ・不定ナ ゲ		灰褐	灰	鉢付青
310	壺	D	7.6	11.7	21.4		回転ナゲ・ヘラ削 り・施子目タタキ	回転ナゲ		灰黄	黄灰	高
311	壺	D	8.4	15.2	28.7		回転ナゲ・ヘラ削 り・施子目タタキ	回転ナゲ		灰	灰白	高
312	壺蓋	D	14.8		2.8		ヘラ削り	回転ナゲ		灰白	灰黃褐色	高
313	蓋	D	10.3	9.9	21.1		回転ナゲ	回転ナゲ		灰白	灰オリーブ	高
314	蓋	D	9.7				回転ナゲ・施子目 タタキ	回転ナゲ		灰白	灰	自然釉
315	片	E	14.4	6.5	7.2		回転ナゲ	指擦痕		灰黄	灰黄	高
316	片	E	12.0	6.8	7.0		回転ナゲ	ヘラ削 り		灰オリーブ	灰	高

表10 遺物観察表(須恵器)⑩ ※ 本書掲載資料

番号	器種	出土 地図	法 規		器形		色調		粘土	備考	注記記号
			口径	縫径	底径	器高	外面	内面			
317	切削蓋	A	16.0		4.0	内輪ナデ	内輪ナデ	灰、オリーブ 色	灰	砂体、自然軸 付	STA7-1K灰原
318	蓋	A	13.5		3.4	内輪ナデ・ケズリ ナデ	内輪ナデ	オリーブ灰 灰	灰	黑色微粒子含 有	STA7-1K灰原 (黒層)
319	坏	B	13.7	7.8	6.2		ヘラ切り	浅黄灰 灰	淡黄灰 灰	白色微粒子含 有	土壤質、難燃 性
320	長柄舟	B	8.4			内輪ナデ	内輪ナデ		オレ・ブ灰 灰	オリーブ灰 灰	STB-1 83
321	坏	C		6.0		内輪ナデ	内輪ナデ	ヘラ切り	灰白 灰白	白色微粒子含 有	焼成不良
322	坏	C		5.6		内輪ナデ	内輪ナデ		灰白 灰白	白色微粒子含 有	STC I-4 99- 2,987
323	坏	C		4.6		内輪ナデ			灰白 灰白	1mm白色粒子含 有	摩擦痕し
324	碗	C	13.2	7.3	6.0	内輪ナデ	内輪ナデ		灰 灰	白色微粒子含 有	STC I-4 291
325	碗	C		6.8		内輪ナデ	内輪ナデ	ヘラ切り・ナ ギ	灰 灰	0.5mm白色粒子 含 有	STC I-3-4-530
326	碗	C		7.5		内輪ナデ	内輪ナデ	ヘラ切り	灰 灰白	密	STC I-4 1565,1867
327	碗	C		7.6		内輪ナデ	内輪ナデ		灰 灰	密	STC I-4 114
328	碗	C		9.2		内輪ナデ	内輪ナデ	ナデ	灰白 灰白	1mm黑色粒子、 白色微粒子含 有	STC I-4 717
329	碗	C		7.2		内輪ナデ	内輪ナデ	ヘラ切り	灰白 灰白	白色微粒子含 有	STC I-4 1538
330	碗	C	16.1	6.7	7.7	内輪ナデ	内輪ナデ	ヘラ切り	灰 灰	1mm白色粒子含 有	STC I-3 80,704
331	碗	C	15.1	7.5	5.0	内輪ナデ	内輪ナデ		灰 灰	密	STC I-4 1009,1876
332	碗	C		6.7		内輪ナデ	内輪ナデ	ヘラ切り	灰白 灰白	密	STC I-4 1405
333	碗	C		7.6		内輪ナデ	内輪ナデ	ヘラ切り	灰白 灰白	密	STC I-4 831,1650個
334	碗	C		8.0		内輪ナデ	内輪ナデ		灰 灰	密	STC I-3-4- 63, I-4 46,63
335	碗	C		7.8		内輪ナデ	内輪ナデ	ヘラ切り	灰 灰	密	STC I-3H-4- 7
336	碗	C		7.3		内輪ナデ	内輪ナデ	ヘラ切り・ナ ギ	灰 灰	白色微粒子含 有	STC I-3H-4- 38
337	碗	C		7.6		内輪ナデ	内輪ナデ		灰白 灰	内面空隙部着	STC I-4 1660
338	碗	C		7.2		内輪ナデ	内輪ナデ	ヘラ切り	灰 灰	自然軸	STC I-3 1181
339	須彌壇	C	12.0	25.6	15.0	26.7 タキのちナデ	ナデ	灰 灰	灰	白色微粒子含 有	STC I-4 1631,1639個
340	小豆	C	6.4			内輪ナデ	内輪ナデ		灰白 灰	1mm白色粒子含 有	STC I-4 No.12
341	小豆	C		6.6		内輪ナデ・ケズリ	ナデ		灰 灰	密	STC I-5- 721,1524,1757
342	長削蓋	C	7.9	15.3		内輪ナデ	内輪ナデ		灰 灰	密	STC I-4 77,100,195個
343	長削蓋	C	8.5	16.5		内輪ナデ	内輪ナデ	ヘオリーブ 灰オリーブ	灰 灰	密	STC I-4 7.7,11,19個
344	長削蓋	C	8.4	23.5	11.6	23.6 内輪ナデ	内輪ナデ		灰 灰	密	STC I-4 1632,1636個
345	長削蓋	C	8.7			内輪ナデ	内輪ナデ		灰 灰	白色微粒子含 有	STC I-4 1412,1268,1521
346	長削蓋	C	8.6			内輪ナデ	内輪ナデ		灰白 灰白	黑色微粒子含 有	STC I-4 134,1-4 1829個
347	云網蓋	C	10.3			内輪ナデ	内輪ナデ		灰 灰	破壊面に自然 軸	STC I-3- 134, I-4 1829個
348	云網蓋	C	8.7	25.1	12.4	25.5 タキのちナデ	ナデ	ナデ	灰白 灰	密	STC I-4 174,1719個
349	云網蓋	C	10.1	21.4	10.2	26.6 内輪ナデ	内輪ナデ	ナデ	灰白 灰	内面火薙多	STC I-4 132,133,134,136 個
350	云網蓋	C	9.8	21.0	13.0	27.3 タキのちナデ	内輪ナデ	ナデ	灰 灰	密	STC I-4 61個
351	云網蓋	C	11.0	20.2	13.1	28.6 内輪ナデ	内輪ナデ	ナデ	灰 灰	難燃	STC I-3 1037,1039個
352	云網蓋	C	10.4	17.0	8.6	24.2 内輪ナデ	内輪ナデ		黄灰 灰	黑色微粒子含 有	STC I-3 398,370個
353	云網蓋	C	8.5	16.0	4.7	16.2 内輪ナデ	内輪ナデ	ナデ	灰白 灰白	口縫部錐形付 器多	STC I-4 1350,1427個
354	云網蓋	C	10.1			内輪ナデ	内輪ナデ		灰白 灰白	難燃体錐形付 器多	STC I-5 62,221個
355	云網蓋	C	9.5			内輪ナデ	内輪ナデ		灰 灰	自然軸	STC I-4 1642 個
356	云網蓋	C	8.2			内輪ナデ	内輪ナデ		灰 灰	白色微粒子含 有	STC I-4 1977,1377個

表11 遺物観察表（須恵器）⑪ ※ 本書掲載資料

番号	器種	出土 地點	計量		調査			色調		胎土	備考	注記号		
			口径	胴径	底径	高さ	外面	内面	底面					
357	長柄盞	C	9.2				円転ナゲ	円転ナゲ	灰	明オリーブ 灰	灰白	2mm白色粒子含 有	自然釉	STC I-4 1319 他
358	長柄盞	C	10.5	21.0	12.6	28.4	タタキのちナゲ	円転ナゲ	灰	オリーブ灰	灰白	4mm黑色粒子・ 白色微粒子含 有		STC I-3 998,1058他
359	長柄盞	C	8.9	21.2	15.0	26.5	タタキのちナゲ	円転ナゲ	ナゲ	灰	灰白	灰		STC I-4 1915 他
360	長柄盞	C	16.6	13.6			円転ナゲ	円転ナゲ	ナゲ	灰白	灰白	灰		STC I-4 1895,1236他
361	長柄盞	C	10.2				円転ナゲ	円転ナゲ	灰	オリーブ灰	灰	灰		STC I-3 106, I-4 197
362	短柄盞	D	7.2	12.6	8.6	14.2	円転ナゲ	円転ナゲ	ケズリ・ナゲ	明オリーブ 灰	灰白	1mm白色粒子含 有	STD033 10,12,27, D-15	
363	長柄盞	D	7.2	18.0	11.3	22.9	タタキのちナゲ	円転ナゲ	ナゲ	灰	灰	灰		STD F-7,2,27号 1134,60他
364	長柄盞	D	7.8	16.2	11.8	19.8	円転ナゲ	円転ナゲ	ナゲ	灰	灰	白色微粒子含 有		STD37号H23,D 14~47他
365	長柄盞	D	8.5	15.6	10.1	19.5	円転ナゲ	円転ナゲ	ナゲ	灰	灰	灰		STD37号H 35,44,49他
366	長柄盞	D	8.6	15.6	9.5	20.4	円転ナゲ	円転ナゲ	ナゲ	灰	灰	灰		自然釉
367	長柄盞	D	7.8	16.1	10.5	24.8	タタキのちナゲ	円転ナゲ	ナゲ	灰	灰	灰		STD37号H 74,49,53,46他
368	長柄盞	D	7.9	16.4			円転ナゲ	円転ナゲ		鶴灰	鶴灰			STD37号H 20,34,66他
369	長柄盞	D	8.6	14.9	11.5	20.9	タタキのちナゲ	円転ナゲ	ナゲ	灰白	灰白	1mm白色粒子含 有		STD14~ 89,61,68,55他
370	長柄盞	D	9.0	18.9	13.2	26.2	円転ナゲ	円転ナゲ	ナゲ	灰白	灰白	1mm白色粒子含 有		STD14~J37号 134,79他
371	長柄盞	D	12.0				円転ナゲ	円転ナゲ		灰白	灰	灰		自然釉
372	环	E	16.2		7.6	7.9	ナゲ	ナゲ	ヘラ切刃	灰	灰	灰		円柱状底部
373	环	E	13.1		5.9	6.8	円転ナゲ	円転ナゲ	ヘラ切刃	灰	灰	灰		円柱状底部
374	碗	E	18.2				円転ナゲ	円転ナゲ		灰	灰	灰		STE版39号・柄
375	环	E			5.6		圓転ナゲ	圓転ナゲ	ヘラ切刃	灰白	灰白	灰		円柱状底部
376	环	E			7.2		圓転ナゲ	圓転ナゲ	ヘラ切刃	灰白	灰白	灰		円柱状底部
377	环	E			7.1		圓転ナゲ	圓転ナゲ	ヘラ切刃	オリーブ灰	オリーブ灰	灰		円柱状底部
378	环	E			7.1		圓転ナゲ	圓転ナゲ	ヘラ切刃	灰	灰	灰		STE版39号・柄
379	盞		14.0			3.8	円転ナゲ	圓転ナゲ		灰白	灰	灰		0.5mm白色粒 子・黑色微粒子 含有
380	盞		15.3		1.3		円転ナゲ	圓転ナゲ		灰	灰白	1mm白色粒子含 有		ST1-b
381	盞		13.3		2.1		円転ナゲ	圓転ナゲ		灰	灰	1mm白色粒子含 有		ST1a(2~3)
382	盞		15.8		7.1	4.9	円転ナゲ	圓転ナゲ	ヘラ切刃	灰	深灰色 内面溶接部 不同	内面溶接部 附着		ST-a
383	盞				8.4		円転ナゲ	圓転ナゲ		灰	灰	灰		ST
384	長柄盞			16.1	12.1		円転ナゲ	圓転ナゲ	ナゲ	灰白	灰	灰		ST
385	甕		20.2				円転ナゲ	円転ナゲ		灰	オリーブ灰	灰		ST1a(2~3)
386	甕		15.9				円転ナゲ・サブタ キ	円転ナゲ		灰黄	灰	灰		ST1a 3
387	甕		20.6				円転ナゲ	円転ナゲ		褐色	灰	灰		ST2--b

表12 遺物観察表(瓦)① ※本書掲載資料

番号	出土区	種類	外山開墾	縦目 条数	内面調整	右 左 合 数	側面調整	端面調整	粘土	地城	色調 外側 内側	
											表面	裏面
389	A-1区 号	平瓦	横方向の縦目タ クタ		布目底	6×7	ヘラ削り	ナダ	0.5mm以下の細砂を少 量含む	やや軟	灰白	灰白
390	A-1 区2-1	平瓦			ナダ		ヘラ削り	ヘラ削り	0.5mm以下の細砂と0.5mm 位の砂を少量含む	良	黄灰	2.5V8/1
391	A-1 区2-1	丸瓦	横方向の縦目タ クタ		ナダ		ヘラ削り		0.5mm以下の灰・茶・赤 色の砂粒を少量含む	軟	淡黄	黄
392	A-1 区2-1	丸瓦	横方向の縦目タ クタ	6本	布目底	5×5	ヘラ削り		0.5mm以下の細砂を少 量含む	やや軟	にぶい黄	暗黄色
393	B-A-3	平瓦	横方向の縦目タ クタ	6本	横方向の縦目タ クタ	6×6	ヘラ削り		0.5mm以下の灰・茶の 砂粒を少量含む	軟	灰白	灰白
394	B-B-1	平瓦	横方向の縦目タ クタ	9本	布目底 ナダ	9×6	ヘラ削り		0.5mm以下の砂を少量 含む	やや軟	7.5V7/2	5V8/1
395	B-B-1	平瓦	横方向の縦目タ クタ	4本	ナダ		ヘラ削り	ヘラの跡有		良	灰	灰白
396	B-B-2	平瓦	横方向の縦目タ クタ	7本	布目底	10×7	ヘラ削り		0.5mm以下の灰・うす茶 色の砂粒を少量含む	やや軟	黄灰	5V8/1
397	B-B-2	平瓦	横方向の縦目タ クタ	6本	ナダ		ヘラ削り	横目カッカダ有	2~3mm以下の灰・茶 色の砂粒を少量含む	軟	灰白	灰白
398	B-B-2	平瓦	横方向の縦目タ クタ	9本	布目底	5×5	ヘラ削り		0.5mm以下の灰・茶の 砂粒を少量含む	良	明黄色	7.5V7/1
399	B-C-1	丸瓦	ヘラ状工具ナダ		布目底	6×6	ヘラ削り		0.5mm以下の砂粒を少 量含む	やや軟	灰白	灰白
400	B-D-1	熨斗瓦	横方向の縦目タ クタ	10本	布目底	8×8	ヘラ削り		0.5mm以下の砂粒を少 量含む	良	灰白	暗黄色
401	B-D-1	熨斗瓦	横方向の縦目タ クタ	8本	風化蟹しい ナダ		ヘラ削り		0.5mm以下の砂粒を含 む	良	灰白	明黄色
402	B-D-2	熨斗瓦	横方向の縦目タ クタ	7本	布目底	7×7	ヘラ削り		0.5mm以下の砂粒を少 量含む	良	明黄色	7.5V7/6
403	B-D-2	熨斗瓦	横方向の縦目タ クタ	9本	布目底		ヘラ削り		0.5mm以下の砂粒を少 量含む	良	灰	5V8/1
404	B-D-2	熨斗瓦	横方向の縦目タ クタ		ナダ		ヘラ削り		0.5mm以下の砂粒を少 量含む	不良	淡黄	5V8/2
405	B-C-1	熨斗瓦	横方向の縦目タ クタ	8本	風化蟹しい ナダ	5×5	ヘラ削り		0.5mm以下の灰白の砂 粒を多量含む	不良	灰白	5V8/1
406	B-C-1	熨斗瓦	横方向の縦目タ クタ	11本	布目底		ヘラ削り		0.5mm以下の灰の粒を 含む	不良	灰白	5V8/1
407	C-3	平瓦	横方向の縦目タ クタ	11本	布目底	8×7			0.5mm以下の砂粒を少 量含む	やや軟	灰白	5V7/2
408	C-3	平瓦	横方向の縦目タ クタ	7本	布目底	5×6			2mm以下の灰色の砂粒 を少量含む	軟	灰白	5V7/1
409	C-3	平瓦	横方向の縦目タ クタ		横方向の縦目タ クタ	12本			2mm以下の砂粒を少 量含む	良	灰白	5V8/2
410	C-3	平瓦	横方向の縦目タ クタ		布目底		ヘラ削り	ヘラ削り	0.5mm以下の砂粒を少 量含む	やや軟	灰白	5V8/1
411	C-3	平瓦	横方向の縦目タ クタ	8本	横方向の半行タ クタ				0.5mm位の黒色の砂粒 を少量含む	良	GY6/2	5V5/1
412	C-3	平瓦	横方向の縦目タ クタ	12本	布目底	7×6	ヘラ削り	ヘラ削り	2mm以下の黒い砂を少 量含む	良	灰黒	にぶい黒
413	C-3	平瓦	横方向の縦目タ クタ	9本	ナダ		ヘラ削り		2~3mmまでの瓦粒を少 量含む(11灰・茶)	良	灰白	灰白
414	C-3	平瓦	横方向の縦目タ クタ	8本	布目底	7×6	ヘラ削り 曲取り		0.5mm以下の砂粒を少 量含む	良	灰白	5V8/2
415	C-3	熨斗瓦	ナダ		布目底	6×5	ヘラ削り		0.5mm以下の砂を少量含 む(不規)	やや軟	にぶい黄緑	にぶい黄緑
416	C-3	平瓦	横方向の縦目タ クタ	10本	布目底	5×5	ヘラ削り ヘラ削り		0.5mm以下の紫色の砂 粒を含む	良	灰黒	2.5V6/2
417	C-3	平瓦	横方向の縦目タ クタ	12本	布目底	6×6		ヘラ削り	0.5mm以下の黒色の砂粒 を少量含む	良	灰白	灰白
418	C-3	平瓦	横方向の縦目タ クタ	8本	破れのヘラナ ダ		ヘラ削り		0.5mm以下の砂粒を少 量含む	良	淡黄	にぶい黄
419	A-T-1	平瓦	横方向の縦目タ クタ	10本	横方向の縦目タ クタ	12本	ヘラ削り	ヘラ削り	0.5mm以下の砂粒を含 む	良	明黄色	明黄色
420	A-T-1	熨斗瓦	横方向の縦目タ クタ	6本	布目底	7×7	ヘラ削り		0.5mm以下の砂粒と2~3mm 位の黒い小片を含む	良	灰灰	4.5V6/8
421	A-T-1	熨斗瓦	横方向の縦目タ クタ	7本	布目底	8×8	ヘラ削り		0.5mm以下の砂粒を少 量含む	良	淡黄	2.5V7/3
422	A-1a(2 -3)	平瓦	横方向の縦目タ クタ	6本	布目底	5×5	ヘラ削り 曲取り		0.5mm以下の砂粒を少 量含む	やや軟	GY6/6	2.5V7/3
423	A-1a(2 -3)	丸瓦	横方向の縦目タ クタ		布目底	5×5		ナダ	0.5mm以下の砂粒を少 量含む	不良	灰白	5V8/2
424	A-TIC	丸瓦	横方向の縦目タ クタ	7本	布目底	5×5	ヘラ削り		0.5mm以下の砂粒を含 む	良	明黄色	2.5V6/3
425	A-T-1 4	平瓦	横方向の縦目タ クタ	8本	ナダ		ヘラ削り ヘラ削り	ナダ	0.5mm以下の砂粒を少 量含む	良	赤泥	5V8/1/6

表13 遺物観察表(瓦)② ※本書掲載資料

番号	出土場所	種類	外面調査	内面調査	若手目録	側面調査	端面調査	跡付	焼成	色調	
										外見	内面
426	A-下村 7	斐牙瓦	横方向の縫口タ キ	6本	ナデ	ヘラ切り		0.5mm以下の砂粒を3~ 7mmの高麗小瓶を含む	良	淡黄	灰白
427	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	14本	布目底	5×3	ヘラ切り	2mm以下の砂粒を少 量含む	灰白	灰白	2.5V7/4 2.5V7/3
428	C-3	平瓦	横・縱方向の縫 口タキ	11本	布目底	7×7	ヘラ切り	ナブ	良	淡黄	灰白
429	C-3	丸瓦	横・縦方向の縫 口タキ	9本	布目底	5×5	ヘラ切り	面取り	やや軟	6V6/1	6V6/1
430	C-3	丸瓦	横・縦方向の縫 口タキ	9本	布目底	5×5	ヘラ切り		良	淡黄	にふく・黄根 6V6/2
431	C-3	斐牙瓦	横方向の縫口タ キ	6本	布目底	5×4	ヘラ切り	面取り	やや軟	6V6/1	6V6/1
432	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	18本	布目底	6×6	ヘラ切り		良	淡黄	6V6/1
433	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ		布目底	5×5	ヘラ切り	ヘラ切り	良	淡黄	6V6/2
434	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	9本	布目底	5×5	ヘラ切り	ヘラ切り	やや軟	6V6/1	6V6/1
435	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	12本	布目底	6×6	ヘラ切り	ナブ	良	淡黄	6V6/1
436	C-3	平瓦	横・縦方向の縫 口タキ	8本	布目底	6×6	ヘラ切り	ヘラ切り	やや不 良	灰	灰白
437	C-3	平瓦	横・縦方向の縫 口タキ	9本	布目底	6×6			良	6V6/1	6V6/1
438	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	13本	布目底	5×6	ヘラ切り	ヘラ切り	良	淡黄	6V6/1
439	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ		布目底		ヘラ切り		良	淡黄	6V6/1
440	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	15本	布目底	5×6	ヘラ切り	ヘラ切り	良	淡黄	6V6/1
441	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	11本	布目底 ナデ	5×6	ヘラ切り		良	淡黄	6V6/2
442	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	11本	布目底		ヘラ切り		良	淡黄	6V6/2
443	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	8本	布目底	7×6	ヘラ切り	面取り	やや軟	6V6/1	6V6/1
444	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	10本	ナデ		ヘラ切り		良	6V6/1	6V6/1
445	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	8本	布目底	8×9	ヘラ切り	面取り	良	6V6/1	6V6/1
446	C-3	平瓦	平行タキ		ナデ		ヘラ切り	手削で削った跡	軟	淡黄	6V6/4
447	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	10本	布目底	6×5	ヘラ切り	ヘラ切り	良	淡黄	6V6/1
448	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	9本	布目底	6×6	ヘラ切り		良	淡黄	6V6/1
449	C-3	平瓦	横・縦方向の縫 口タキ	7本	布目底	6×6	ヘラ切り	面取り	良	淡黄	6V6/1
450	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	11本	布目底	8×6	ヘラ切り	ヘラ切り	良	淡黄	6V6/1
451	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	9本	布目底	6×6	ヘラ切り		良	淡黄	6V6/1
452	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	9本	布目底	7×7	ヘラ切り		良	6V6/0	6V6/0
453	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	11本	布目底	5×7	ヘラ切り		良	淡黄	6V6/1
454	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	8本	布目底 ナデ	4×4	ヘラ切り	ナブ	良	淡黄	6V6/1
455	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	14本	布目底 板ナブ	7×6	ヘラ切り	ナブ	良	淡黄	6V6/1
456	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	8本	横方向の縫口タ キ・布目底	6×6 9本	ヘラ切り	ナブ	良	淡黄	6V6/1
457	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	13本	布目底		ヘラ切り	ヘラ切り	良	淡黄	6V6/1
458	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ・ナデ		布目底		ヘラ切り後横方 向ナブ	1×7mmの状態と5mm の状態の砂粒含まれる	良	淡黄	6V6/2
459	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ・ナデ		ナデ		ヘラ切り		良	淡黄	6V6/2
460	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ・ナデ	12本	布目底	7×5	ヘラ切り後横方 向ナブ	1×7mmの状態と5mm の状態の砂粒含まれる	良	淡黄	6V6/2
461	C-3	平瓦	横方向の縫口タ キ	11本	布目底 ナデ	8×6	ヘラ切り後ナブ 面取り	1mm以下の砂粒と粗 面が少しある	良	淡黄	6V6/4
462	C-3	平瓦	横・縦方向の縫 口タキ	9本	布目底		ヘラ切り	面取り	やや軟	6V6/2	6V6/1

表14 遺物編目表(IV)③ ※ 本書掲載資料

番号	出土K	種類	外山調査 測量	測量 目録	内山調査 測量	内山調査 測量	側面調査	端面調査	形状	既成	色調 外見	内見
465	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	9本	布目底	6×6	ヘラ切り	ヘラ切り	1mm以下の褐色の砂粒を 少許含む	やや軟	灰白 2.5Y6/1	灰 7.5Y6/1
466	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	11本	ナデ		ヘラ切り	ヘラ切り	1mm以下の灰・灰白の砂 粒を含む	やや軟	灰	灰黄
467	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	8本	布目底	11×16	ヘラ切り		0.5mm以下の砂粒を多 く含む	既	灰オーブ 5V6/2	灰 5V6/1
468	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	7本	布目底	4×5	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5mm以下の砂粒を含 む	既	灰白 10V6/2	灰白 10V6/2
469	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	10本	布目底 ナデ	5×5	ヘラ切り		1mm以下の灰の粒少 量と0.5mm以下の砂粒を 多く含む	良	灰白 5V6/1	灰白 5V6/2
470	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	14本	布目底 ナデ	6×6	ヘラ切り 面取り	ヘラ切り	1mm以下の褐色の砂粒を 少許含む	やや軟	灰白 2.5V6/2	灰白 2.5V6/2
471	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	11本	布目底 ナデ	6×6	ヘラ切り	ヘラ切り	1mm以下の灰の粒を含 む	良	灰白 7.5Y6/2	灰 7.5Y6/1
472	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	8本	布目底	6×6	ヘラ切り 面取り	ヘラ切り	1mm以下の灰の粒少 量と0.5mm以下の灰白・乳白 の粒含む	良	灰 5V5/1	灰 5V5/1
473	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	9本	布目底	9×9	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5mm以下の砂粒を含 むと少量の褐色・黒の砂 粒を少許含む	良	灰 7.5V6/1	N7/ 灰
474	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	10本	布目底	6×6	ヘラ切り 面取り		1mm以下の砂粒を少 量含む(黒色)	既	灰 10V6/1	灰白 9.5Y7/1
475	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付・ナデ	12本	布目底 ナデ	4×4	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5mm以下の砂粒を含 む	やや軟	灰 2.5V6/3	灰白 2.5V6/2
476	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	8本	布目底	6×6	ヘラ切り		0.5mm以下の砂粒を少 量含む(灰)	既	灰 2.5V6/4	灰黄 2.5V7/3
477	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付・ナデ	7本	ナデ	6×7	ヘラ切り兼ナデ		1mm以下の砂粒と黒泥 を多量に含む	やや軟	灰 10V6/2	灰 10V6/1
478	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	10本	横方向の縄目タ ク付	11本	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5mm以下の砂粒を含 む	既	灰 N7/ 灰	灰 N7/ 灰
479	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付・ナデ	11本	布目底	6×6	ヘラ削り		1mm位の黒の粒1個と 0.5mm以下の砂粒を多 く含む	良	灰白 5V6/1	灰白 2.5V6/1
480	C-3	平瓦	横・横方向の縄 目タク付	9本	布目底	8×6	ヘラ切り		0.5mm以下の砂粒を含 む	良	灰白 7.5V6/2	灰 7.5V6/3
481	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	11本	布目底 ナデ	5×5	ヘラ切り	ヘラ切り ナデ	1mm位の褐色・黒色の 砂粒を少許含む	良	灰白 N7/ 灰	灰白 N7/ 灰
482	C-3	平瓦	横・横方向の縄 目タク付	9本	布目底	4×4	ヘラ切り		0.5mm以下の砂粒を含 む風化作用が見られる	良	灰 5V4/1	灰 2.5V4/1
483	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付・ナデ	10本	布目底	6×6	ヘラ切り		1mm位の黒色の砂粒を 含む	良	灰白 N7/ 灰	灰白 2.5V6/8/1
484	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	7本	横方向の縄目タ ク付	8本	ヘラ切り	ナデ	0.5mm以上の灰・白の 砂粒を少許含む	良	灰白 2.5V1/1	灰 2.5V6/1
485	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	布目底 横・タク付		6×6	ヘラ切り		砂粒を少許含む	小良	灰白 10V6/2	灰 10V6/1
486	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付・ナデ	12本	布目底 ナデ	5×5	ヘラ切り		1.5~2mmの黒い粒を含 む	良	灰 7.5V6/1	灰 6V6/1
487	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	9本	布目底 横・タク付		ヘラ切り 面取り		2mm以上の茶色っぽい 砂粒を少許含む	やや軟	灰 2.5V3/1	灰 2.5V6/1
488	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付・ナデ	布目底 ナデ	6×5	ヘラ削り 面取り	ヘラ切り・削り ヘラ削り	ナデ	0.5mm位の黒色の砂粒 を少許含む	やや軟	灰 7.5V7/1	灰 6V6/1
489	C-3	平瓦	横・横方向の縄 目タク付	7本	布目底 ナデ	6×6	ヘラ切り	ナデ	1mm以下の黒・褐色少 量と0.5mm以下の灰の 砂粒を含む	既	灰 7.5V3/1	灰 7.5V3/1
490	C-3	平瓦	横・横方向の縄 目タク付	9本	布目底 ナデ	5×5	ヘラ切り 面取り		2mmの灰の粒1個と1 mm以下の砂粒を多く含 む	良	灰白 7.5V8/1	灰白 7.5V8/1
491	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付		ナデ		ヘラ切り		0.5mm以下の砂粒を含 む	やや軟	灰白 2.5V8/2	灰 2.5V8/3
492	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	8本	ナデ		ヘラ切り 面取り	ヘラ切り	2mm以下墨・灰・白の砂 粒と0.5mm以下の砂粒 を少許含む	やや軟	灰白 5V6/1	灰 5V6/1
493	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付		布目底		ヘラ切り		1mm位の黒色の砂粒を 含む少許含む	やや軟	灰白 5V6/1	灰白 5V6/1
494	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	12本	布目底 ナデ	6×6	ヘラ切り		3mm以上の黒色の砂粒 を少許含む	やや軟	灰 5V6/1	灰 5V7/1
495	C-3	平瓦	横方向の縄目タ ク付	11本	布目底	8×6	ヘラ切り	ナデ	2mm以下の粗砂少 量含む	既	灰白 7.5V7/1	灰白 7.5V8/1
496	C-3	平瓦	横・横方向の縄 目タク付	8本	ナデ		ヘラ切り	ヘラ切り	1mm位の黑色の砂粒を 少許含む	やや軟	灰白 5V6/2	灰白 7.5V7/1

表15 遺物観察表(丸)④ ※ 本書掲載資料

番号	出土場	種類	外面調査	細目 分類	内部調査	布目 生数	側面調整	端面調査	粘土	焼成	色調		
											外	内	
497	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	S木	布目板ナダ	6×6	ヘラ切り	0.5mm以下の砂粒を多く含む	良	灰灰	灰白	2.5Y4/1	
498	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	S木	布目板	8×8	ヘラ切り	ヘラ切り後砂粒が1mm以下の黒い砂粒を多く含む	良	灰	灰白	2.5Y8/2	
499	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	12木	布目板	6×6	ヘラ切り	0.5mm以下の黒い砂粒を多く含む	良	灰	灰	2.5Y6/3	
500	C-3	平瓦	横方向の縫目タキナダ	16木	布目板ナダ	6×6	ヘラ切り	1mm位の灰色の砂粒を多く含む	やや軟	灰白	灰白	5Y8/1	
501	C-3	平瓦	横方向の縫目タキナダ	20木	布目板	5×6	ヘラ切り	0.5mm以下の砂粒を含む	軟	灰黄	灰白	2.5Y7/2	
502	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	8木	布目板ナダ	6×4	ナダ	0.5mm以下の砂粒を含む	良	灰灰	灰黄	10YR6/3	
503	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	半打タキ	布目板	5×5	ヘラ切り手で削った板	2mm以下の黒い砂粒を少し含む	良	灰白	灰黄	2.5Y7/1	
504	C-3	平瓦	横方向の縫目タキナダ	布目板ナダ				ヘラ切り	0.5mm以下の黒い砂粒を多く含む	良	灰白	灰黄	2.5Y7/1
505	C-3	平瓦	横方向の縫目タキナダ	16木	ナダ		ヘラ切り	0.5mm以下の黒い砂粒を含む	やや軟	灰白	灰黄	5Y8/1	
506	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	11木	布目板ナダ		ヘラ切り	0.5mm以下の黒い砂粒を含む	やや軟	灰白	灰黄	2.5Y6/1	
507	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	8木	布目板ナダ	7×6	ヘラ切り	2mm以上の黒い砂粒を少し含む	やや軟	灰白	灰黄	2.5Y7/1	
508	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	13木	ナダ		ヘラ切り手取り	0.5mm以下の灰色の砂粒を少し含む	良	灰	灰	5Y6/1	
509	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	9木	布目板ナダ		ヘラ切り	1mm以下の灰・灰白の砂粒を含む	やや軟	灰白	灰白	2.5Y7/1	
510	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	布目板ナダ		6×5	ヘラ切り	0.5mmの灰・品の砂粒を少し含む	やや軟	灰白	灰白	2.5Y8/1	
511	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	布目板ナダ				ヘラ切り	0.5mm以下の灰の砂粒を少し含む	やや軟	灰白	2.5Y8/1	
512	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	10木	布目板ナダ	5×7	円凸面削り後横ナダ	1mm以下以下の砂粒と黒が多めに含まれるナダ	良	灰	灰	5Y6/1	
513	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	8木	布目板	8×8	ヘラ切り	0.5mm以下の白の砂粒を少し含む	良	灰	灰	2.5Y6/1	
514	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	12木	ナダ		ヘラ切り	1.5mm位の黒っぽい物を含む	良	灰白	灰白	5Y7/1	
515	C-3	平瓦	横方向の縫目タキナダ	10木	横方向の縫目タキナダナダ	10木	後横ナダ	0.5mm以下の砂粒を少し含む	やや軟	灰白	灰	5Y6/2	
516	C-3	平瓦	横・横方向の縫目タキタキ	12木	布目板	12木	ヘラ切り	0.5mm以下の砂粒を含む	良	灰灰	灰白	10YR5/3	
517	C-3	平瓦	横・横方向の縫目タキ	10木	布目板ナダ	6×5	ヘラ切り	1mm以下の黒の粒を含む	やや軟	灰	灰白	2.5Y7/1	
518	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	13木	風化著しい		ヘラ切り	1mm位の灰色の砂粒を少し含む	軟	灰白	灰白	2.5Y8/1	
519	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	12木	布目板	6×7	ヘラ切り	2mm位の灰色の砂粒を少し含む	やや軟	灰白	灰	5Y4/1	
520	C-3	平瓦	横方向の縫目タキナダ	13木	ナダ		ヘラ切り	0.5mm位の褐色の砂粒が少し含む	やや軟	灰白	灰白	2.5Y7/1	
521	C-3	平瓦	横方向の縫目タキ	ナダ			ヘラ切り	0.5mm位の砂粒を少し含む(墨色)	やや軟	灰白	灰白	10YR7/1	
522	C-3	丸瓦	横方向の縫目タキ	13木	風化著しい	5×5	ヘラ切り	1mm位の砂粒を少し含む(墨色)	やや軟	灰白	灰白	5Y7/1	
523	C-3	丸瓦	横方向の縫目タキ	10木	布目板ナダ	6×7	ヘラ切り	1mm位の黒色の砂粒を少し含む	やや軟	灰白	灰白	5Y8/1	
524	C-3	丸瓦	横方向の縫目タキナダ	10木	布目板	5×5	ヘラ切り	0.5mm以下の砂粒あり風化が進む	やや軟	灰白	風白	2.5Y7/1	
525	C-3	丸瓦	横方向の縫目タキナダナダ	5×5	ヘラ切り		ヘラ切り	0.5mm位の砂粒を多く含む	やや軟	灰白	灰白	10YR7/1	
526	C-3	丸瓦	横方向の縫目タキナダ	布目板	5×5	ヘラ切り	0.5mm位の砂粒を多く含む	やや軟	灰白	灰白	2.5Y8/3		
527	C-3	丸瓦	横方向の縫目タキナダナダ	9木	布目板	5×5	ヘラ切り	ナダ	ナダ	灰白	灰白	2.5Y6/2	
528	C-3	丸瓦	横方向の縫目タキナダ	11木	布目板ナダ	5×5	ヘラ切り	0.5mm以下の灰の砂粒を多く含む	良	灰白	灰白	2.5Y7/3	
529	C-3	丸瓦	横方向の縫目タキナダ	9木	布目板ナダ	5×5	ヘラ切り	0.5mm位の黒の砂粒を少し含む	良	灰白	灰白	2.5G7/2	
530	C-3	丸瓦	横方向の縫目タキナダ	11木	ナダ	5×5	ヘラ切り	0.5mm以下の砂粒が含まれる	良	灰	灰	N3/0	
531	C-3	丸瓦	横方向の縫目タキナダ	布目板	5×5	ヘラ切り	0.5mm以下の系の砂粒を少し含む	やや軟	灰白	灰白	N6/1		
532	C-3	丸瓦	横・横方向の縫目タキ	10木	ナダ	5×5	ヘラ切り	0.5mm以下の黒の砂粒を少し含む	やや軟	灰白	灰白	2.5Y8/1	
533	C-3	丸瓦	横方向の縫目タキ	10木	布目板	5×5	ヘラ切り	0.5mm以下の砂粒が含まれる	やや軟	灰	灰白	2.5Y7/2	

表16 遺物編目表(瓦)⑤ ※ 本書掲載資料

番号	出土区	種類	外面調査	縦口数	内面調査	縦口数	侧面調査	端面調査	胎土	焼成	外側	内側
534	C-3	丸瓦	ナデ		布目底	5×5	ヘラ切り	ヘラ切り	1.5mm以下の灰・灰白と2mm位の茶褐色の砂粒を少々含む	良	灰白	灰
535	C-3	丸瓦	横力方向に縦目タタキ+ナデ		布目底	5×6	ヘラ切り	ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良	灰白	淡黄 5Y7/1 5Y7/3
536	C-3	丸瓦	横力方向の縦目タタキ	8本	布目底	14×15	ヘラ切り		0.5~1mm位の灰・乳白の粒を含む	良	灰白	灰 7.5Y7/1 10Y6/1
537	C-3	丸瓦	横・斜力方向の縦目タタキ	8本	布目底	6×6	ヘラ切り		0.5mm以下の砂粒を多く含む	良	灰	7.5Y6/1 7.5Y6/1
538	C-3	丸瓦	ナデ		布目底	6×6	ヘラ切り		0.5mm以下の砂粒を含む	良	灰白	緑灰黄 2.5Y8/2 2.5Y8/2
539	C-3	丸瓦	平行タタキ+ナデ		布目底	6×6	ヘラ切り		0.5mm以下の砂粒を多く含む	良	灰	灰黄 10Y6/1 2.5Y7/2
540	C-3	丸瓦	横力方向の縦目タタキ+ナデ	12本	布目底	7×6	ヘラ切り			良	灰白	灰 7.5Y7/1 5Y6/1
541	C-3	丸瓦	横力方向の縦目タタキ	13本	布目底	7×6	ヘラ切り	横板裏	1mm以下の灰の粒を少し含む	良	灰白	灰白 7.5Y7/1 7.5Y7/1
542	C-3	丸瓦	横・斜力方向の縦目タタキ	10本	布目底	6×5	ヘラ切り	ナデ	1mm以下の茶色の砂粒を少々含む	良	灰白	灰白 5Y7/ 5Y7/
543	C-3	丸瓦	ナデ		布目底		ヘラ切り	ヘラ切り	1~1.5mm位の灰・灰褐色の粒を飛ばす	やや軟	灰白	灰白 2.5Y8/1 2.5Y8/1
544	C-3	丸瓦	ナデ		布目底・斜力方向の縦目タタキ	6×6	ヘラ削り		0.5mm以下の砂粒を含み照り光る砂粒が見られる	良	灰黄	にぶい黄澄 2.5Y7/2 10YR7/2
545	C-3	複斗瓦	横力方向の縦目タタキ	11本	布目底		ヘラ切り		0.5~1mm位の灰白・灰褐色の粒を含む	やや軟	灰黄	灰白 2.5Y8/4 2.5Y8/1
546	C-3	複斗瓦	斜力方向の縦目タタキ	4本	布目底		ヘラ切り	ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	良	灰白	灰白 7.5Y8/1 7.5Y7/1
547	C-3	複斗瓦	横力方向の縦目タタキ	5本	平行タタキ	5×5	ヘラ切り	ナデ	2mmの茶・灰白の縦1mmの灰・灰白の粒炒めの砂粒	良	灰	灰白 10Y5/1 7.5Y7/2
548	C-3	複斗瓦	横力方向の縦目タタキ	11本	布目底	7×7	ヘラ切り	ナデ	1.5~2mmの灰白・灰の粒を含む	やや軟	灰白	灰白 7.5Y7/2 7.5Y7/1
549	C-3	複斗瓦	ナデ		横力方向の縦目タタキ	9本	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5mm以下の砂粒を多く含む	良	灰白	灰白 5Y8/2 5Y8/2
550	C-3	複斗瓦	平行タタキ	5本	布目底	6×6	ヘラ切り		0.5mm以下の灰の砂粒を多く含む1mmの白・黒の砂粒と少々混じる	良	灰	灰白 7.5Y6/1 7.5Y7/1
551	C-3	複斗瓦	平行タタキ	6本	布目底	6×6	ヘラ切り		1mm位の灰・灰白の粒を含む	良	灰白	灰白 7.5Y6/1 7.5Y6/1
552	C-3	複斗瓦	横力方向の縦目タタキ	8本	布目底	6×6	ヘラ切り	断面 剥り	0.5mm以下の砂粒を含む	良	灰白	灰白 7.5Y6/1 7.5Y6/1
553	C-3	複斗瓦	平行タタキ	4本	布目底	6×6	ヘラ切り	ヘラ切り	1mm位の灰・黒の砂粒を少々含む	良	灰白	灰白 10YR8/1 2.5Y8/2
554	C-3	複斗瓦	部分斜方の縦目タタキ	7本	布目底	6×6	ヘラ切り	ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む(灰白)	良	灰白	灰白 5Y8/1 2.5Y8/1
555	C-3	複斗瓦	横・斜力方向の縦目タタキ	8本	布目底	6×5	ヘラ切り	ヘラのようなT字形	3mm位の灰・灰白の粒と1mm以下の灰・灰白・黒の砂粒	良	灰白	灰白 5Y8/2 2.5Y8/1
556	C-3	複斗瓦	横力方向の縦目タタキ	8本	布目底	8×7	ヘラ切り	ナデ	0.5mmの褐色の砂粒を少々含む	良	灰	灰 5Y5/1 5Y5/1
557	C-3	複斗瓦	横力方向の縦目タタキ	8本	布目底		ヘラ切り		1mmの灰・灰白の粒と0.5mm以上の乳白・灰白の砂粒	良	灰	淡黄 5Y8/3 5Y8/2
558	C-3	複斗瓦	横力方向の縦目タタキ	11本	横力方向の縦目タタキ+布目底	6×6	ヘラ切り	ナデ	0.5mm以下の砂粒を含む	やや軟	明灰褐色	淡黄 2.5Y8/6 5Y8/3
559	C-3	複斗瓦	横力方向の縦目タタキ	12本	布目底	7×7	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5mm以下の砂粒を含む	良	灰白	灰白 2.5Y8/1 10YR8/1
560	C-3	複斗瓦	横力方向の縦目タタキ	10本	布目底	7×7	ヘラ切り	ナデ	0.5mm以下の茶色の砂粒を少々含む	良	灰白	灰白 2.5Y6/1 2.5Y7/1
561	C-3	複斗瓦	横力方向の縦目タタキ	8本	布目底	6×6	ヘラ切り	ナデ	0.5mm以下の褐色の砂粒を含む	良	灰白	灰 5Y8/2 7.5Y7/1
562	C-3	複斗瓦	横力方向の縦目タタキ	8本	布目底		ヘラ切り+ヘラ削り	ナデ	1mm位の茶褐色の砂粒を少々含む	良	灰白	灰白 2.5Y8/1 10Y7/1
563	C-3	複斗瓦	横力方向の縦目タタキ	9本	横力方向の縦目タタキ+布目底	10本	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5mm以下の砂粒を含む	良	灰白	灰白 7.5Y8/1 7.5Y7/1
564	C-3	複斗瓦	横力方向の縦目タタキ	10本	布目底		ヘラ切り		1~1.5mm位の灰・灰白の粒を含む	やや軟	灰白	灰白 5Y7/2 5Y8/2
565	C-3	複斗瓦	横力方向の縦目タタキ	11本	布目底	7×7	ヘラ切り		1mm位の灰白の粒を少々含む	やや軟	灰白	灰白 5Y5/1 5Y7/2
566	C-3	複斗瓦	横・斜力方向の縦目タタキ	9本	平行タタキ+布目底	9本	手で削った痕	ヘラ切り	0.5mm以下の灰白の砂粒を少々含む	良	灰白	灰白 2.5Y8/1 2.5Y8/2

表17 遺物觀察表(IV)⑤ ※ 本書掲載資料

番号	出土区	種類	外側調査	調査日 年月	内面調査	布 目 生 数	側面調整	裏面調査	始上:	焼成	外側 内面
567	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ	9本	横方向の縁目タ タキ・布目底	9本 5×5	ヘラ切り 手で割った痕		3~1mmの砂粒を2回、0.5 mm以下の砂粒を少 量含む	やや焼 2.5Y8/1	灰白 灰黄
568	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ	8本	布目底 ナデ	8×5	ヘラ切り 手取り		1.5mm以下の灰口・黒を少 量、1mm以下の砂粒を 多く含む	良	灰白 2.5Y7/1
569	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ・ナデ	9本	布目底 ナデ	6×6	ヘラ切り	ヘラ切り			灰白 2.5Y7/1
570	C-3	熨斗瓦	筋子目タタキ・ナ デ 橫方向の縁目タ タキ	16本	布目底 ナデ		凹面取り痕無 向タタキ	ヘラ切り	1mm以下の砂粒と黒色 を少量含む	良	灰 6Y6/1 6Y6/2
571	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ	11本	布目底 ナデ	6×5	ヘラ切り		1mm以下の灰の粒を少 量含む	やや焼 6Y8/2	灰白 灰白
572	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ・ナデ	10本	横方向の縁目タ タキ	9本	ヘラ切り		0.5mm以下の砂粒を少 量含む(灰・黒)	良	灰白 10Y8/1 10Y8/1
573	C-3	熨斗瓦	横・横方向の縁 目タタキ	10本	布目底	8×7	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5mm以下の白の砂粒 を少量含む	良	灰 6Y6/1 7.5Y3/1
574	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ・布目底	8本	横方向の縁目タ タキ・布目底	10本 6×6	ヘラ切り 手で割った痕	ヘラ切り	0.5mm以下の灰の砂粒 を多く含む	良	灰 6Y6/1 7.5Y6/1
575	C-3	熨斗瓦	横・横方向の縁 目タタキ	9本	横方向の縁目タ タキ・布目底	8×6	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5mm以下の砂粒を含 む	良	灰 10Y8/1 10Y8/1
576	C-3	熨斗瓦	平行押印		布目底	6×5	ヘラ削り		0.5mm以下の砂粒を含 む	良	灰 2.5Y7/3 2.5Y6/2
577	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ	8本	ナデ		ヘラ切り	ナデ?	2mm以下の砂粒を少 量含む	やや焼 2.5Y8/2	灰 10Y7/3 2.5Y8/2
578	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ	6本	布目底	6×6	ヘラ削り・ヘラ削 り 手で割った痕		0.5~1mmの褐色の 砂粒を少量含む	やや焼 6Y8/3	灰 6Y8/2
579	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ・ナデ	9本	横状工具に上る ナデ		ヘラ削り後横ナ ダ 手で割った 痕		1mm以下の砂粒と黒石・ 塊状の砂鉄鉱を多量 に含む	やや焼 10Y8/4	赤黄色 10Y8/4
580	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ・ナデ	8本	横方向の縁目タ タキ・ナデ	8本	ヘラ切り 手取り	ナデ	1mm以下の砂粒を少 量含む(灰)	やや焼 6Y7/1 5Y7/2	灰 6Y7/1 5Y7/2
581	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ・ナデ	11本	布目底	9×8	ヘラ切り	ヘラ切り		良	灰 6Y7/1 5Y7/2
582	C-3	熨斗瓦	横・横方向の縁 目タタキ	8本	横方向の縁目タ タキ・布目底	8×8	ヘラ切り		0.5mm以下の砂粒を多 く含む	良	灰 7.5Y6/1 7.5Y6/1
583	C-3	熨斗瓦	横・横方向の縁 目タタキ	8本	横方向の縁目タ タキ・布目底	8本 6×5	ヘラ切り 手取り		0.5mmの灰・乳白・灰 白の粒を含む	やや焼 6Y6/1 5Y7/1	灰 6Y6/1 5Y7/1
584	C-3	熨斗瓦	平行押印		布目底	5×5	ヘラ削り・工具 手で削った痕	ヘラ切り	0.5mm以下の灰色の砂 粒を少量含む	良	灰 6Y6/1 5Y7/1
585	C-3	丸瓦	横方向の縁目タ タキ・ナデ	12本	布目底	4×6	ヘラ切り後不正 方向ナデ		1mm以下の砂粒と黒石 試し盛合まれる	良	灰 7.5Y8/1 10Y7/1
586	C-3	熨斗瓦	横・横方向の縁 目による ナデ		布目底	4×5	ヘラ削り	ナデ	0.5mm以下の砂粒を含 む	良	灰 6Y7/1 5Y7/1
587	C-3	熨斗瓦	横・横方向の縁 目タタキ・ナデ	9本	横方向の縁目タ タキ	9本	ヘラ切り 手で割った痕	ヘラ切り	1mm以下の褐色の砂粒 を少量含む	やや焼 5Y7/2 5Y8/1	灰 6Y6/1 5Y7/1
588	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ・ナデ	8本	横方向の縁目タ タキ	8×8	ヘラ削り		2mm以下の砂粒を含 む(灰)	やや焼 2.5Y6/2 2.5Y8/1	赤黄色 6Y6/1
589	C-3	熨斗瓦	平行タタキ		横方向の縁目タ タキ・布目底	11本 6×6	頭面面取り痕無 方向ナデ	ヘラ切り後横方 向ナデ	1mm以下の砂粒と黒石 が多量に含まれる	やや焼 10Y8/4 10Y8/2	灰 10Y8/4 10Y8/2
590	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ・ナデ	12本	布目底	5×8	ヘラ削り	ヘラ削り	0.5mm以下の砂粒を含 む	良	赤 10Y8/1 10Y8/1
591	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ	9本	布目底	7×7	ヘラ切り 手取り	ヘラ切り	0.5mmの白・黒の砂粒 を少量含む	やや焼 6Y6/1 7.5Y6/1	灰 6Y6/1 7.5Y6/1
592	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ	10本	布目底	6×7	ヘラ削り 手取り	ヘラ切り	1mm以下の砂粒と黒石 を少量含む	良	灰 10Y7/1 7.5Y6/1
593	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ・ナデ	9本	布目底	8×8	ヘラ切り後横方 向ナデ		1mm以下の砂粒と黒石 を少量含む	良	灰 10Y8/1 10Y8/1
594	C-3	熨斗瓦	横方向の縁目タ タキ・ナデ	7本	横方向の縁目タ タキ・布目底	7本 6×7	ヘラ切り後横ナ ダ、頭面カタタ キの上から横ナ ダ	ヘラ切り後横ナ ダ	1mm以下の砂粒と黒石 を多量に含む	やや焼 10Y8/2	赤黄色 6Y6/1
595	C-3	熨斗瓦	横・横方向の縁 目タタキ	10本	布目底 ナデ	8×8	ヘラ切り		0.5mm以下の砂粒を少 量含む(灰)	やや焼 2.5Y7/1 2.5Y7/2	赤黄色 2.5Y7/1
596	C-3	熨斗瓦	横・横方向の縁 目タタキ	13本	布目底 ナデ	6×6	ヘラ削り		0.5mm以下の砂粒を含 む	良	赤黄色 2.5Y7/2 10Y8/1
597	C-3	熨斗瓦	平行タタキ・横 方向の縁目タタ キ	9本	布目底 ナデ	7×7	ヘラ切り 手で割った痕	ヘラ切り	2mm以下の砂粒を少 量含む(灰)	やや焼 6Y7/1 6Y6/1	灰 6Y6/1 6Y6/1
598	C-3	熨斗瓦	横・横方向の縁 目タタキ	9本	布目底	5×5	ヘラ削り		1mm位の白・黒の砂粒 を少量含む	やや焼 6Y8/1 6Y8/1	灰 6Y8/1 6Y8/1
599	C-3	熨斗瓦	横・横方向の縁 目タタキ・ナデ	8本	横・横方向の縁目タ タキ	11本	ヘラ切り		1mm位の白・黒の砂粒 を少量含む	やや焼 6Y8/1 6Y8/1	灰 6Y8/1 6Y8/1
600	C-3	熨斗瓦	横・横方向の縁 目タタキ	9本	布目底	7×6	ヘラ切り 手で割った痕		0.5mm以下の砂粒を含 む	良	灰 7.5Y6/1 7.5Y6/1

表18 遺物観察表(瓦)⑦ ※ 本書掲載資料

番号	出土K	種類	外面調整	裏面調整	表面調整	断土	色調		
							高さ mm	幅 mm	
661	C-3	蟹斗瓦 横・斜方向の縫 目タタキ	9本	布目底	10×8 ヘラ切り 手で削った痕	0.5mm以下の砂粒を少 量含む	良	灰 7.3Y6/1	灰オーブ 7.5Y6/2
662	C-3	蟹斗瓦 横・斜方向の縫 目タタキ・ナグ	10本	布目底	ヘラ切り ナグ	1.5mm位の乳白の粒と 0.5mm以下の砂粒を多 く含む	灰白 5Y7/1	灰白 5Y8/1	
663	C-3	蟹斗瓦 ナグ	8本	布目底 ナグ	7×6 ヘラ切り後手で 切削 ヘラ削り	ナグ	5mm以下の砂粒を多く 含む	良 2.5Y6/1	灰白 2.5Y8/1
664	C-3	蟹斗瓦 横・斜方向の縫 目タタキ	10本	布目底 ナグ	8×7 ヘラ切り	0.5~1mm位の灰・灰白 の粒を少許含む	やや焼 2.5Y7/1	灰白 2.5Y8/3	
665	C-3	蟹斗瓦 横・斜方向の縫 目タタキ・ナグ	8本	横方向の縫目タ タキ	8本 ヘラ切り	ヘラ切り	1.5mm位の灰白の粒を 少許含む	灰 2.5Y8/1	灰黄 2.5Y7/2
666	C-3	蟹斗瓦 横・斜方向の縫 目タタキ・ナグ	9本	布目底 ナグ	7×7 ヘラ切り ヘラ削り		1mm位の白の砂粒を少 量含む	良 5Y6/1	灰 5Y6/1
667	C-3	蟹斗瓦 横・斜方向の縫目タ タキ	9本	横方向の縫目タ タキ・布目底	9本 6×6 ヘラ切り	ヘラ切り	1mmの褐色の砂粒を少 量含む	やや焼 7.5Y8/1	灰 N6/
668	C-3	蟹斗瓦 横・斜方向の縫目タ タキ・ナグ	9本	布目底 ナグ	6×6 ヘラ切り後手で 切削 ヘラ削り		0.5mm以下の砂粒を多 く含む(部分を含む)	良 N6/0	灰 N6/0

第 IV 章 考 察

下村窯跡の須恵器編年

下村窯跡で出土した須恵器は、椀・壺・長胴壺の3種が多勢を占め、他に甕、短頸壺、蓋（椀・壺・短頸壺）、皿、高壺、鉢、水滴などがある。本章では、下村窯跡の操業年代検討のため、型式設定による編年案の作成を行う。なお、ここで提示する編年案は本書独自のものであり、前報文（基礎資料編）（木村編 1996）中に提示された編年案や年代観と整合させたものではないことをお断りしておきたい。

（1）型式の設定

一定量の出土している椀・壺・蓋・甕・長胴壺・短頸壺の6器種において、属性分析により群設定を行った（表19～24）。各群の様相・詳細について、以下に述べる。

椀・壺については、断面形状（椀：壺部断面、壺：全体断面）が分類の大きな指標となる。椀1～3類と壺1～3類については内面における体部（口縁部）と底部の境が明瞭で、断面形はくの字状を呈するが、椀4類及び壺4～6類については内面における境が不明瞭で、該当箇所の器厚が厚く、断面三角形状を呈する。また椀は高台貼り付け位置が壺部底面の内側と外側の別、高台の長短（高低）の別がある。壺底部の別については、特記すべきものとして円盤状の底部を持つものと、円柱状の底部を持つものがある。円盤状の底部は、文字通り平たい円盤状の底部の上に体部が形成されているもので、この底部が、大きく外側に張り出したものを指す。円柱状の底部は、「円盤高台」、「充実した底部」などとも表現され、南九州特有の形態として認識されている（中島・城戸 1994、岡本 1995）。

蓋については、壺・椀に用いられるものと、短頸壺に用いられるものの2種があるが、短頸壺蓋は分類可能な一定量が出土していないため、今回は分析の俎上に上げない。蓋は天井部から口縁端部まで断面形が緩やかな弧を描く、やや丸味を帯びた1類（全体断面弧状）と、天井部が弧を描きながらも口縁端部近くにおいて水平に近くなる2類（全体断面翼状）、天井部と口縁部の別が明瞭な低台形状の3類がある。1類と2類は頂部に宝珠つまみを持ち、3類は輪状のつまみを持つものもあるが、基本的につまみは持たない。この3種は、口縁端部の形状にも別があり、3類は直口であるが、1・2類はかえりの名残を持つ。また1類の端部は丸味を帯び（口縁端部丸垂下）、2類の端部はやや尖り気味（口縁端部尖垂下）である。

甕は二重口縁の退化した名残を留める1類（擬二重口縁）と、直口の2・3類（単口縁）の2種に大別され、更に口縁部と肩部の境が明瞭で、内面に稜が明瞭に入る2類（頸部断面くの字）と、口縁部と肩部が一連のものとなり、内面稜が不明瞭になる3類（頸部断面C字）に分けられる。また3類の胴部内面には、車輪状當て具痕が残る。

南九州に偏重し、下村窯を代表する器種となっている長胴壺は、二重口縁の形状において、第1口縁と第2口縁の別が明瞭な1類と、別が不明瞭になる2類、一連のものとなる3類に分けられる。また甕と同じく頸部の形状により、口縁部、頸部、肩部の作り分けが明瞭な1類（頸部断面コの字）と、境が不明瞭となる2・3類（頸部断面C字）に大別される。また、1類はわずかではあるが胴部がやや丸味を帯び（胴部下半弧状）、3類は直線的である。

表19 檻の属性と分類

編 號	坏部形状			器高		高台位置		高台長		坏部断面	
	丸 台 形	三 角 形	半 円 形	低	高	内 側	外 側	短	長	く の 字	肥 厚
1類											
2類											
3類											
4類											

表21 蓋の属性と分類

蓋 形	全体断面			口縁端部			つまみ		
	弧 状	翼 状	低 台 形	丸 垂 下	尖 垂 下	直 口	金 珠	無	
1類									
2類									
3類									

表22 長胴壺の属性と分類

長 胴 壺	脇部下半			頸部断面		第1~2回縁度		
	弧 状	直 線 的	コ の 字	C 字	明 瞭	不明 瞭	同 化	
1類								
2類								
3類								

表20 壺の属性と分類

壺	全体形状			全体断面			器高		底部		
	丸 台 形	三 角 形	く の 字	三 角 状	低	高	普通	内 偏 底	内 柱 状		
1類											
2類											
3類											
4類											
5類											
6類											

表21 蓋の属性と分類

壺	口縁長			口縁端部		頸部断面			外面叩き		内面当具	
	長	短	無	無 二 重	單 口 縁	く の 字	C 字	平行	格子	同心	車輪	
1類												
2類												
3類												

表24 短頸壺の属性と分類

短 頸 壺	全体形状			法量		口縁長		口縁器厚		頸内面積	
	第 盤 玉	丸	長 胴	小	大	長	短	薄	厚	明 瞭	不 明 瞭
1類											
2類											
3類											

表25 各型式の出土地区 (※数字は報告書掲載番号に対応)

編 號	A地区		B地区		C地区			D地区		E地区		
	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	8類	9類	10類	11類	
1類	1~6・7・12・13	10~45										
2類	9・8・9	16~49										
3類	15~16				111~142(6例), 155~157(9例), 321~329							
4類					98~111(1例), 112~121・132~133(3例), 138~137(4例), 338~339							
5類	21~23	56										
6類	22	58			157~152(5例)							
7類	20				144(3例), 145~146(17例)							
8類	87				87~95・122~126・128(3例), 138~149(6例)							
9類	19	55									378~379	
10類	319										315~316・372~373・375~376	
11類	25~27・379	80~94										
12類	24~26・318	75~79										
13類	28				130~131(3例), 178~181(4例), 182~183(10例), 184(1例)							
14類	36	66										
15類	62~64・69~71											
16類	30~31・35~37				235~236・239~240・242~243(1例), 241~244~245~251, 252~254~256(4例), 258(4例), 260~269(6例), 270~271~272(7例), 271~275(8例), 276~285(9例), 290~291~292				298~302~304~307			
17類								309~310~364~370				
18類	1類				204(8例), 207~219(8例), 220~223・224~226(9例), 227~234(10例)					314~363		
19類	2類				185(1例), 189~193(3例), 198~200(4例), 202~203(5例), 206~207(6例), 209~210(6例), 216~219~221~222(9例), 246~257							
20類	3類				187~194(1例), 358~361			309~310~311~313				
21類	1類	72										
22類	2類	58			213(16例), 214~215(9例), 339							

短頸壺も明瞭な形態的別があり、出土量は少ないものの分類が可能であった。最も顕著なのは法量の別であり、全体の形状が扁平な球形の 1・2 類と、長胴で大型の 3 類に大別される。また 1 類と 2 類は、甕や長胴壺と同じく、頸部内面における稜の有無で分けられる。

以上、椀 4 群、坏 6 群、蓋 4 群、甕 3 群、長胴壺 3 群、短頸壺 3 群にそれぞれ分類したが、型式的な変遷としては、製作工程の省略化、粗雑化という普遍的な変異の方向性により、各器種ともに 1 類→2 類→3 類……、という流れになると予想される。層毎の取り上げが成されている C 地区出土資料で検証すると（表 25）、複数型式が出土している椀（3 類：6・9 層、4 類：1～4 層）、坏（2 類：9 層、3 類：7・8 層、坏 4 類：3・6 層）、長胴壺（1 類：6～10 層、2 類：1～9 層、3 類：1 層）の 3 器種において、下層から上層への時間的変移に齟齬はない。

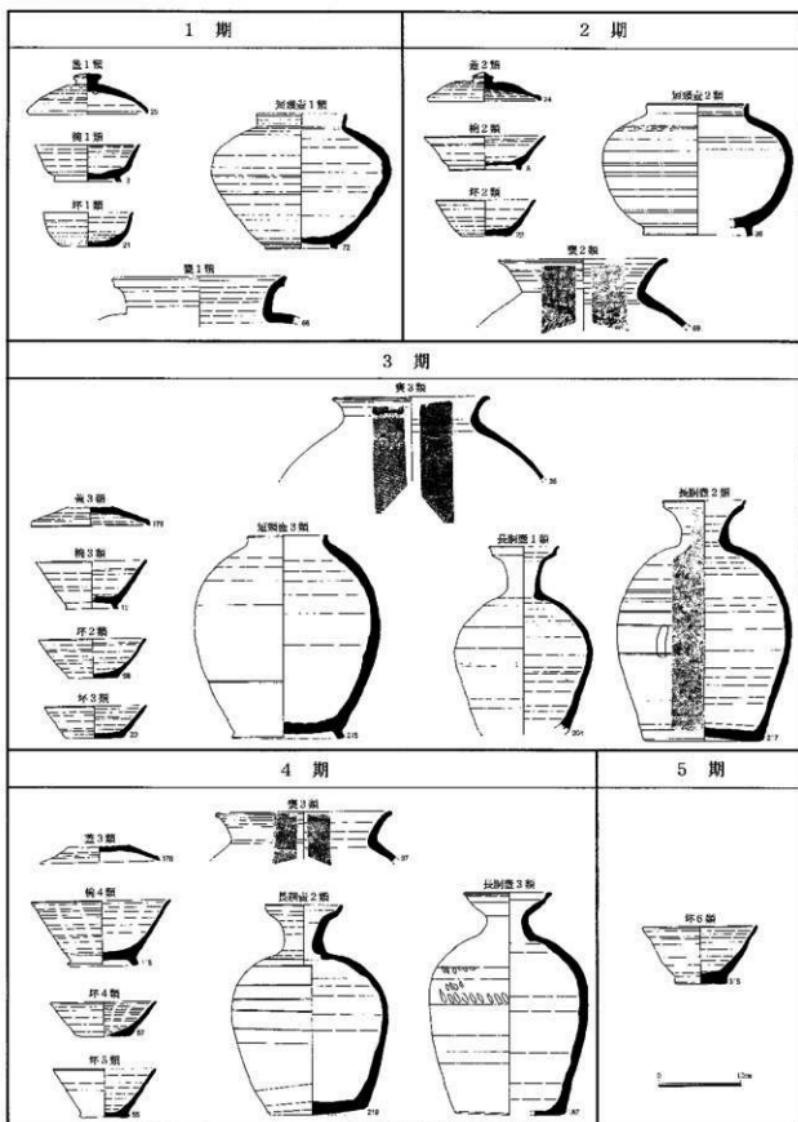
（2）時期の設定

次に各器種、各群の同時性、共伴関係であるが、同じく C 地区出土資料が有効である。詳細については表 25 を参照していただきたいが、型式の変遷は漸移的で、それぞれの器種、型式において、複雑な重複関係にある。そこで、多種に分類が可能であった、即ち、時間的変移を最も鋭敏に表出していると考えられる椀と坏を見ると、C 地区における遺物相は、大きくは 7～10 層における椀 3 類と坏 2・3 類、1～4 層における椀 4 類と坏 4 類の 2 相に分けられる。この 2 相を便宜的に C 地区下層（7～10 層）、C 地区上層（1～4 層）と呼称しておく。椀、坏以外の器種について見ると、蓋、甕は上層、下層ともに蓋 4 類、甕 3 類で、短頸壺は下層のみに 3 類が、長胴壺は下層に 1・2 類、上層に 2・3 類が伴う。長胴壺は、中間型式の 2 類が上層、下層両方にまたがり、各層において複数型式の重複が認められるが、下層において、同じく複数型式の認められる坏の変遷と対応しており、上層、下層をそれぞれにおいて更に二分する指標となりそうである。また短頸壺は出土量が少ないと、多少確実性に欠けるが、下層前半（9・10 層）のみに伴うようである。

以上より C 地区出土資料は、椀 3 類の下層、椀 4 類と坏 4 類の上層に二分され、さらに坏 2 類、長胴壺 1 類、短頸壺 3 類の下層前半（9・10 層）、坏 3 類、長胴壺 2 類の下層後半（7・8 層）、長胴壺 2 類の上層前半（3・4 層）、長胴壺 3 類の上層後半（1 层）という 4 相に分けられる。また蓋 3 類、甕 3 類が通時的に伴う。上層後半において、坏を除き、各器種の最後の段階にあると思われる型式が山描い、また椀においては C 地区で型式群の後半にあたる 3・4 類が出土しているため、この C 地区の様相が、下村窯の変遷における後半段階の様相を表出したものと考えられる。

C 地区以外の状況を見ると、A 地区では坏 5 類が、B 地区では坏 5 類と 6 類が出土している。A 地区の坏 5 類は甕 3 類と蓋 3 類（椀 3・4 類に並行）に、B 地区の坏 5・6 類は長胴壺 3 類（椀 4 類並行）に伴うと思われ、更に、坏 5 類→坏 6 類という時間的変遷に間違いがなければ、坏 5 類は椀 3 類に、坏 6 類は椀 4 類に並行するものである可能性が高い。この場合、C 地区での検討結果より、坏 5 類は坏 3 類に、坏 6 類は坏 4 類に並行することになり、坏 2 類より派生した円柱状底部と普通底という二つの系統が並存したと理解できる。

また A 地区においては椀 1～3 類と坏 1～3・5 類、甕 1・3 類、短頸壺 2 類が、B 地区においては椀 1・2 類と坏 1・2・5・6 類、甕 1・2 類、短頸壺 1 類が出土している。うち坏については、先の検討により、2～6 類と椀 3・4 類との共伴関係がわかっている。残る坏 1 類については、形態的類似性より、椀 1 類との同時性は間違いあるまい。また同様の理由で、坏 2 類と椀 2 類が共伴することも間違いな



第45図 下村窯跡出土須恵器編年図 (scale : 1/6)

*数字は報告書掲載番号

いと思われ、C地区での検討結果を併せ、壺2類は椀3類の前半段階まで残ると理解できる。

蓋については、C地区での検討により、3類と椀3・4類との共伴が判明している。残る1～3類については、下村窯の開始期に、椀、壺が蓋とのセット関係無しで生産されたとは考え難いため、蓋の初期型式である1類を椀、壺の1類と同時と考えたい。また、つまみを持つ蓋3類とつまみを持たない蓋4類は、それぞれ蓋2類から系統を異にして派生したものと考えられるため、蓋3類を蓋4類と同じく椀3・4類並行に、残る蓋2類を椀2類並行と位置付ける。

甕は、A地区とB地区での様相が雖となる。この両地区では、椀4類段階のものは皆無であり、椀3段階にしても椀、壺、蓋に数点があるのみである。即ち、A地区とB地区においては、椀2類段階までほぼ生産を終了していたと理解できる。両地区において長胴甕の出土が皆無であることも、場所による器種の作り分けというよりも、長胴甕の生産が行われた椀3・4類段階には、操業が終了していたと捉えるべきであろう。しかしその中でA地区における甕3類の出土は4点と比較的多い。C地区での検討により、甕3類は椀3・4類に伴うことがわかっているが、A地区でも出土していることは、椀3・4類段階に留まらず、それ以前から甕3類が生産されていた可能性を示す。よって、不確実性が高いものの、甕3類を椀2～1類並行に、甕1・2類を椀1類並行に位置付けておきたい。

短頸甕については、A地区で2類が1点、B地区で1類が1点出土している。ともに両地区で生産の行われた椀1・2類段階のものではあるが、資料数が少なく、それがどちらの段階に位置付けられるかを考察するに足るものがない。甕同様、便宜的に短頸甕1類を椀1類並行、短頸甕2類を椀2類並行に位置付けておきたい。

なお、円盤状、円柱状の底部を持つ壺5・6類については、壺部形態の類似性より、壺5類は椀4類に並行し、壺6類はやや体部が丸味を帯びていることから、椀4類、壺5類にやや後出するものと思われる。

以上に検討して来た各器種、各群の並行関係をまとめたのが第45図である。下村窯の須恵器は大きくは5つの時期に分けられ、それぞれを下村1～5期と呼称する。

(3) 実年代の比定

各期の実年代については、下村窯跡の出土遺物は須恵器と瓦以外になく、出土遺物そのものからの比定は出来ない。そこで周辺地域の様相と比較すると、下村1期の椀と蓋の様相は、牛頭窯跡群における8世紀中頃の様相に類似する。また下村2期の蓋の形態は8世紀後半段階の陶邑窯跡群(中村IV-3・4期)や、トギバ窯跡の8世紀後葉(トギバI期)の様相に類似する。下村3・4期の蓋における落し蓋状の形態や、つまみを持たない低台形状の形態は、牛頭窯跡群では9世紀台に見られる。また下村3・4期の椀における器高の高い三角形状の壺部形態は、中島恒次郎氏による大宰府における椀形式編年の中でも、9世紀台のものに類似する(中島1992)。同じく中島氏の論考を参考にすれば、大宰府においては西暦900年前後に壺部が三角形から丸形に移行している。下村窯跡では、椀形式最後の1期段階においても、椀の壺部形態は三角形であり、丸形になる前に生産が終了している。

以上より、下村1期を8世紀中葉、2期を8世紀後葉、3期を9世紀前葉、4期を9世紀中葉、5期を9世紀後葉に比定する。

第 V 章　まとめ

下村窯跡出土の須恵器は、前章に検討した通り、多くは 8 世紀中葉から 9 世紀中葉までに位置付けられる。一部、円柱状底部を持つ壺など、これに後出する可能性があるが、下村窯の操業は、9 世紀後葉にはおおむね終了していたと見て間違いないだろう。

九州の古代須恵器窯跡についてまとめた石木秀啓氏は、九州では 8 世紀中頃から後半にかけて新たな生産地の発生や生産の拡大が認められ、9 世紀後半から 10 世紀にかけて、各國ともに生産を終了するとしている（石木 2007）。8 世紀中葉に操業を開始し、9 世紀後葉に生産を終了する下村窯の消長は、九州全体の動向に合致したものと言える。

宮崎県内では、下村窯跡の他に、延岡市古川窯跡、同苅田窯跡、宮崎市松ヶ迫窯跡の計 4ヶ所の古代窯が確認されている。古川窯跡は調査年代が古く、詳細が不明であるが、松ヶ迫窯跡には 8 世紀中頃～9 世紀初頭の実年代が与えられており（今塙屋・秋成 2006）、また苅田窯跡は、出土須恵器から 8 世紀後葉～9 世紀前葉に位置付けられる。ともに比較的短期間の操業であったと考えられるが、その中において下村窯の操業は比較的長期間に及ぶ。

下村窯跡は、直線距離で 8～10km の位置にある日向国衙、国分寺への供給を担った官窯と表現されることが多い。西都市の日向国分寺では、形態、製作技法の両面から見て、本窯跡の製品と思われる瓦が多数出土しており（西都市教育委員会 篠瀬明宏氏教示）、官窯としての性格を持っていたことは間違いない。下村窯跡出土の瓦は、すべて凸面縄目叩きで型式的な差はなく、ほぼ一時期に収まるものと思われる。山土地区別で見ると、C 地区に明らかな偏重があるが、当地区出土須恵器の年代は 9 世紀前葉～中葉におさまるため、本窯跡の瓦にもまた、同様の年代をあてることができる。『続日本紀』より、日向国分寺は、下村窯での瓦生産に先立つ 8 世紀中葉には成立していたと考えられ、創建時には、下村窯跡以外の窯が瓦の生産・供給を担っていたと理解できる。また、下村窯跡では軒瓦の出土が一点もないことから、より高度な製作技術を要する軒平・軒丸瓦の製作・供給もまた、他の窯が担っていたと考えられる。このことは、下村窯跡が国分寺における瓦生産の一義的な存在ではなかったことを示す。

日向国衙（西都市寺崎遺跡）出土の遺物相を見ると、8 世紀代には長頸壺や内面同心円凸具痕の甕など、下村窯跡で生産していない、つまり他の窯の製品と思われるものが目立つ。また下村窯跡において 9 世紀台に生産が開始され、その後の本窯製品の過半を占めるようになる長胴壺が、該当時期に 1 点も出土していない。つまりは現在までのところ、国衙出土の土器に、積極的に下村窯跡の製品と評価できるものはなく、下村窯産須恵器の供給先については、国衙より下位レベルの消費地をも視野に入れて検討する必要がある。

日向国分寺に供給するための瓦を生産していたことから、下村窯が官窯としての性格を持っていたことは、改めて言うまでもない。但し、国衙への須恵器製品の供給を積極的に認め難いことや、国分寺瓦の生産において、途上から、しかもその一部での参画に留ま

るなど、国衙、国分寺への供給を一手に担っていた、国専用の窯として機能していたわけではない。むしろ、より下位レベルでの流通を目的として開窯し、後に国レベルの官窯としての性格が加わったものとの印象を受ける。

下村窯跡から日向国分寺へは直線距離で8km、日向国衙（寺崎遺跡）へは9km強あり、供給地としては、必ずしも近距離にあるとは言い難い。9世紀台、国衙・国分寺の拡大、発展に伴い、下村窯跡のような国府周辺地域の陶窯にも、国衙・国分寺への瓦供給という、より直接的な官窯としての性格が付されたものかと推測される。この下村窯跡の瓦陶兼窯への変質は、国府主導による窯業生産の体制再編と捉えることが出来、これに加えられたことが、下村窯跡の操業期間を長期化させた要因かと思われる。今後、国衙、国分寺を含め、消費地出土の須恵器について、下村窯製品の有無を、その供給年代とともに慎重に検討する必要がある。

本書をまとめるにあたり、西都市教育委員会の笠瀬明宏氏や、九州上器研究会の諸氏には貴重な御教示を数多頂きました。文末ではありますが、記して感謝いたします。

【下村窯跡関係報告書】

- 木村明史編 1991『佐土原町遺跡詳細分布調査報告書』佐土原町文化財調査報告書第5集
長津宗重・木村明史編 1992『下村窯跡概要報告書I』佐土原町文化財調査報告書第7集
木村明史編 1993『隱山遺跡概要報告書』佐土原町文化財調査報告書第8集
木村明史編 1996『下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉』佐土原町文化財調査報告書第10集

【参考文献】

- 網田龍生 2001「九州における須恵器製作技法とその転換」『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東6
　須恵器の製作技法とその転換－』古代の土器研究会 第6回シンポジウム 発表要旨・資料集
石川恒太郎 1968『宮崎県の考古学』吉川弘文館
石木秀啓 2007「牛頭窯跡群と九州の須恵器生産体制」『国立歴史民俗博物館研究報告』第134集 国立歴
　史民俗博物館
今塙屋義行・秋成雅博 2006「松ヶ迫窯跡の再検討」『宮崎考古』第20号 宮崎考古学会
岡本武憲 1990「日向における古代末の土器」『中近世土器の基礎研究』VII 日本中世土器研究会
岡本武憲 1995「13.九州南部」(中世土器研究会編)『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
小田富士雄 1983「I 延岡市苅田窯跡」『宮崎県文化財調査報告書』第26集 宮崎県教育委員会
小田富士雄 1992「日向における須恵器窯跡調査の成果」『宮崎考古』第12号
小田富士雄・下原幸裕編 2007『豊前・トギバ窯跡の調査』福岡大学考古学研究室研究調査報告第5冊 福
　岡大学人文学部考古学研究室
栗原和彦 2000「大宰府史跡出土の軒平瓦」『九州歴史資料館 研究論集』25 九州歴史資料館
出合宏光 2000「九州南部における平安時代の土器・陶磁器」『中近世土器の基礎研究』XV 日本中世土器
　研究会
中島恒次郎 1992「大宰府における焼形態の変遷」『中近世土器の基礎研究』VIII 日本中世土器研究会
中島恒次郎・城戸康利 1994「薩摩国から来た食器」『中近世土器の基礎研究』X 日本中世土器研究会
中村 浩 2001『和泉陶邑出土須恵器の型式編年』芙蓉書房出版
義方政幾・笨瀬明宏編 2002『市内遺跡発掘調査概要報告書VII』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第31集
　宮崎県西都市教育委員会
宮崎県 2001『宮崎県史』通史編 古代2
吉本正典編 2001『寺崎遺跡』国衙保存整備基礎調査報告書 宮崎県教育委員会



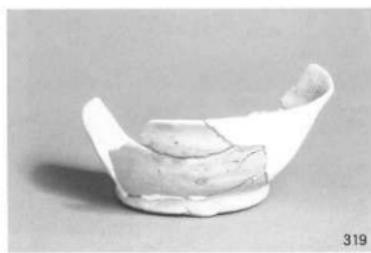
図版 1 調査風景



317



318



319



320



322



323



325



330

圖版 2 出土須惠器①



333



335



336



338



340



341



342



345

圖版3 出土須惠器②



349



350



353



354



355



357



359



361

図版4 出土須恵器③



365



366



368



370



371



372



373



375

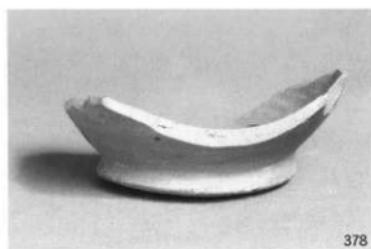
図版5 出土須恵器④



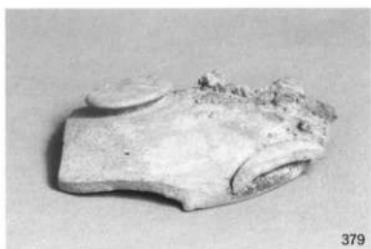
376



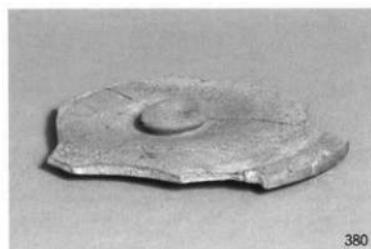
377



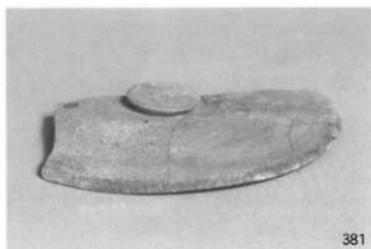
378



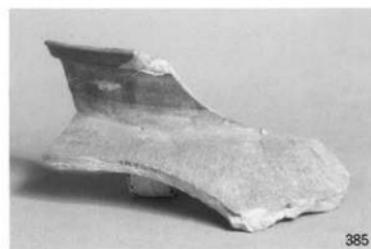
379



380



381

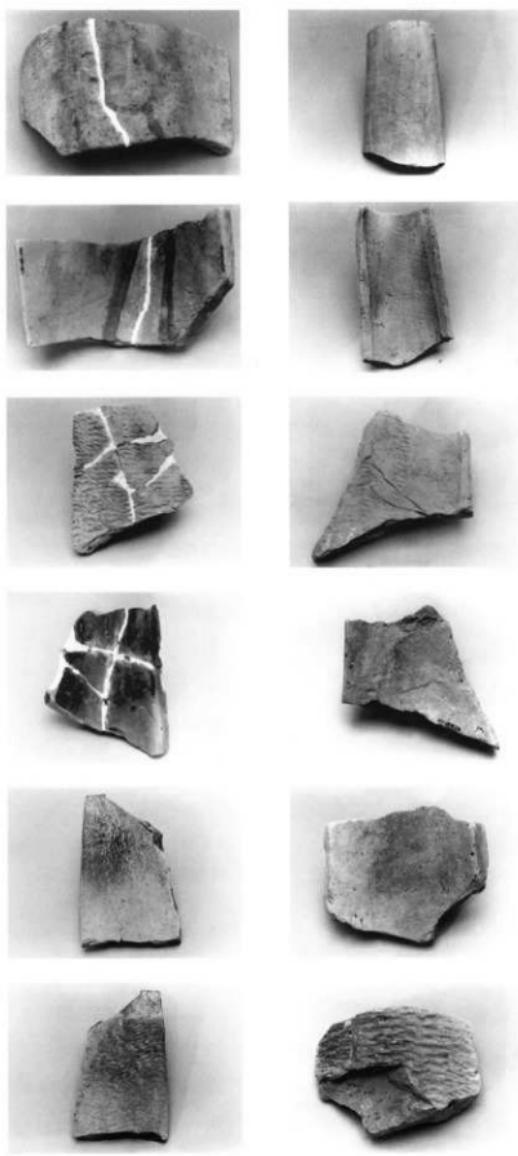


385

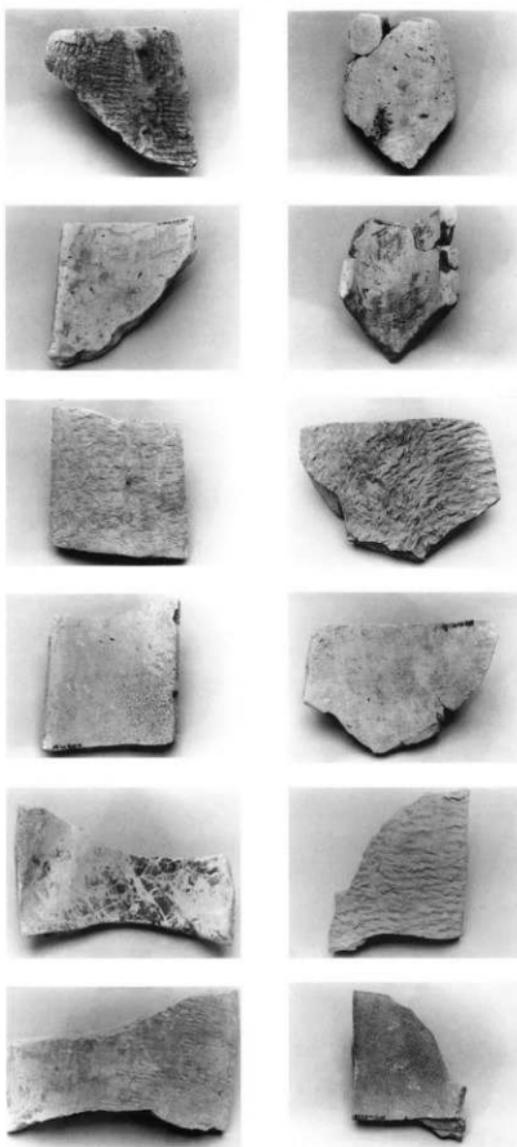


386

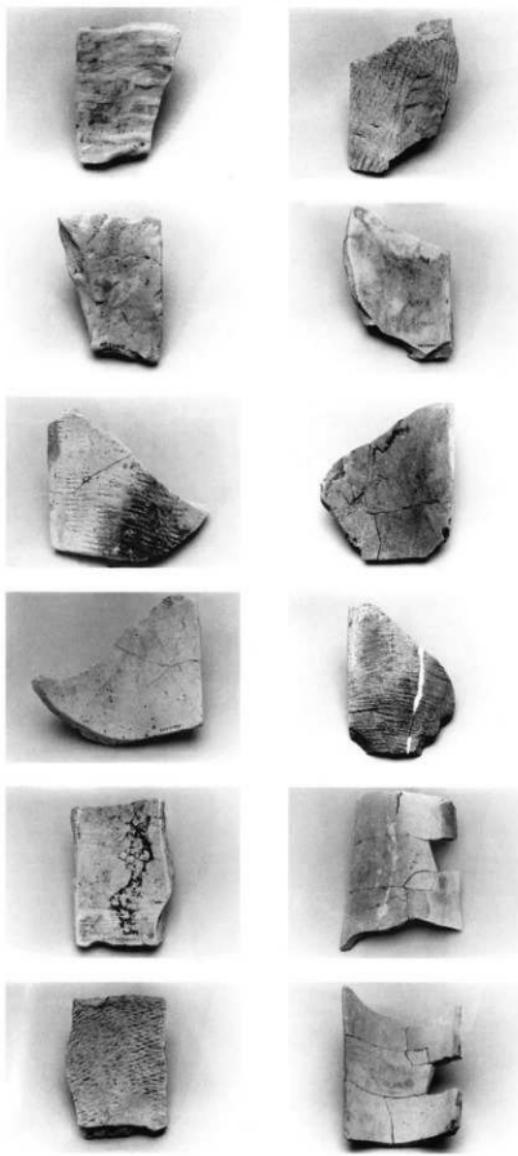
圖版 6 出土須惠器⑤



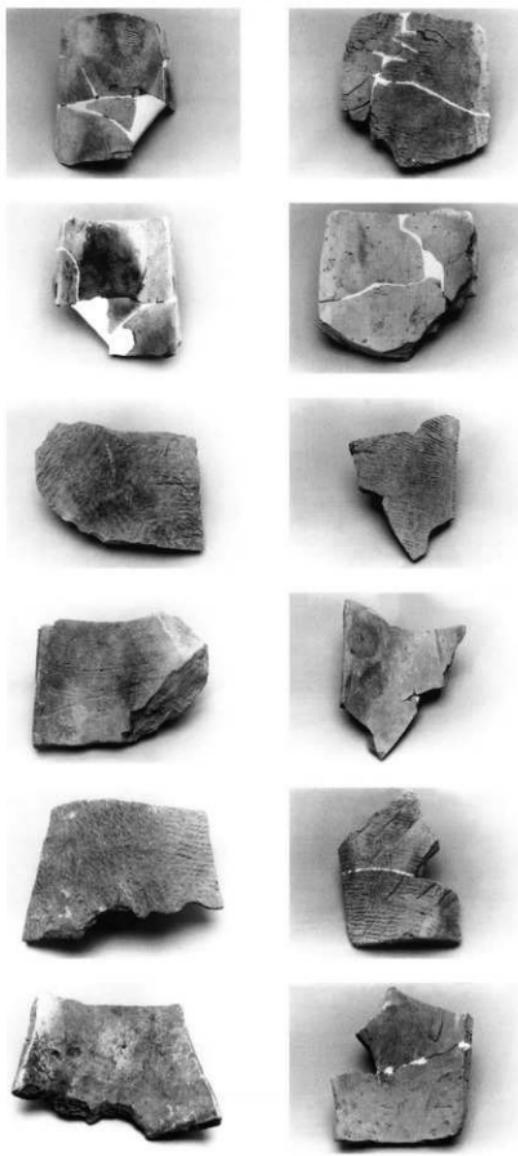
圖版 7 出土瓦①



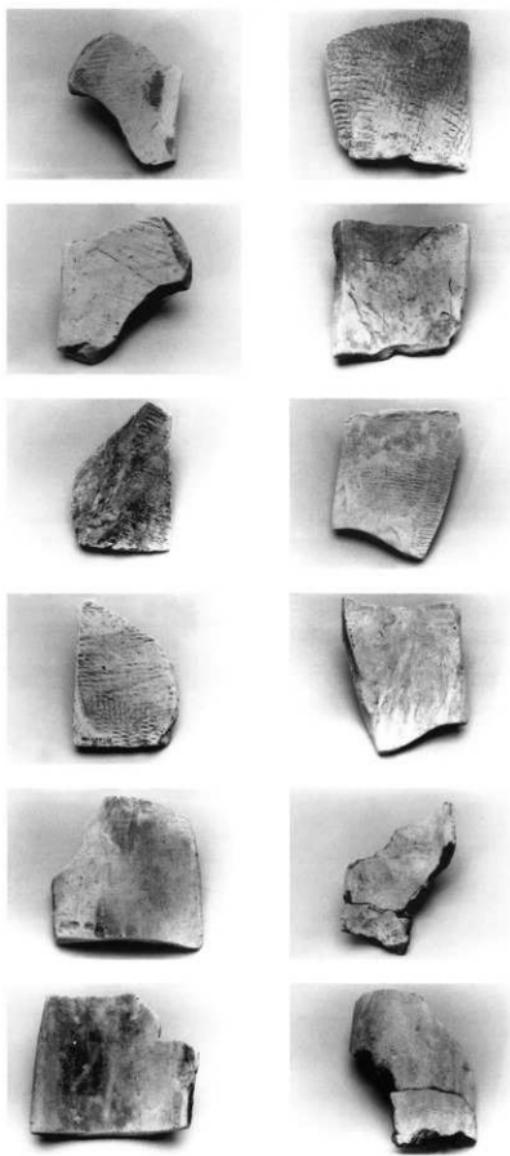
図版8 出土瓦②



图版9 出土瓦③



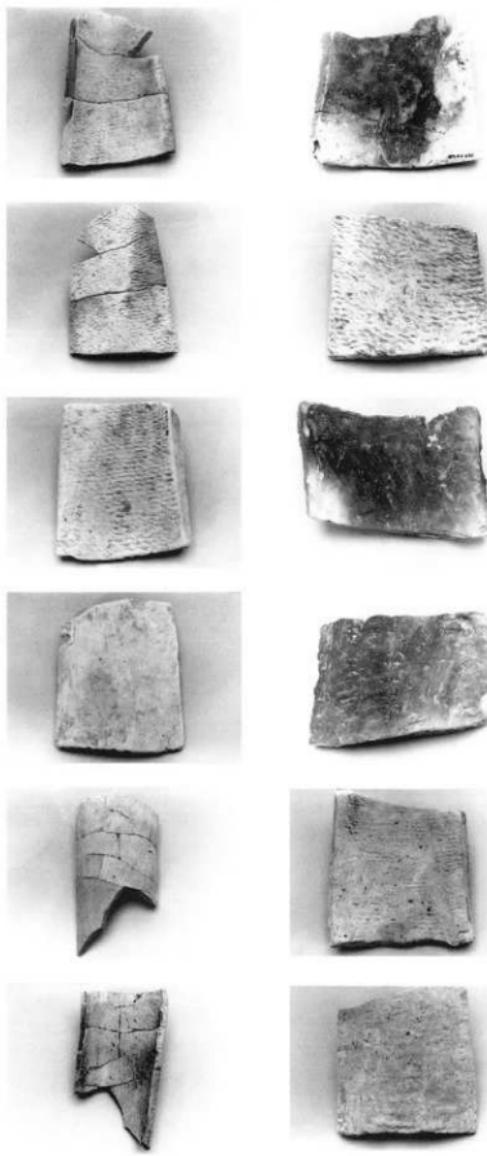
図版10 出土瓦④



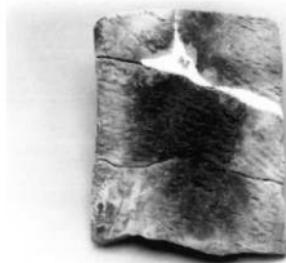
圖版11 出土瓦⑤



図版12 出土瓦⑥



図版13 出土瓦⑦



图版14 出土瓦⑧

報告書抄録

ふりがな	したむらようせきぐんほうこくしょ II						
書名	下村窯跡群報告書 II						
副書名	〈遺物編〉						
巻次							
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第72集						
編集者名	竹中 克繁						
編集機関	宮崎市教育委員会						
所在地	〒880-0805 宮崎県宮崎市橋通東1丁目14番20号 TEL (0985) 25-2111						
発行年月日	2008年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 °'\"	東経 °'\"	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
下村窯跡群	宮崎県宮崎市 佐土原町 東上那珂	45201 11-005	32° 2' 10" 付近	131° 26' 2" 付近	1991.7.1 1992.9.18	19,900	ゴルフ場建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
下村窯跡群	窯跡	古代	窯	須恵器 瓦			

宮崎市文化財調査報告書 第72集

下村窯跡群報告書 II

〈遺物編〉

2008年3月

発行 宮崎市教育委員会